

松江市 男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

令和3年1月

松江市



目 次

第1章 調査概要	1
第2章 調査結果	2
2 - 1 総括分析	2
2 - 2 回答者の属性	4
2 - 3 男女平等意識について (問1・問1-2・問2・問3・問3-2)	8
2 - 4 女性と仕事について (問4・問5・問5-2)	72
2 - 5 仕事、生活、地域・個人の生活について (問6・問7・問8)	85
2 - 6 男女の人権について (問9・問10・問11・問12)	116
2 - 7 松江市への要望について (問13)	128
資料 調査票	

第1章 調査概要

1 目的

男女共同参画に関する市民の意識、実態を把握し、今後の男女共同参画社会推進に向けた施策を充実させるとともに、令和3年度に策定予定の次期松江市男女共同参画計画の基礎資料とする。

2 調査対象

松江市内在住の満18歳以上の男女から無作為に2,000人を抽出

3 調査期間

令和2年8月28日(金)～令和2年9月25日(金) (返送×切)

※×切以降到着分については令和2年10月8日(木)到着分までを集計対象とした

4 調査の方法

郵送配布、郵送回収

5 回収結果

総回収数 : 910件 (総回収率 : 45.5%)

有効回答数 : 907件 (有効回答率 : 45.4%)

6 報告書の見方

- (1) nは回答者数を表す。
- (2) 回答は少数点第2位を四捨五入したため、構成比の合計が100%にはならない場合がある。
- (3) 「全体」には性別未回答者および年代無回答者の数を含むため男女別・年代別の合計とは一致しない場合がある。
- (4) 「H27松江市調査」とは、平成27年度に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」、「H22松江市調査」とは平成22年度実施の「男女共同参画に関する市民意識調査」をいう。
- (5) 「R1島根県調査」とは、令和元年度に島根県政策企画局女性活躍推進課にて実施された「男女共同参画に関する県民の意識・実態調査」、「R1内閣府調査」とは、令和元年度に内閣府男女共同参画局にて実施の「男女共同参画に関する世論調査」をいう。

第2章 調査結果

2-1. 総括分析

【回答者の属性(p4)】～単独世帯・核家族世帯、高齢化の影響が反映～

- ・回答者の性別は、男性45.0%、女性53.7%。年代は、60歳代以上が(計)49.6%と約半数を占める。就労形態は、「無職・学生・家事専業」が36.2%、「常勤」が35.5%である。世帯は、「親子2世代世帯」が44.4%と4割を占め、次いで「夫婦のみ世帯」が28.0%、「一人暮らし世帯」が12.6%である。

【男女平等意識(p8)】～社会全体では「男性が優遇」と考える方が約7割～

- ・社会全体では、「男性が優遇」(計:75.2%)と7割の方が男性の優遇を感じている。H27松江市調査結果(計:79.7%)と比較すると4.5ポイント減少しているが、依然として7割以上の方が男性の優遇を感じている。特に、「政治の場」(計:76.8%)、「社会通念、慣習、しきたり」(計:75.3%)について、7割の方が男性の優遇を感じている。一方、「学校教育の場」では、「平等」と回答した方が65.9%で、50歳代以下の年代では7割以上が平等と感じている。

【性別役割分担意識(p30)】

～「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」には約7割が否定的～

- ・典型的な性別役割分担意識「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えについて否定的な回答は(計)74.7%。H27松江市調査結果(計:66.4%)と比較すると8.3ポイント増加している。年代別でみると20歳代は(計)94.8%が否定的であるが、80歳代以上は(計)47.0%と年代によって意識の差が生じている。
- ・「男性も育児休業や介護休業を取得すべきだ」という考えについて肯定的な意見が(計)82.8%。H27松江市調査(計:76.2%)と比較すると6.6ポイント増加しており、男性の育児・介護への参加意識が高まっていることがうかがえる。

【市の政策への女性の意見の反映(p66)】

～5割は反映されていると感じる一方、3割は反映されていないと感じる～

- ・5割の方が市の政策へ女性の意見が反映されている(計:52.6%)と感じている一方で3割の方は反映されていない(計:36.1%)と感じている。特に、60歳代・70歳代の方が反映されていないと感じている方が多い。
- ・反映されていないと回答した主な理由は、「政策・方針決定の場に女性が少ない」が35.8%、「市議会や行政機関の関心が薄い」が24.8%である。

【女性と仕事 (p72)】～女性が働き続けにくい状況と考える方は約6割～

- ・女性が仕事をするについて、「子供ができてもずっと仕事を続ける方がよい(就労継続型)」が51.2%、「子供が大きくなったら再び仕事に就く方がよい(中断・再就労型)」が25.5%となっている。H22 松江市調査では、就労継続型：37.3%、中断・再就労型：41.8%と女性が仕事をするについての考え方が変化している。
- ・女性が働き続ける状況について、働き続けにくいと回答した方が(計)59.7%と約6割の方が働き続けにくい状況であると感じている。
- ・働き続けにくいと回答した主な理由は、「育児施設が十分でない」が60.1%、「不安定な雇用形態が多い」が52.8%である。

【仕事、生活、地域・個人の生活について (p85)】～家事の多くは妻が担当～

- ・男性は「仕事を優先している」(27.5%)、女性は「家庭を優先している」(33.7%)がそれぞれ最も多く回答されている。また、年代別にみると有職者の多い50歳代以下では「仕事」、60歳代以上では「家庭」を優先している傾向となっており、年代、性別によって優先する項目に差が生じていることがわかる。
- ・家庭内での役割分担のうち、家事は「妻がすることが多い」の回答が高く。特に、「食事のしたく」が83.5%「食事のかたづけ」が71.2%と食事に関する項目は7割以上を占める。「夫がすることが多い」、「妻と夫が同じ程度する」の回答も増加傾向ではあるが、依然、妻の負担が大きいことがわかる。
- ・男性が家庭内の役割を担っていく上で、必要なこととしては「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が61.4%と最も高い。

【男女の人権について (p116)】～DV防止法、男女共同参画は7割が認知～

- ・DVについて、「知っている」と回答した方は59.4%、「直接経験」が6.7%。
- ・セクハラについて、「知っている」と回答した方は55.1%、「直接経験」した方が8.5%。特に20歳代女性は32.1%が経験したことがあると回答しており、約3人に1人がセクハラの被害を受けたことがある。
- ・DVに関する相談窓口では「松江保健所」が31.5%と最も多くなっている。
- ・用語の認知度については、「DV防止法」が(計)79.7%、「男女共同参画」が(計)79.4%とそれぞれ7割以上が認知している。

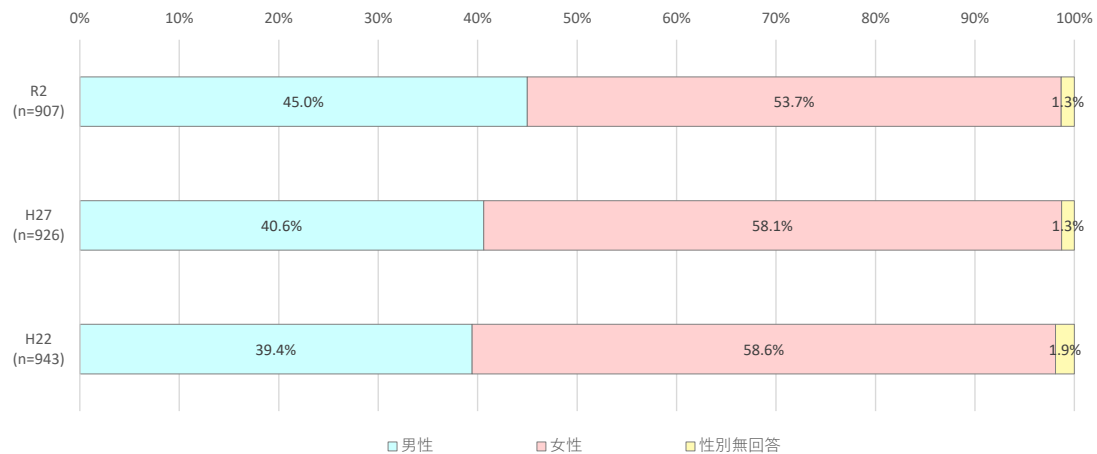
【松江市への要望 (p128)】～介護・育児支援への要望が多い～

- ・「介護サービスの充実」が59.4%と最も高く、次いで「育児休業制度の充実・労働環境の整備」が58.8%となっている。回答の多かった上位6項目については、いずれも介護・育児に関する意見となっている。

2-2. 回答者の属性 (F1~F5)

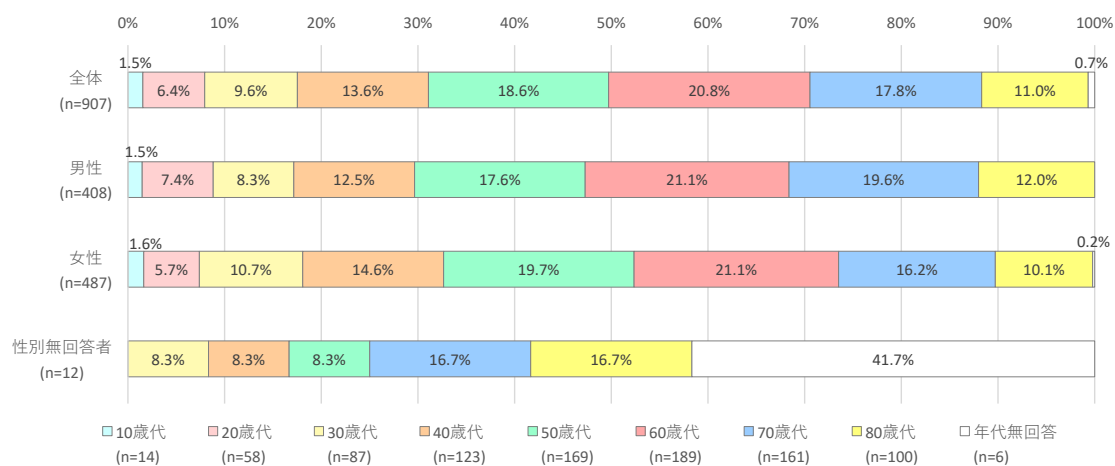
F1. 性別

- ・性別については、男性(45.0%)、女性(53.7%)と女性の割合が上回った。
- ・H22 松江市調査(男性：39.4%、女性58.6%)、H27 松江市調査(男性：40.6%、女性：58.1%)と比較すると、男性からの回答割合が増加している。



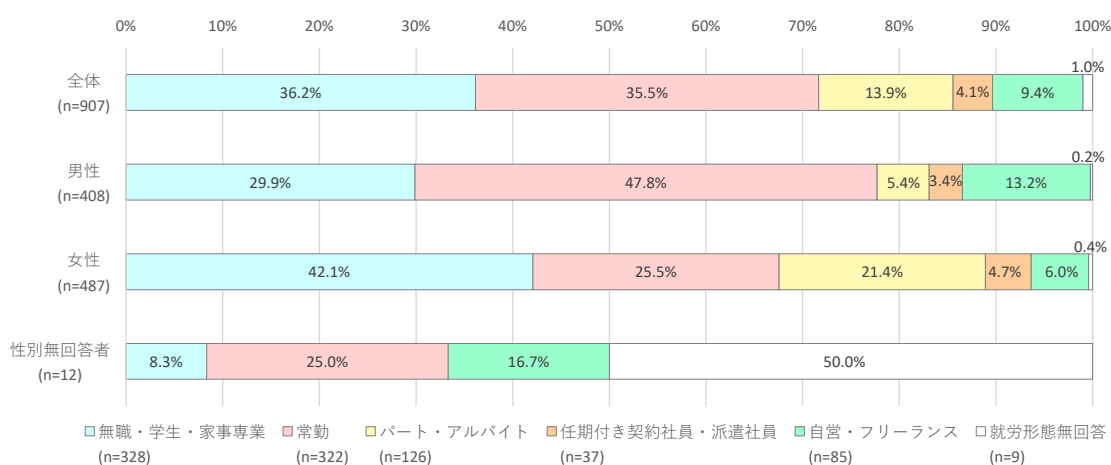
F2. 年代

- ・年代については、60歳代(20.8%)、70歳代(17.8%)、80歳代(11.0%)と60歳代以上(計：49.6%)からの回答が約半数を占めている。



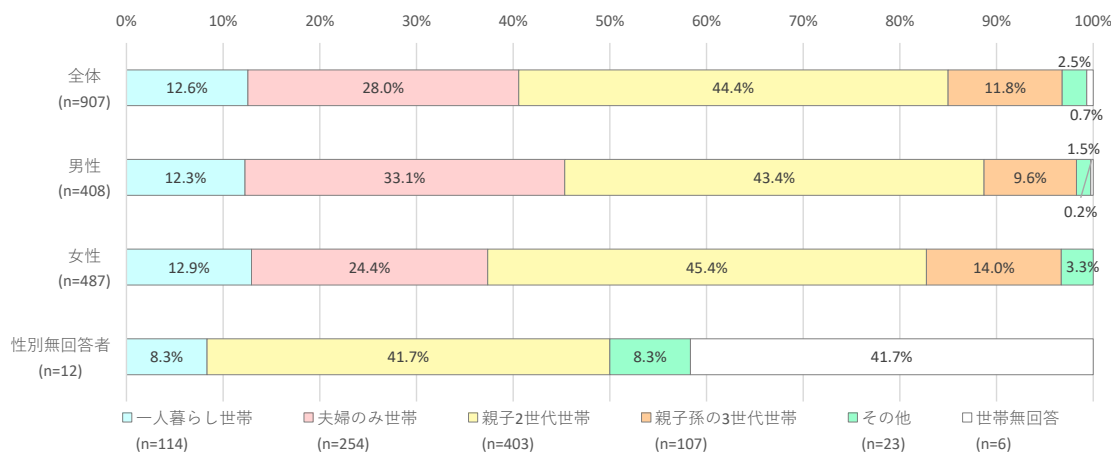
F3. 就労形態

- ・ 男性は、「常勤」(47.8%)が最も高く、次いで「無職・学生・家事専業」(29.9%)となっている。一方、女性は、「無職・学生・家事専業」(42.1%)、「常勤」(25.5%)、「パート・アルバイト」(21.4%)の順に高くなっている。
- ・ 就労形態別の男女差については、常勤(男性：47.8%、女性25.5%)が22.3ポイントの差がある。(男女別の差が一番大きい)
- ・ 有業者(常勤+パート・アルバイト+任期付き契約社員・派遣社員+自営・フリーランス)は、男性は(計)69.8%に対して女性は(計)57.6%で12.2ポイントの差があることがわかる。



F4. 世帯

- ・ 世帯については、「親子2世代世帯」(44.4%)が最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」(28.0%)であった。



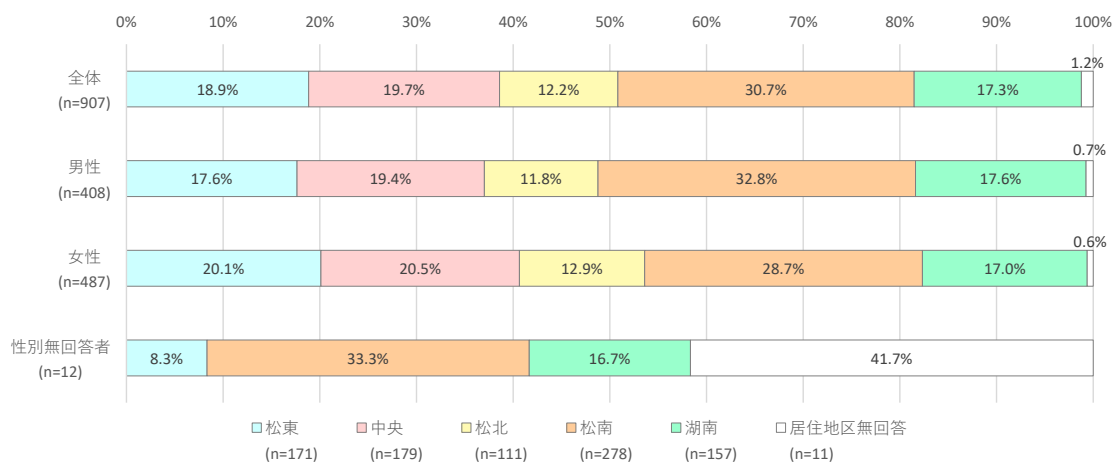
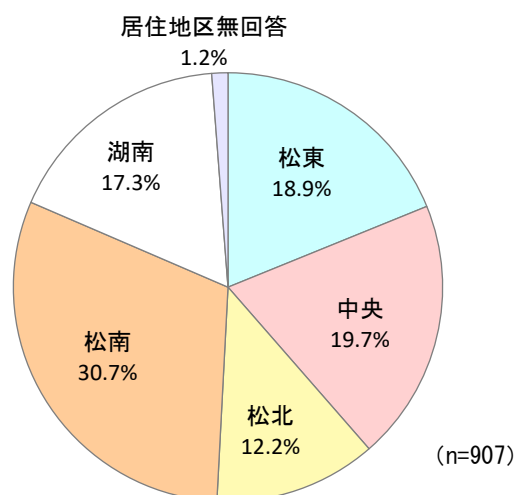
F5. 居住地区

※居住地区については、回答していただいた 29 地区を下記の表の通り 5 ブロックに分類し集計した。

- ・居住地区は、「松南」(30.7%)からの回答が最も高くなっている。
- ・男女別にみると、「松東」「中央」「松北」では女性の回答割合が男性を上回っている。

居住地区	【ブロック名】	【地区名】
	松東	(7地区) 川津・朝酌・持田・本庄・島根・美保関・八束
	中央	(6地区) 城東・城北・城西・白湯・朝日・雑賀
	松北	(6地区) 法吉・生馬・古江・大野・秋鹿・鹿島
	松南	(6地区) 津田・古志原・竹矢・大庭・八雲・東出雲
	湖南	(4地区) 乃木・忌部・玉湯・宍道
	居住地区無回答	

[ブロック名]	実数	割合
松東	171	18.9%
中央	179	19.7%
松北	111	12.2%
松南	278	30.7%
湖南	157	17.3%
居住地区無回答	11	1.2%
合計	907	100.0%



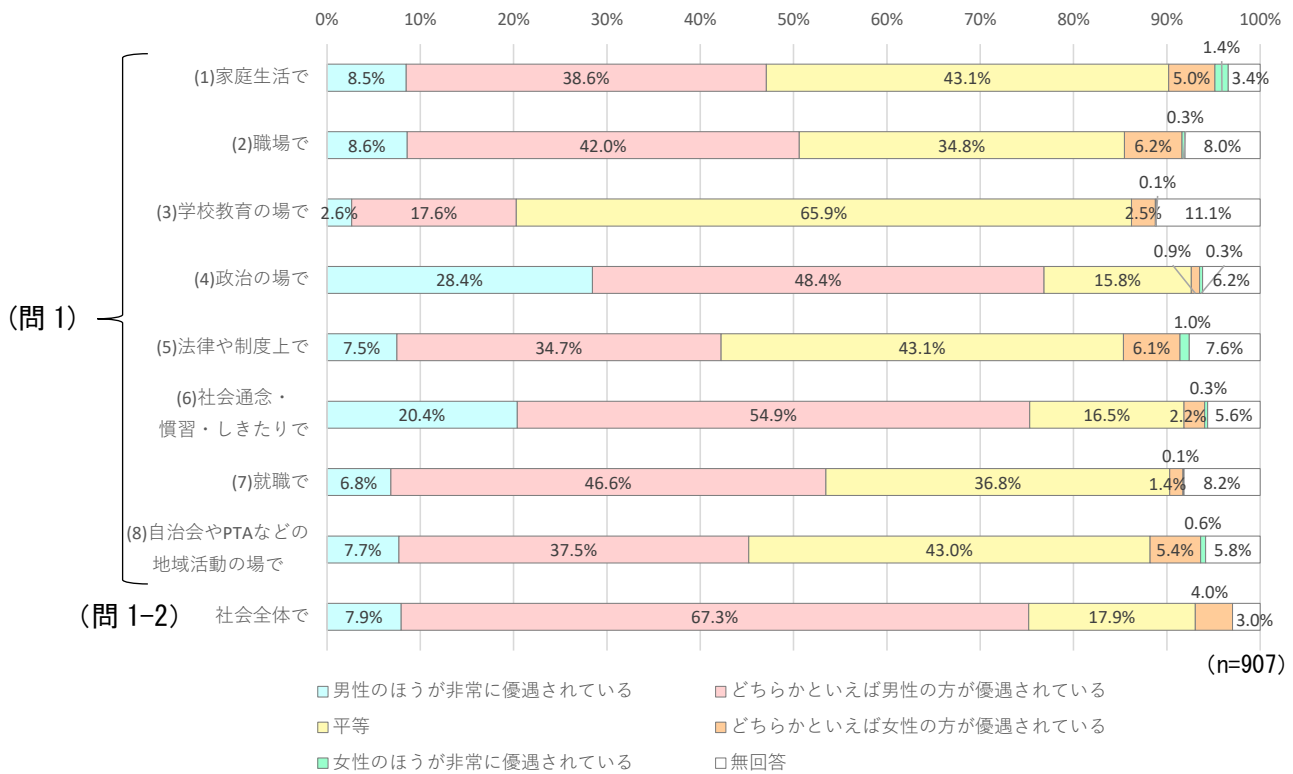
●回答者の属性集計表 (F1～F5)

		人数 (人)				割合 (%)		
		男性	女性	性別 無回答者	計	男性	女性	性別 無回答者
性別		408	487	12	907	45.0	53.7	1.3
年代	10歳代	6	8		14	1.5	1.6	0.0
	20歳代	30	28		58	7.4	5.7	0.0
	30歳代	34	52	1	87	8.3	10.7	8.3
	40歳代	51	71	1	123	12.5	14.6	8.3
	50歳代	72	96	1	169	17.6	19.7	8.3
	60歳代	86	103		189	21.1	21.1	0.0
	70歳代	80	79	2	161	19.6	16.2	16.7
	80歳代以上	49	49	2	100	12.0	10.1	16.7
	年代無回答		1	5	6	0.0	0.2	41.7
就労 形態	無職・学生・家事専業	122	205	1	328	29.9	42.1	8.3
	常勤	195	124	3	322	47.8	25.5	25.0
	パート・アルバイト	22	104		126	5.4	21.4	0.0
	任期付き契約社員・派遣社員	14	23		37	3.4	4.7	0.0
	自営・フリーランス	54	29	2	85	13.2	6.0	16.7
	就労形態無回答	1	2	6	9	0.2	0.4	50.0
世帯	一人暮らし世帯	50	63	1	114	12.3	12.9	8.3
	夫婦のみ世帯	135	119		254	33.1	24.4	0.0
	親子2世代世帯	177	221	5	403	43.4	45.4	41.7
	親子孫の3世代世帯	39	68		107	9.6	14.0	0.0
	その他	6	16	1	23	1.5	3.3	8.3
	世帯無回答	1		5	6	0.2	0.0	41.7
居住 地域	城東地区	19	15		34	4.7	3.1	0.0
	城北地区	21	34		55	5.1	7.0	0.0
	城西地区	15	34		49	3.7	7.0	0.0
	白潟地区	6	3		9	1.5	0.6	0.0
	朝日地区	7	5		12	1.7	1.0	0.0
	雑賀地区	11	9		20	2.7	1.8	0.0
	津田地区	30	33	1	64	7.4	6.8	8.3
	古志原地区	30	20		50	7.4	4.1	0.0
	川津地区	27	34		61	6.6	7.0	0.0
	朝酌地区		8		8	0.0	1.6	0.0
	法吉地区	18	24		42	4.4	4.9	0.0
	竹矢地区	17	17	1	35	4.2	3.5	8.3
	乃木地区	37	40	1	78	9.1	8.2	8.3
	忌部地区	2	4		6	0.5	0.8	0.0
	大庭地区	14	21	1	36	3.4	4.3	8.3
	生馬地区	7	11		18	1.7	2.3	0.0
	持田地区	9	17		26	2.2	3.5	0.0
	古江地区	6	17		23	1.5	3.5	0.0
	本庄地区	1	9		10	0.2	1.8	0.0
	大野地区	1	2		3	0.2	0.4	0.0
	秋鹿地区	2	3		5	0.5	0.6	0.0
	鹿島地区	14	6		20	3.4	1.2	0.0
	島根地区	10	10		20	2.5	2.1	0.0
	美保関地区	17	7	1	25	4.2	1.4	8.3
	八雲地区	14	16	1	31	3.4	3.3	8.3
	玉湯地区	13	11		24	3.2	2.3	0.0
	宍道地区	20	28	1	49	4.9	5.7	8.3
八束地区	8	13		21	2.0	2.7	0.0	
東出雲地区	29	33		62	7.1	6.8	0.0	
居住地域無回答	3	3	5	11	0.7	0.6	41.7	

2-3. 男女平等意識について

問 1. 各分野における男女の地位の平等感

- ・男女の平等感について、「平等」と回答した方の割合が最も高い分野は、「(3) 学校教育の場で」(65.9%)、次いで「(1) 家庭生活上で」(43.1%)、「(5) 法律や制度上で」(43.1%)となっている。
- ・男性の優遇感(非常に優遇されている+どちらかといえば優遇されている)が最も高いのは「(4) 政治の場で」(計：76.8%)、次いで「社会通念・慣習・しきたりで」(計：75.3%)となっている。



(1) 家庭生活で

●「平等」と回答した方(43.1%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(52.2%)に対して女性(35.5%)と男性の方が16.7ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、全体(43.1%)よりも40歳代以下はそれぞれ回答割合が高くなっている。
- ・年代別の男女差については、40歳代の意識の差(27.5ポイント)が最も大きくなっている。(男性：62.7%、女性：35.2%)

●「男性の方が優遇されている」と回答した方(計：47.1%)について

<男女別・年代別>

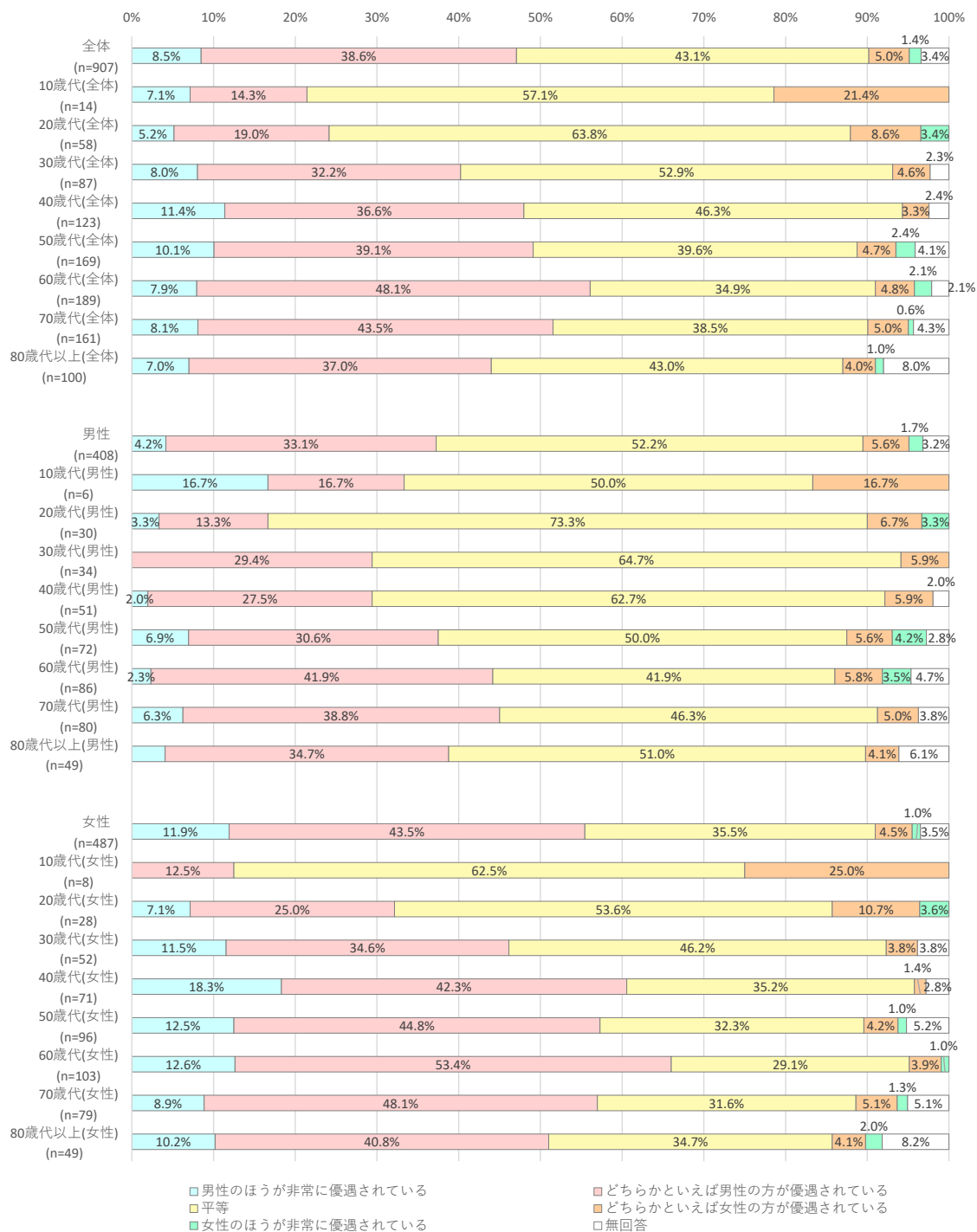
- ・男女の回答を比較すると、男性(計：37.3%)に対して女性(計：55.4%)と女性の方が18.1ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、60歳代(計：56.0%)が最も高く、次いで70歳代(計：51.6%)となっている。一方、10歳代(計：21.4%)、20歳代(計：24.2%)は他の年代と比べて低い割合となっている。
- ・年代別の男女差については、40歳代の意識の差(31.0ポイント)が最も大きくなっている。(男性(計)：29.5%、女性(計)：60.5%)

●「女性の方が優遇されている」と回答した方(計：6.4%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(計：7.3%)に対して女性(計：5.5%)と男性の方が1.8ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、30歳代以上はそれぞれ1割未満の回答となっている。一方、10歳代(計：21.4%)、20歳代(計：12.0%)は他の年代と比べて高い割合となっている。

<男女別・年代別>



(2) 職場で

●「平等」と回答した方(34.8%)について

<男女別・年代別>

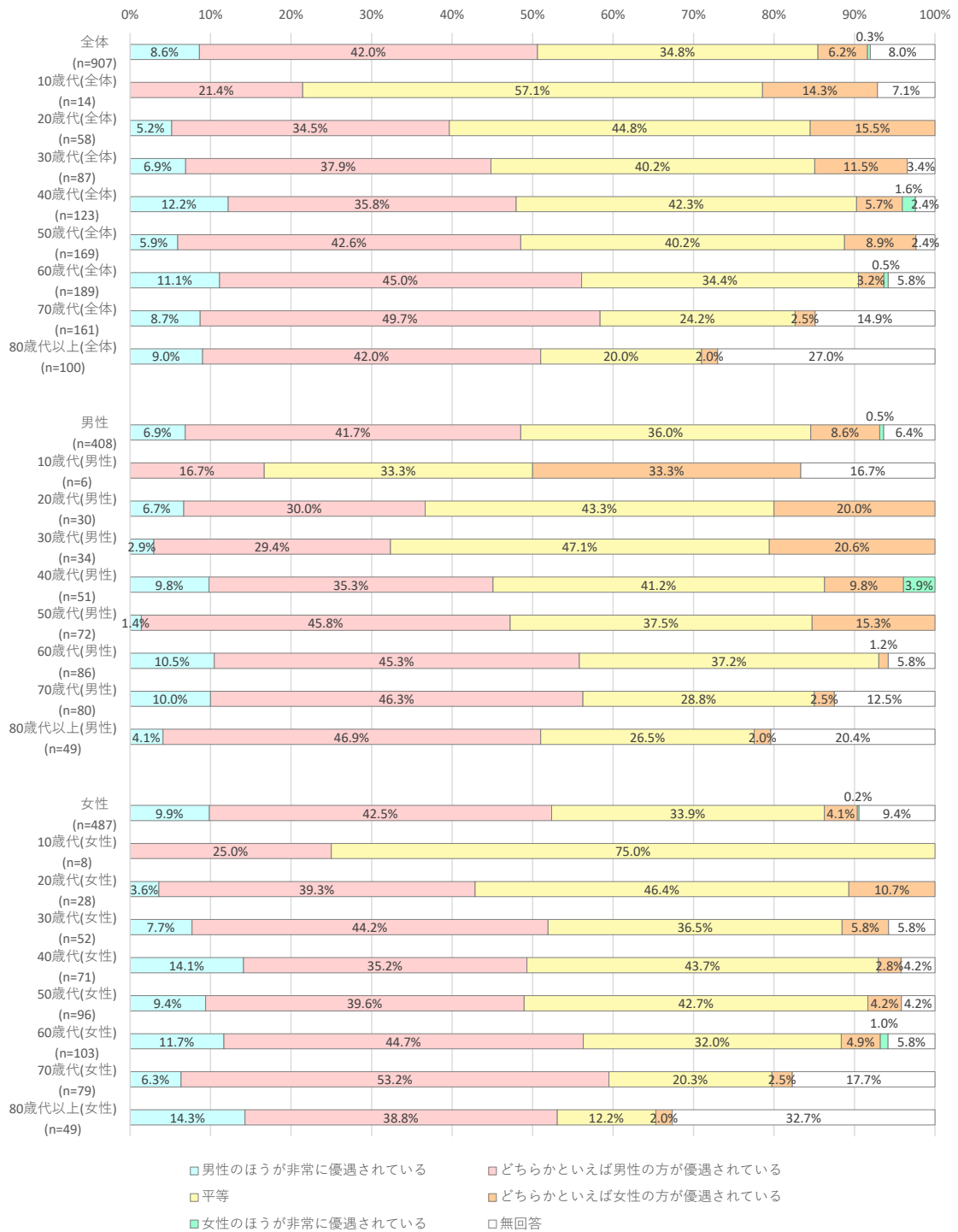
- ・男女の回答を比較すると、男性(36.0%)に対して女性(33.9%)と男性の方が2.1ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、全体(34.8%)よりも50歳代以下はそれぞれ回答割合が高くなっている。
一方で、男女ともに高齢層の回答は少なく、特に80歳代以上(20.0%)の割合が低くなっている。

●「男性の方が優遇されている」と回答した方(計：50.6%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(計：48.6%)に対して女性(計：52.4%)と女性の方が3.8ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、全体(計：50.6%)よりも、60歳代以上の回答割合は高くなっていることがわかる。特に、70歳代(男性(計)：56.3%、女性(計)：59.5%)の割合が高くなっている。
- ・年代別の男女差については、30歳代の意識の差(19.6ポイント)が最も大きくなっている。(男性(計)：32.3%、女性(計)：51.9%)

<男女別・年代別>



(3) 学校教育の場で

●「平等」と回答した方(65.9%)について

<男女別・年代別>

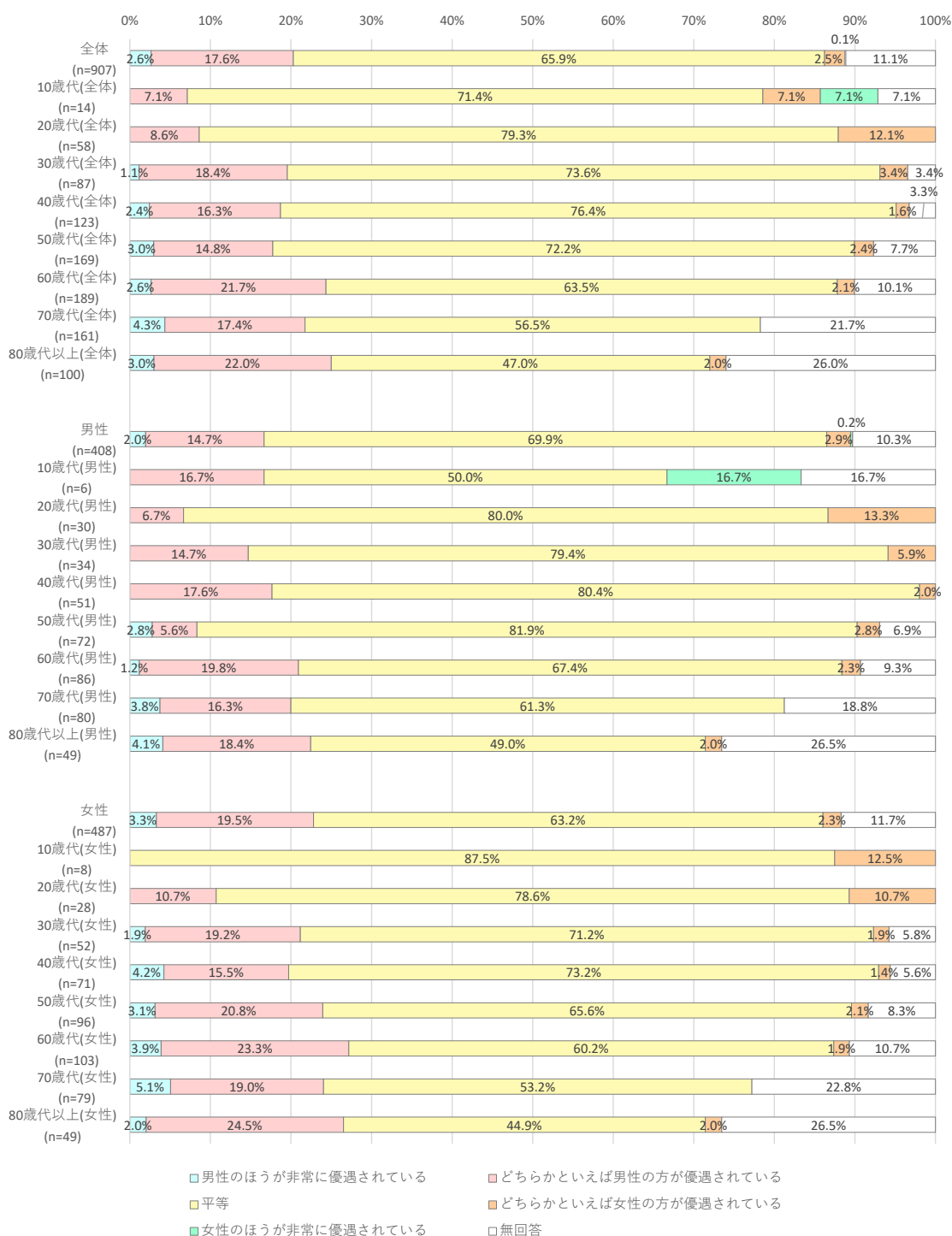
- ・男女の回答を比較すると、男性(69.9%)に対して女性(63.2%)と男性の方が6.7ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、全体(65.9%)よりも50歳代以下はそれぞれ回答割合が高くなっている。
一方で、80歳代以上(47.0%)の割合が最も低くなっている。

●「男性の方が優遇されている」と回答した方(計：20.2%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(計：16.7%)に対して女性(計：22.8%)と女性の方が6.1ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、80歳代以上(計：25.0%)が最も高く、次いで60歳代以上(計：24.3%)となっている。一方で、10歳代(計：7.1%)、20歳代(計：8.6%)は他の年代よりも割合が低くなっている。

<男女別・年代別>



(4) 政治の場で

●「平等」と回答した方(15.8%)について

<男女別・年代別>

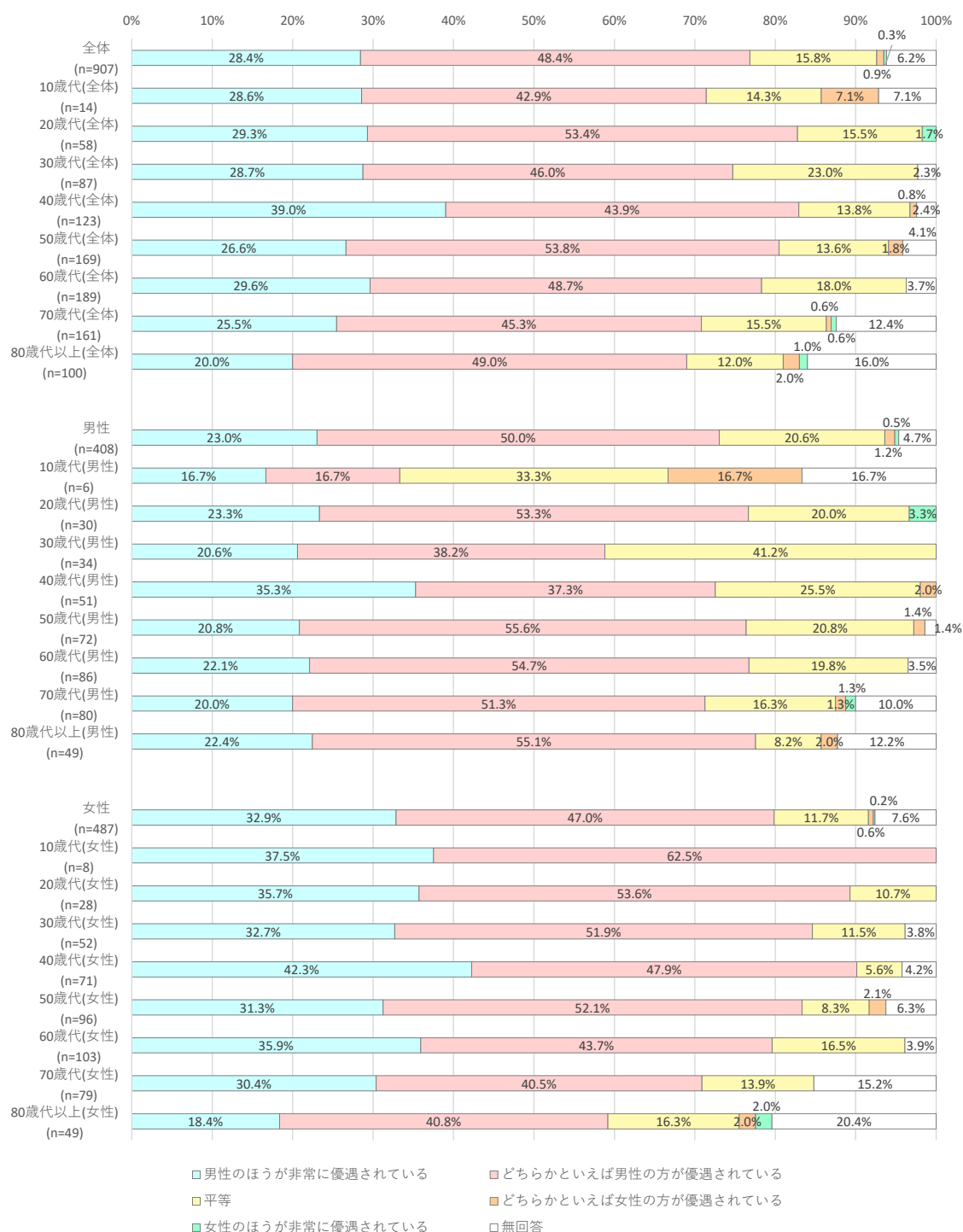
- ・男女の回答を比較すると、男性(20.6%)に対して女性(11.7%)と男性の方が8.9ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、男性は30歳代(41.2%)、女性は60歳代(16.5%)からの回答が最も高くなっていることがわかる。

●「男性の方が優遇されている」と回答した方(計：76.8%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(計：73.0%)に対して女性(計：79.9%)と女性の方が6.9ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、40歳代(計：82.9%)が最も高い割合となっている。特に、女性は50歳代以下の年代ではそれぞれ8割以上を占めていることがわかる。

<男女別・年代別>



(5) 法律や制度上で

●「平等」と回答した方(43.1%)について

<男女別・年代別>

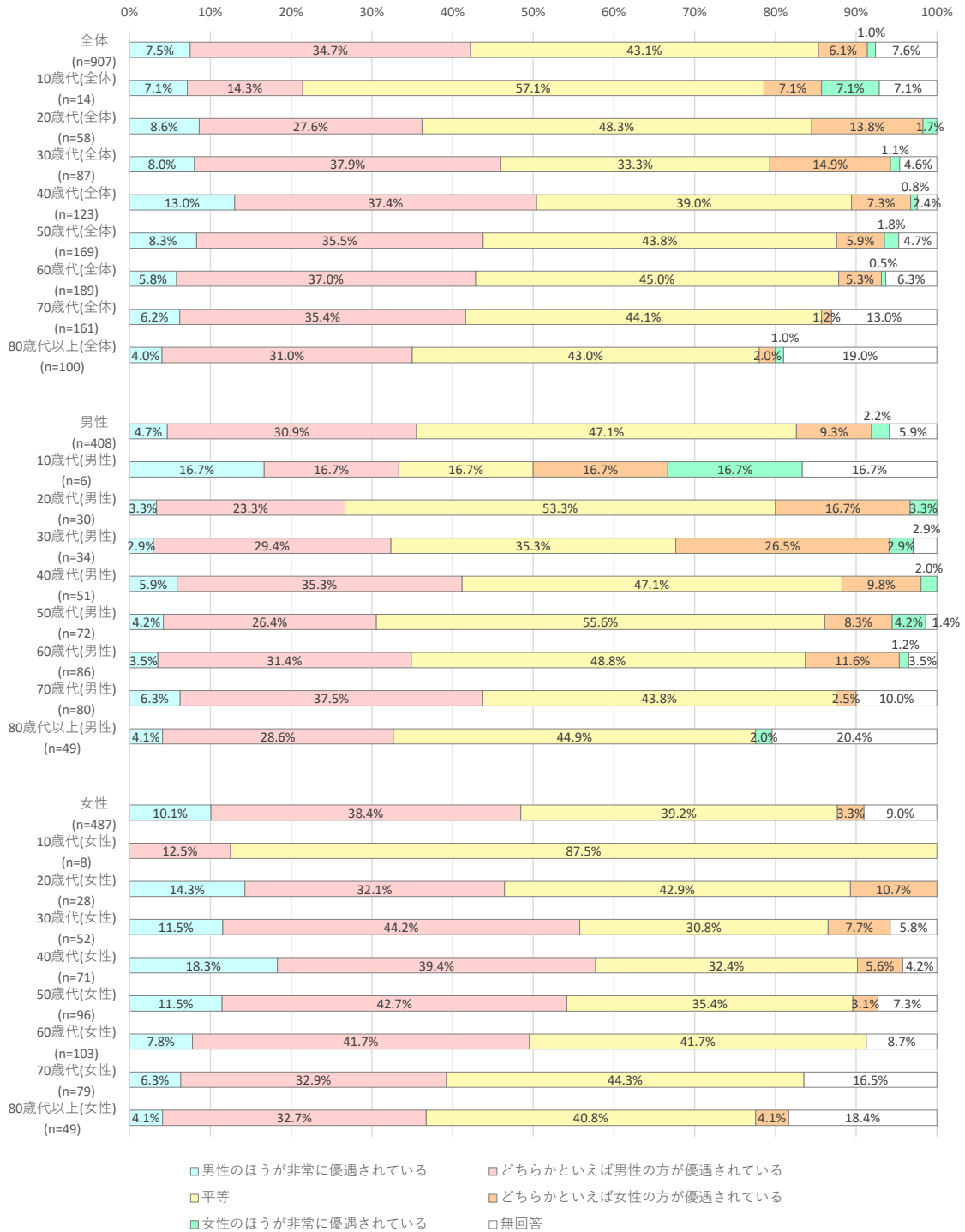
- ・男女の回答を比較すると、男性(47.1%)に対して女性(39.2%)と男性の方が7.9ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、10歳代(57.1%)が最も高く、次いで20歳代(48.3%)となっている。

●「男性の方が優遇されている」と回答した方(計：42.2%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(計：35.6%)に対して女性(計：48.5%)と女性の方が12.9ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、全体(計：42.2%)よりも30歳代～60歳代はそれぞれ高い割合となっており、特に40歳代(計：50.4%)が最も高くなっている。
- ・年代別の男女差については、50歳代の意識の差(23.6ポイント)が最も大きくなっている。(男性(計)：30.6%、女性(計)：54.2%)

<男女別・年代別>



(6) 社会通念・慣習・しきたりで

●「平等」と回答した方(16.5%)について

<男女別・年代別>

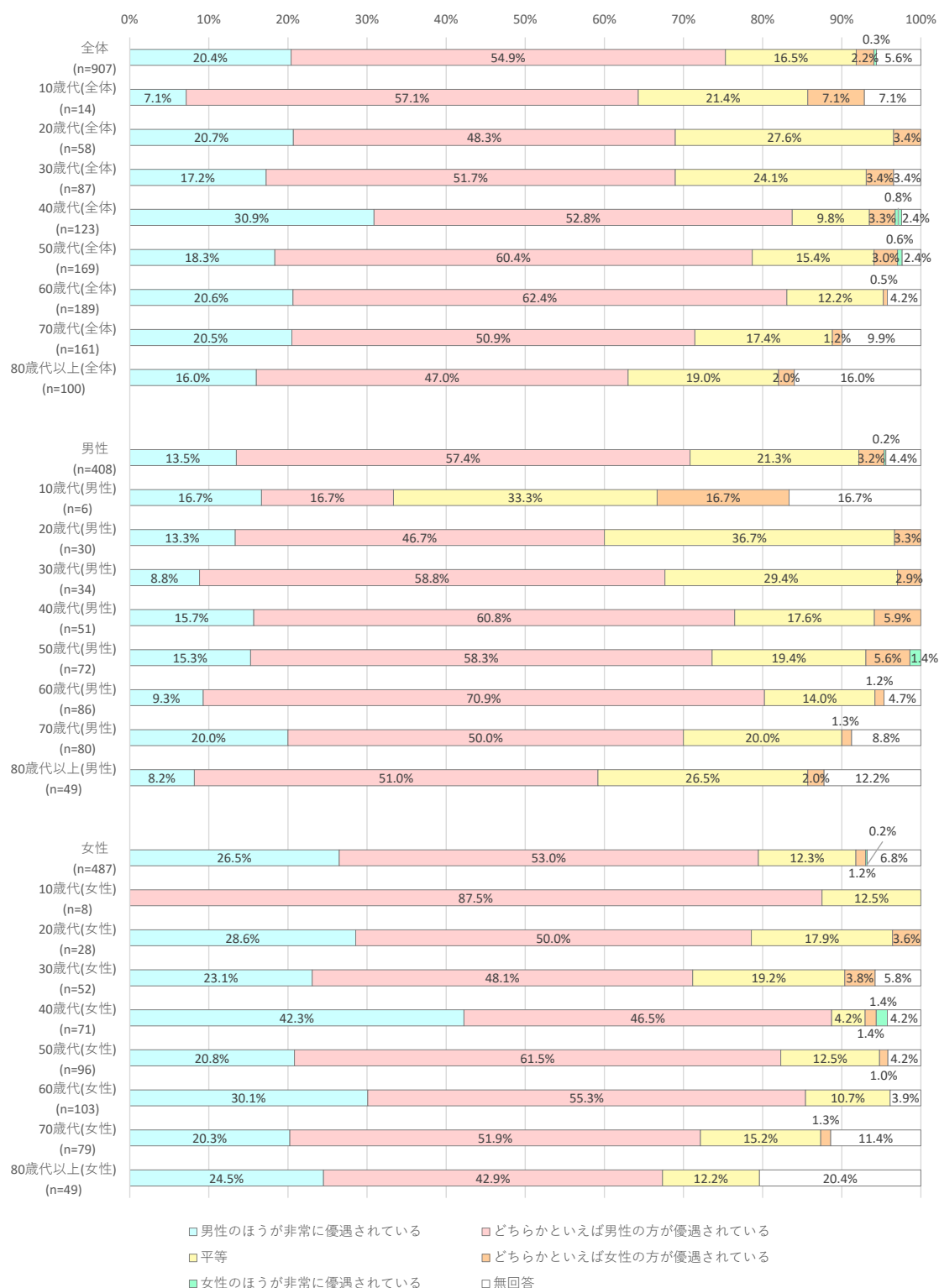
- ・男女の回答を比較すると、男性(21.3%)に対して女性(12.3%)と男性の方が9.0ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、全体(16.5%)よりも10歳代~30歳代、70歳代、80歳代以上は回答割合が高く、特に男性の若年層(10歳代：33.3%、20歳代：36.7%、30歳代：29.4%)が高い割合となっている。

●「男性の方が優遇されている」と回答した方(計：75.3%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(計：70.9%)に対して女性(計：79.5%)と女性の方が8.6ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、40歳代(計：83.7%)が最も高くなっている。
また、男性は60歳代(計：80.2%)が最も高く、女性は40歳代(計：88.8%)が最も高くなっている。

<男女別・年代別>



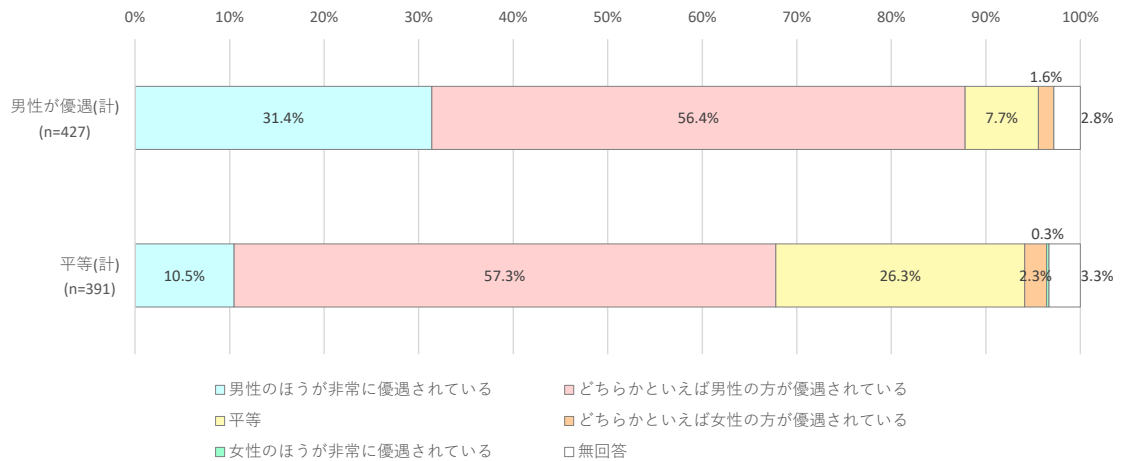
●「家庭生活での平等感」との関係性について (問1(1))

- ・家庭生活の分野で「男性の方が優遇されている」「平等」とそれぞれ回答した方がこの「社会通念・慣習・しきたり」でも男性の優遇感が高くなっている。
(家庭で男性優遇(計)：87.8%、家庭で平等(計)：67.8%)

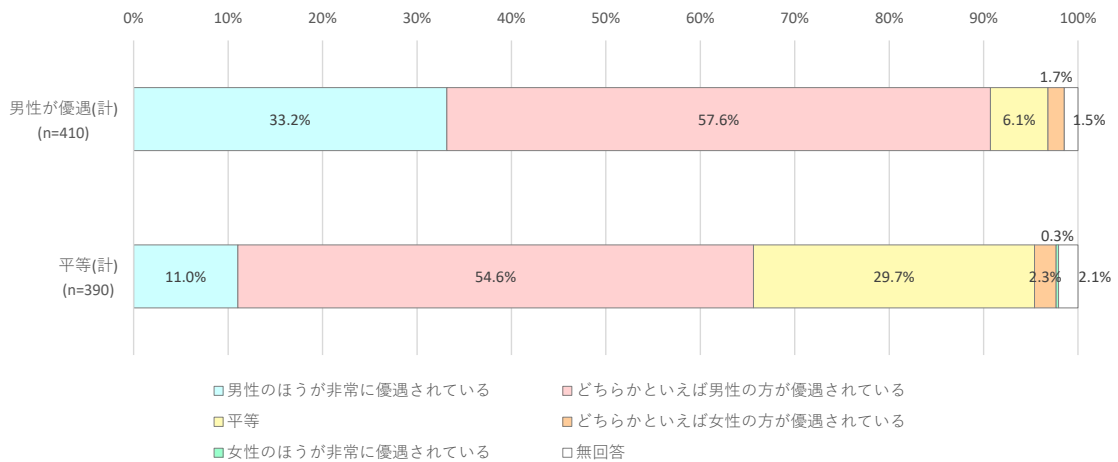
●「地域活動での平等感」との関係性について (問1(8))

- ・地域活動の分野で「男性の方が優遇されている」「平等」とそれぞれ回答した方がこの「社会通念・慣習・しきたり」でも男性の優遇感が高くなっている。
(地域活動で男性優遇(計)：90.8%、家庭で平等(計)：65.6%)

<家庭生活での平等感 (問1(1))>



<地域活動での平等感 (問1(8))>



(7) 就職で

●「平等」と回答した方(36.8%)について

<男女別・年代別>

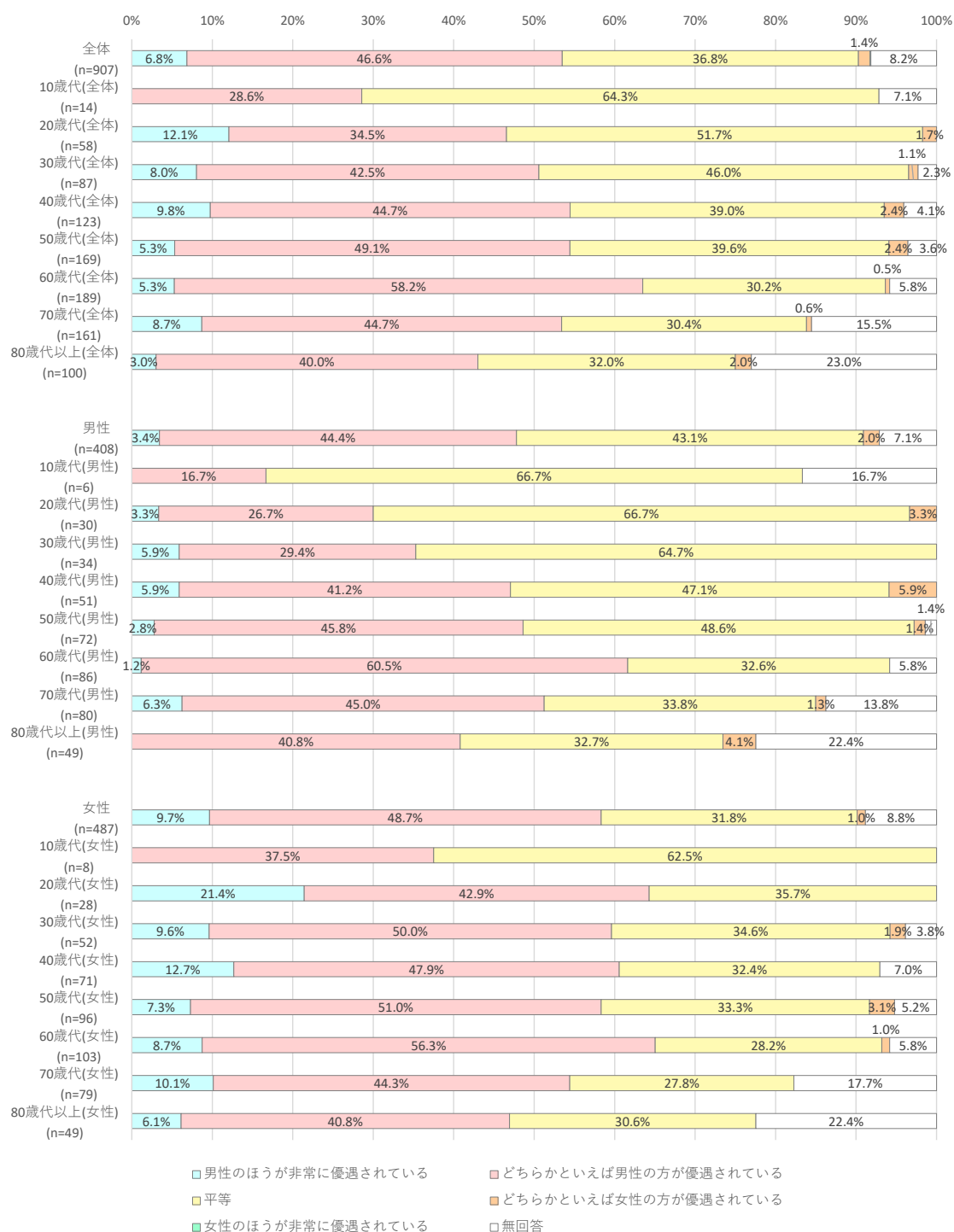
- ・男女の回答を比較すると、男性(43.1%)に対して女性(31.8%)と男性の方が11.3ポイント高い。
- ・年代別で比較すると全体(36.8%)よりも50歳代以下はそれぞれ回答割合が高くなっている。特に30歳代以下の男性は6割以上の回答となっている。

●「男性の方が優遇されている」と回答した方(計：53.4%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(計：47.8%)に対して女性(計：58.4%)と女性の方が10.6ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、60歳代(計：63.5%)が最も高くなっている。
一方、10歳代～30歳代の男性の回答は3割以下となっていることがわかる。

<男女別・年代別>



(8) 自治会やPTAなどの地域活動の場で

●「平等」と回答した方(43.0%)について

<男女別・年代別>

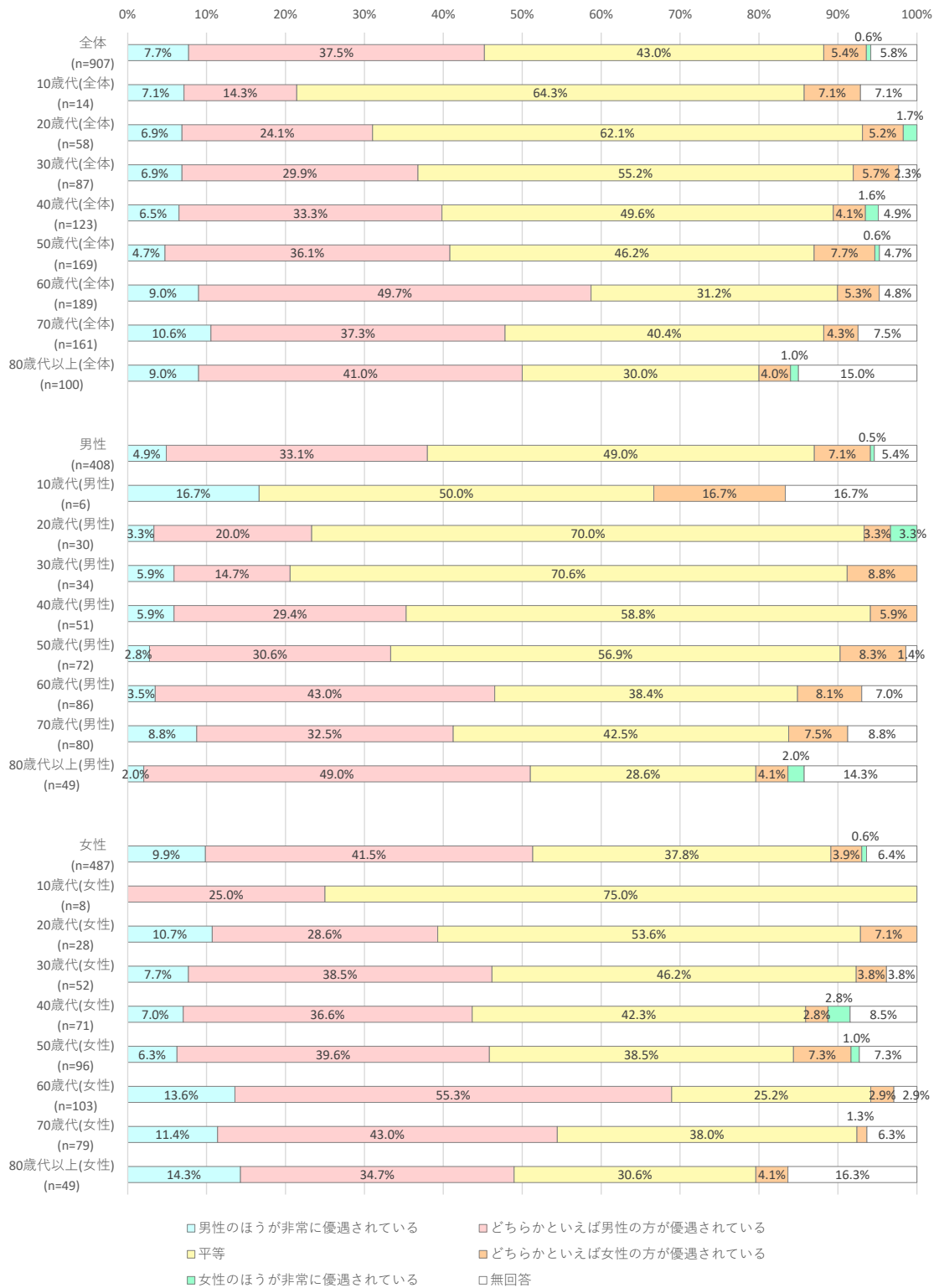
- ・男女の回答を比較すると、男性(49.0%)に対して女性(37.8%)と男性の方が11.2ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、全体(43.0%)よりも50歳代以下の回答割合がそれぞれ高くなっている。(男女ともに同様の傾向)

●「男性の方が優遇されている」と回答した方(計：45.2%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(計：38.0%)に対して女性(計：51.4%)と女性の方が13.4ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、60歳代(計：58.7%)が最も高くなっている。また、男性は80歳代(計：51.0%)、女性は60歳代(計：68.9%)が最も高くなっている。

<男女別・年代別>



問 1-2. 社会全体で見た場合の男女の地位の平等感

- ・男女の地位の平等感について、「男性の方が優遇されている」（計：75.2%）と7割以上の方が男性の優遇を感じている。

●「平等」と回答した方(17.9%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(22.1%)に対して、女性(14.2%)と男性の方が7.9ポイント高い。
- ・年代別の男女の意識の差については、10歳代(男性：33.3%、女性：25.0%)は男女差：8.3ポイント、20歳代(男性：0.0%、女性：25.0%)は男女差：25.0ポイント、30歳代(男性：38.2%、女性：11.5%)は男女差：26.7ポイント（年代別の差が一番大きい）となり、若い年代では男女の意識の差が大きい。

<経年変化>

- ・H22 松江市調査(10.3%)より7.6ポイント、H27 松江市調査(13.8%)より4.1ポイント増加していることがわかる。

<地区別>

- ・地区別に比較すると、松南(19.1%)が最も高くなっている。

<他調査との比較>

- ・R1 島根県調査(15.7%)より2.2ポイント高いが、R1 内閣府調査(21.2%)より3.3ポイント低いことがわかる。

●男性の方が優遇されていると回答した方(計：75.2%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(計：68.8%)に対して、女性(計：80.9%)と女性の方が12.1ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、男女ともに60歳代(男性(計)：78.0%、女性(計)：86.4%)が最も高くなっている。

<経年変化>

- ・H22 松江市調査(80.5%)より5.3ポイント、H27 松江市調査(79.7%)より4.5ポイント減少したが依然として7割以上を占める。

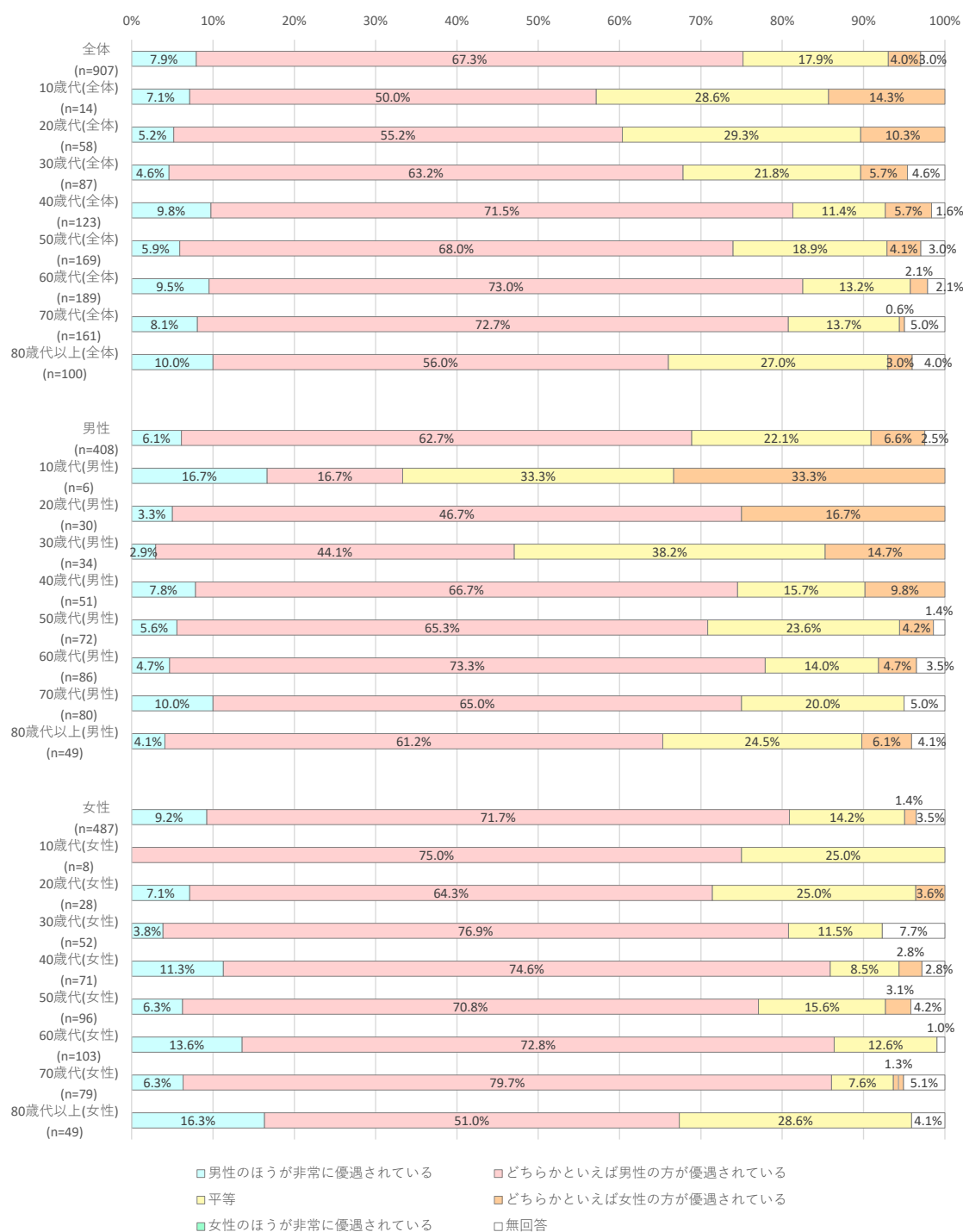
<地区別>

- ・地区別に比較すると、湖南(77.7%)が最も高くなっている。

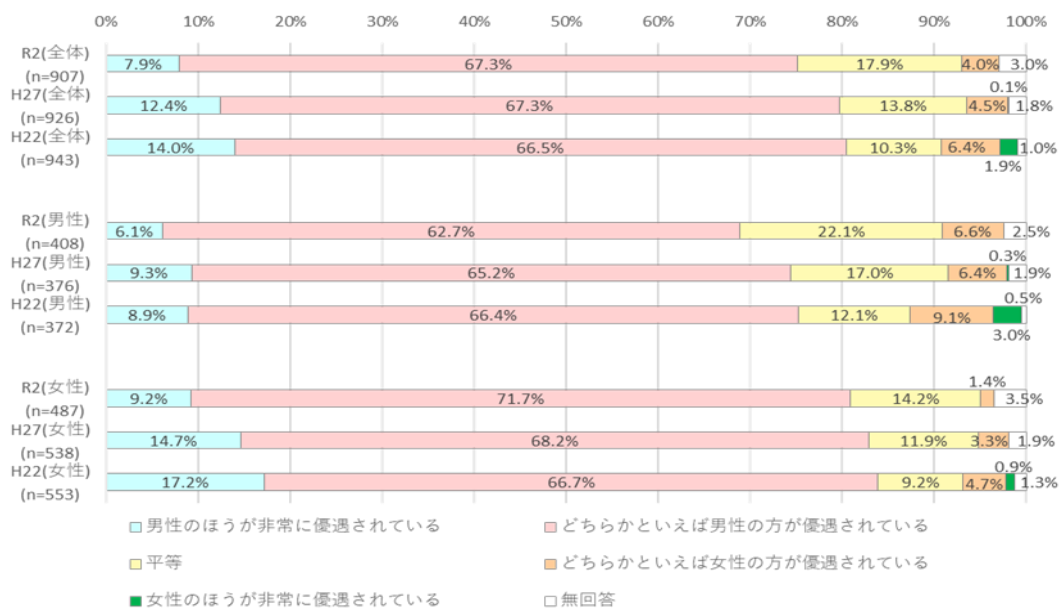
<他調査との比較>

- ・R1 島根県調査(76.3%)より1.1ポイント低いが、R1 内閣府調査(74.1%)より1.1ポイント高いことがわかる。

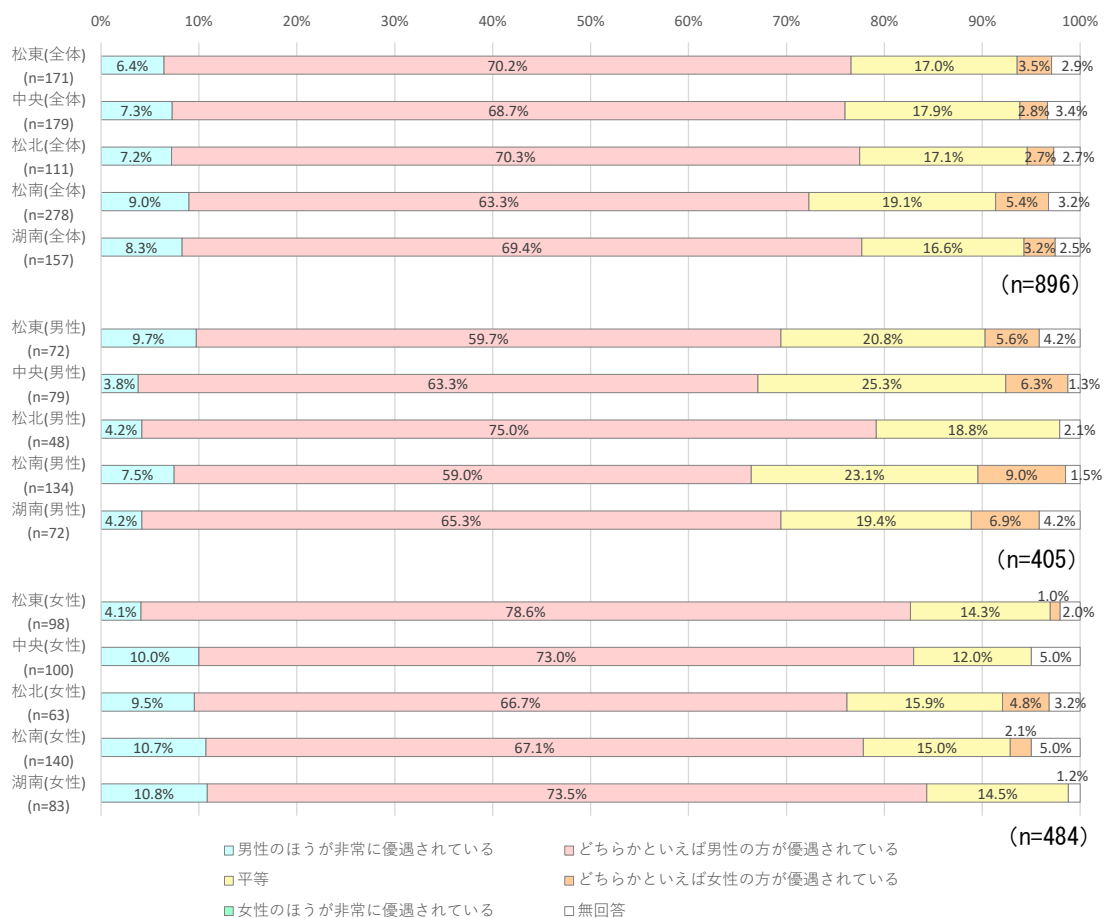
<男女別・年代別>



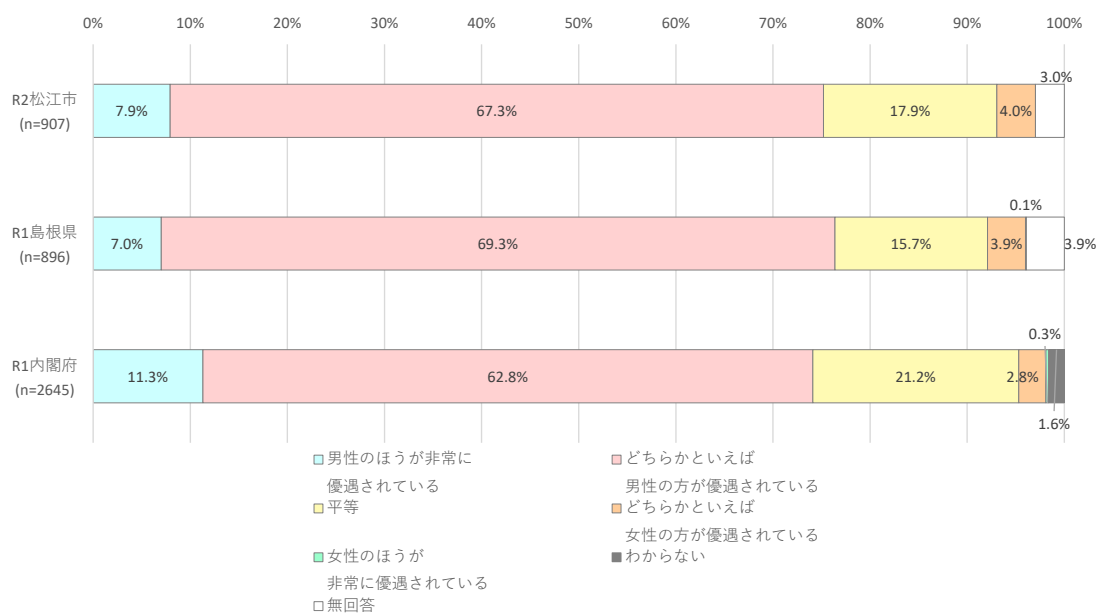
<経年変化>



<地区別>

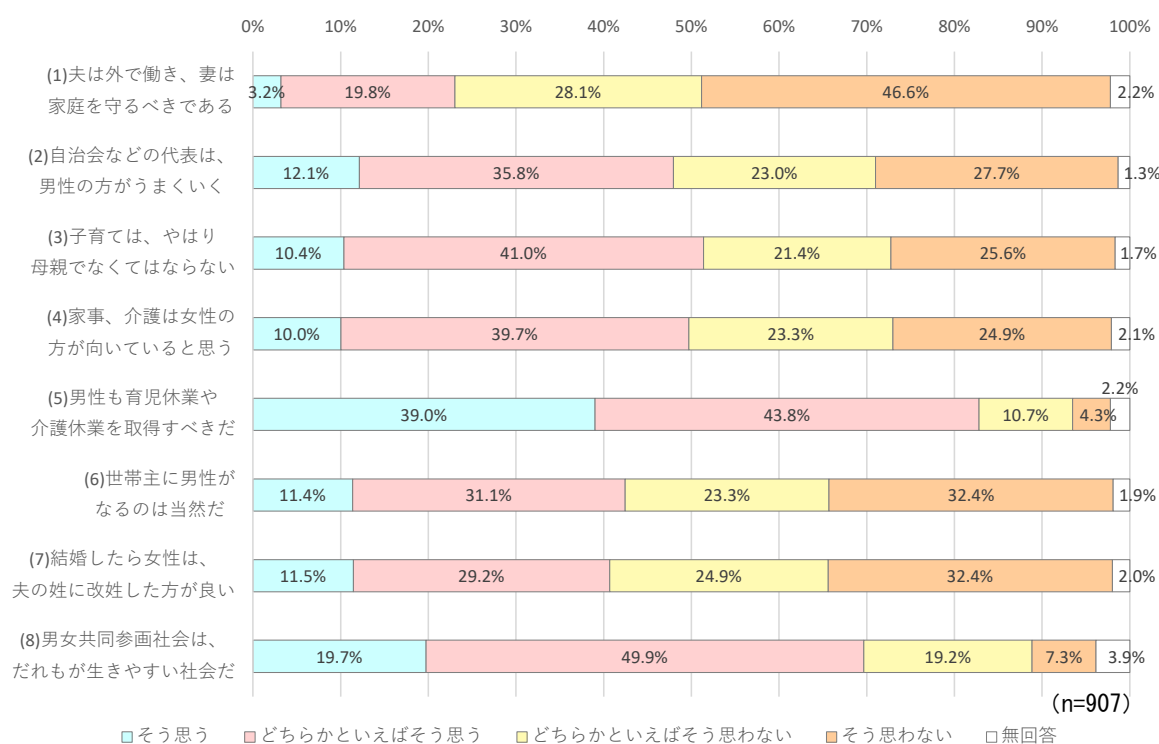


<他調査との比較>



問 2. 性別役割分担等に関する意識

- ・「(1) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えについて、否定的な意見（「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」）が(計)74.7%と7割以上を占めている。
- ・「(5) 男性も育児休業や介護休業を取得すべきだ」という考え方については、肯定的な意見（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」）が(計)82.8%と8割以上を占めている。



(1) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

●否定的な意見(計：74.7%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(計：75.7%)に対して女性(計：74.1%)と男性の方が1.6ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、20歳代(計：94.9%)が最も高くなっており、男女ともに9割以上の方が回答している。(男性(計)：93.3%、女性(計)：96.4%)
一方で、80歳代以上(計：47.0%)の回答割合が低く、年代によって意見の差が生じている。

<経年変化>

- ・H22 松江市調査(計：58.6%)より16.1ポイント、H27 松江市調査(計：66.4%)より8.3ポイントそれぞれ増加していることがわかる。
- ・男女別に比較すると、H22 松江市調査(男性(計)：56.2%、女性(計)：61.0%)、H27 松江市調査(男性(計)：61.4%、女性(計)：70.5%)は女性の回答割合が男性の回答割合よりも高いが、本調査(男性(計)：75.7%、女性(計)：74.1%)では男性の回答割合が1.6ポイント、女性の回答割合を上回っている。

<就労形態>

- ・常勤(計：83.9%)が最も高く、次いで任期付き契約社員・派遣社員(計：83.7%)であった。

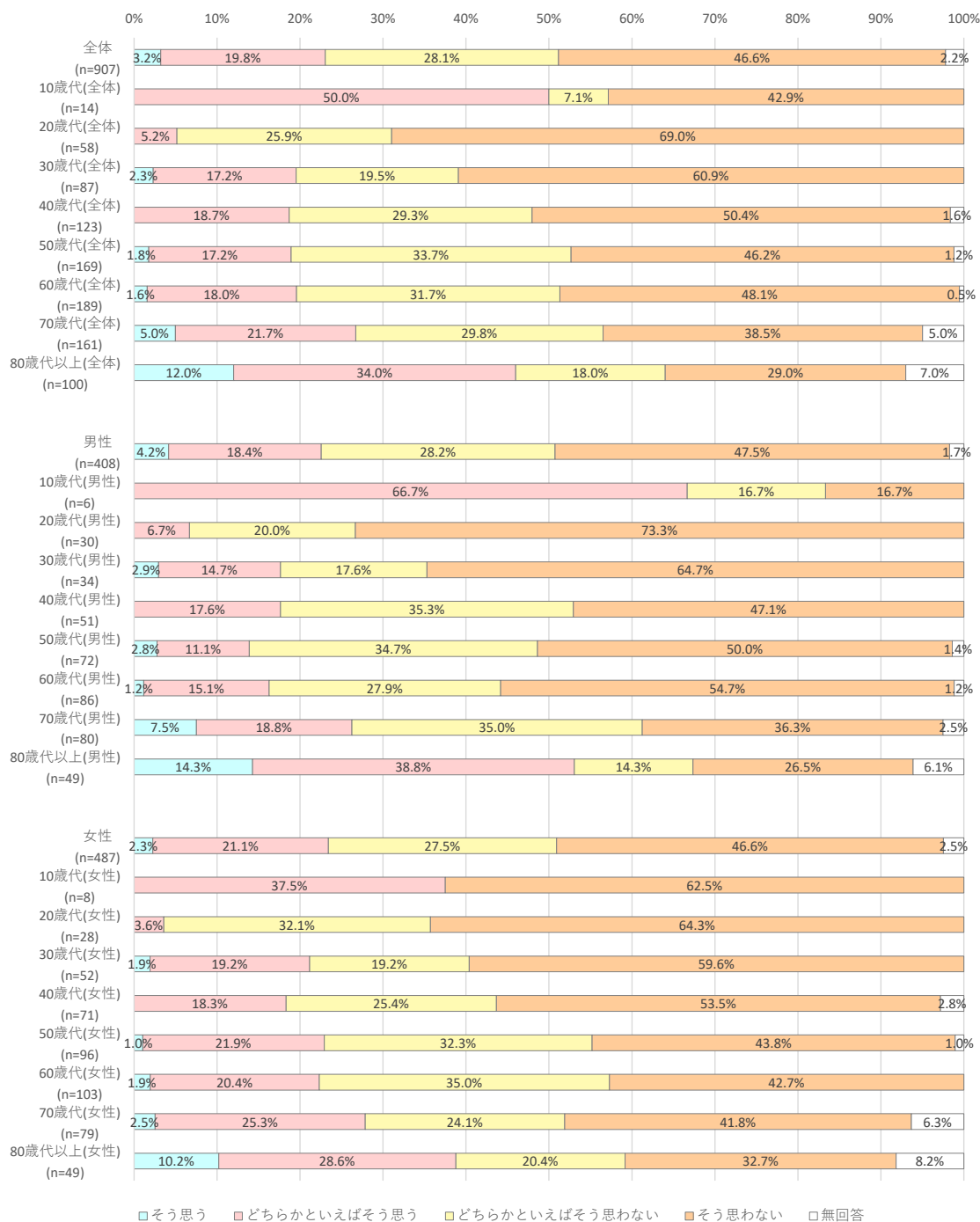
<地区別>

- ・地区別に比較すると、湖南(計：80.3%)が最も高くなっている。

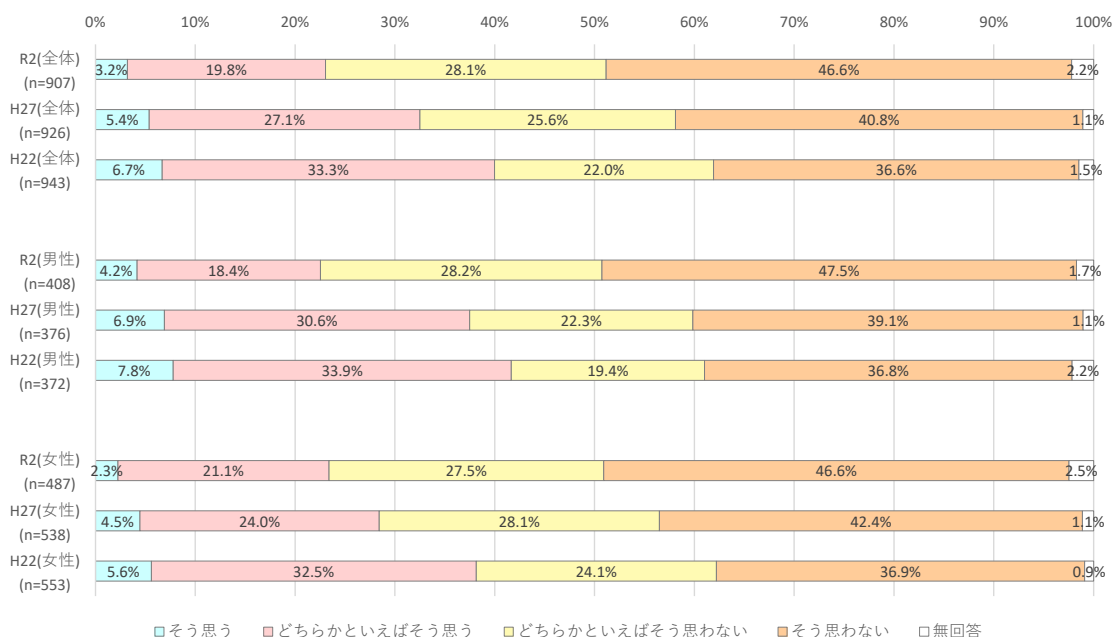
<他調査との比較>

- ・R1 島根県調査(計：70.7%)より4.0ポイント、R1 内閣府調査(計：59.8%)より14.9ポイント否定的な意見が多いことがわかる。

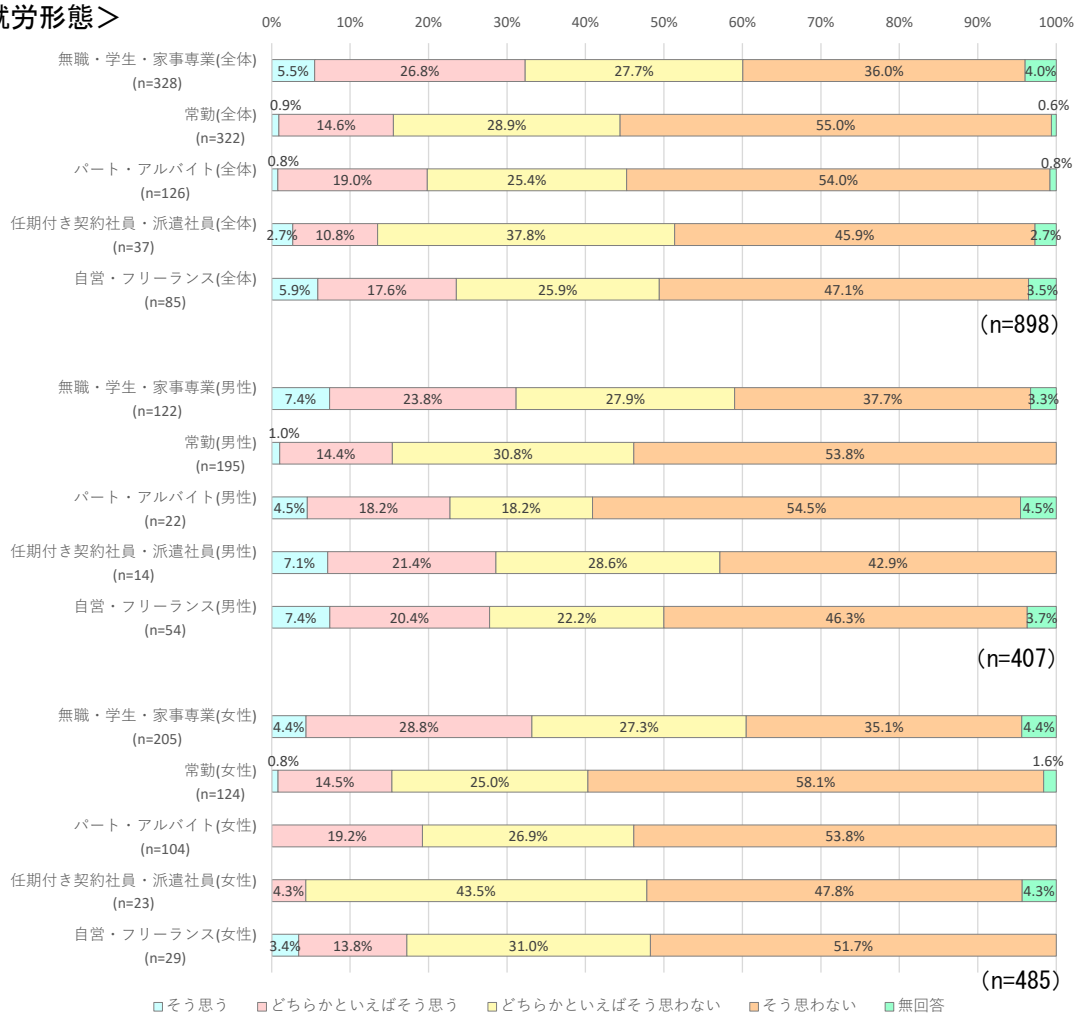
<男女別・年代別>



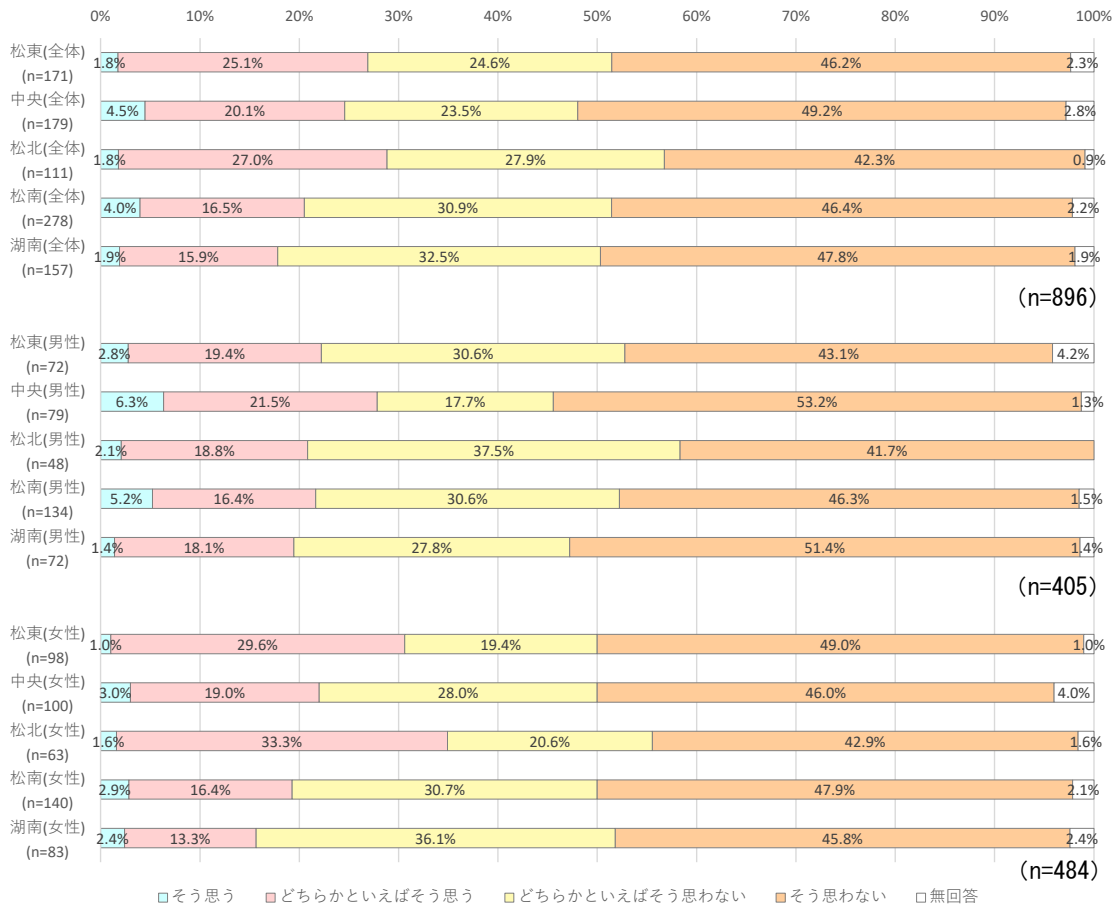
<経年変化>



<就労形態>

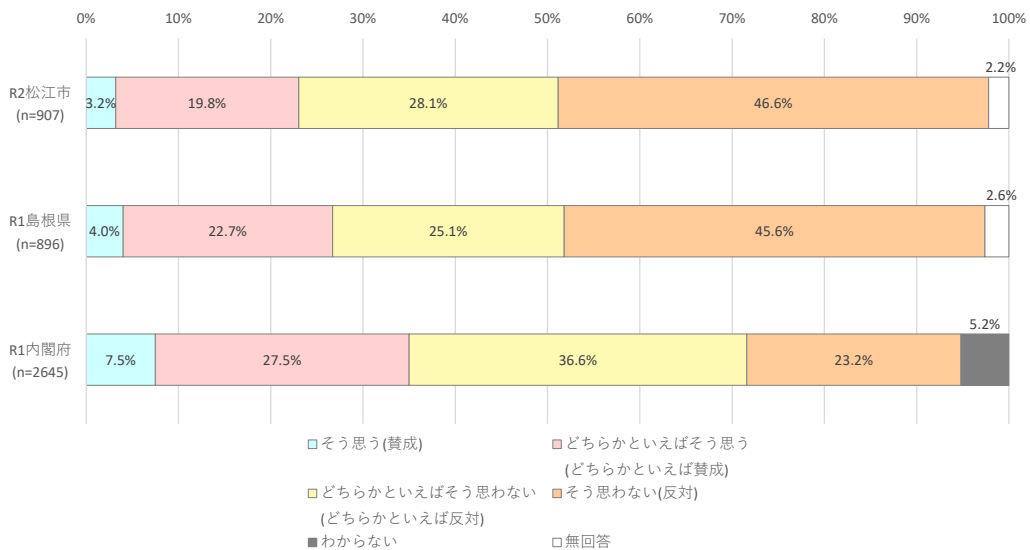


<地区別>



<他調査との比較>

※R1 内閣府調査では、「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」「わからない」の5つの選択肢より回答している。



(2) 自治会などの代表は、男性の方がうまくいく

●否定的な意見(計：50.7%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(計：61.2%)に対して女性(計：41.8%)と男性の方が19.4ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、男性は30歳代(計：85.3%)が最も高くなっている一方で、80歳代以上(計：24.5%)からの回答は低くなっている。30歳代と80歳代の間には60.8ポイントの差があり、年代によって意見の差が生じている。女性は30歳代以下の年代ではそれぞれ半数以上の割合を示している。

<経年変化>

- ・H22 松江市調査(計：46.0%)より4.7ポイント、H27 松江市調査(計：47.5%)より3.2ポイントそれぞれ増加していることがわかる。
- ・男女別に比較すると、H22 松江市調査(男性(計)：51.7%、女性(計)：42.9%、差：8.8ポイント)、H27 松江市調査((計)男性：55.3%、女性(計)：42.1%、差：13.2ポイント)、本調査(男性：61.2%、女性41.8%、差：19.4ポイント)の結果より、男女の意見の差が広がっていることがわかる。

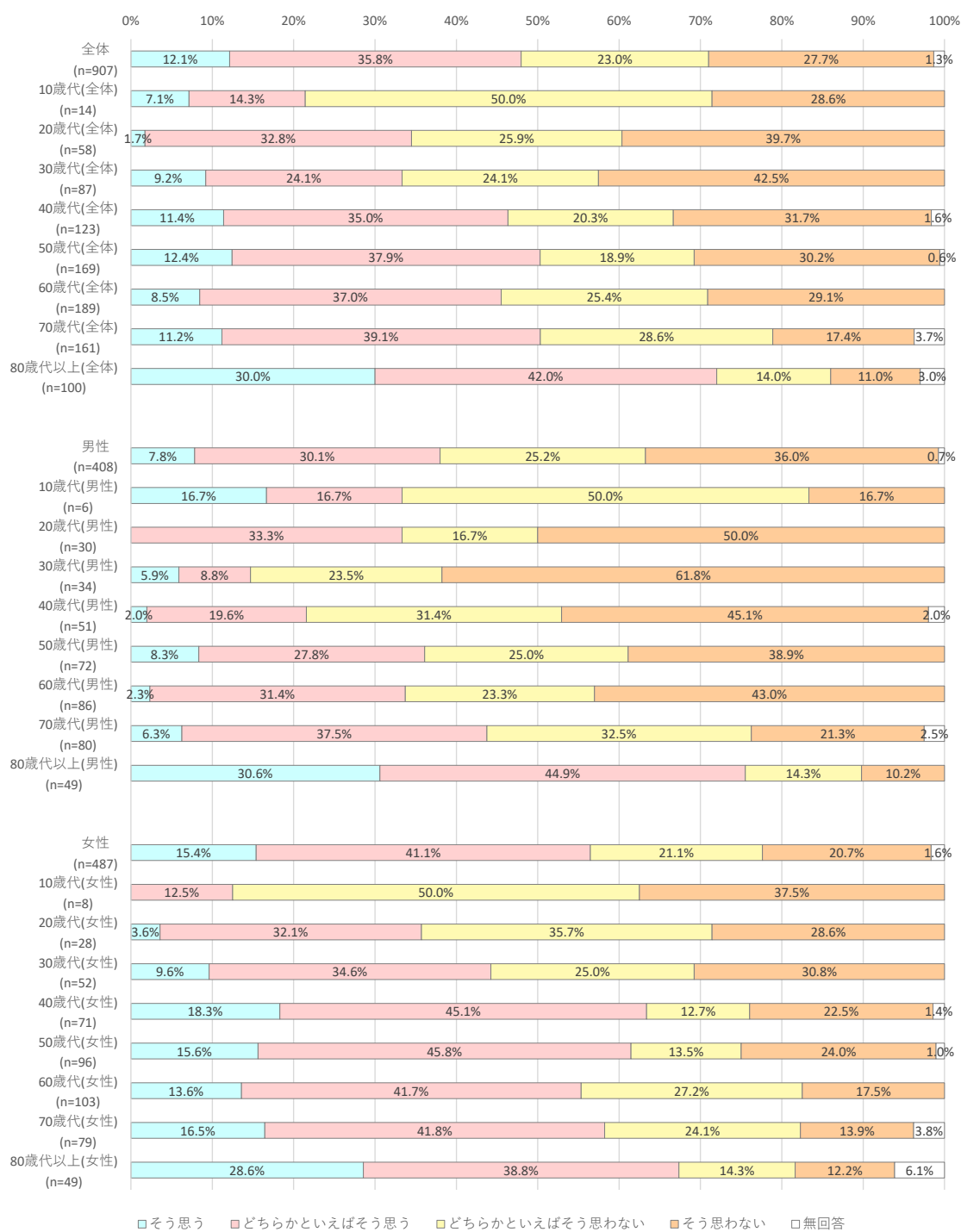
<就労形態>

- ・常勤(計：64.2%)が最も高くなっている。

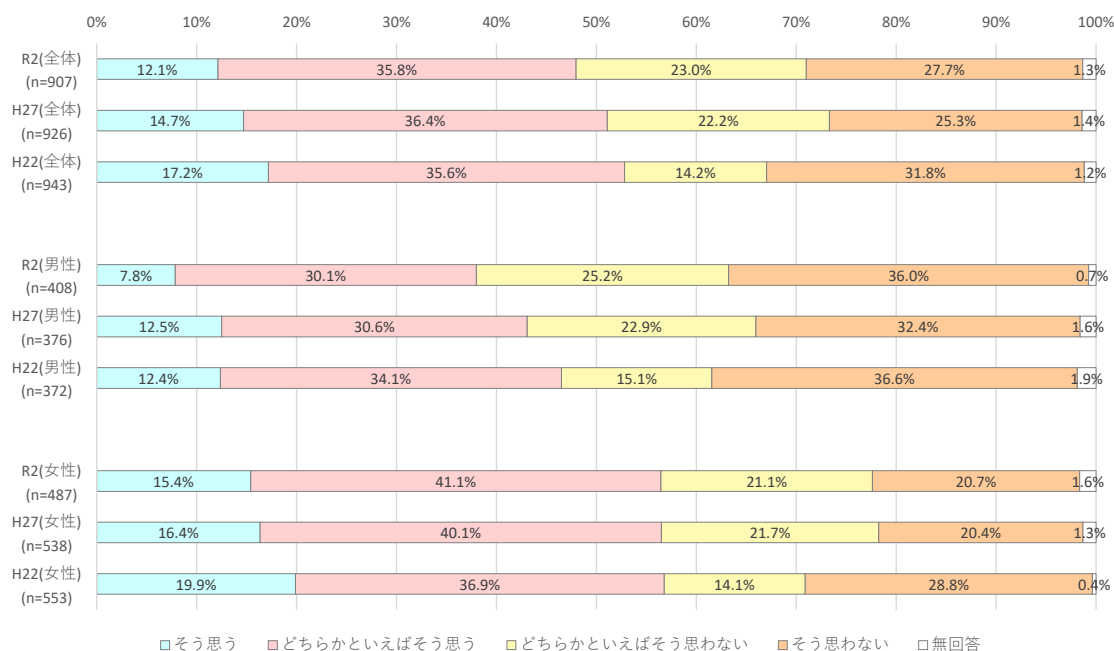
<地区別>

- ・地区別に比較すると、松東(計：54.9%)が最も高く、次いで松南(計：52.2%)となっている。

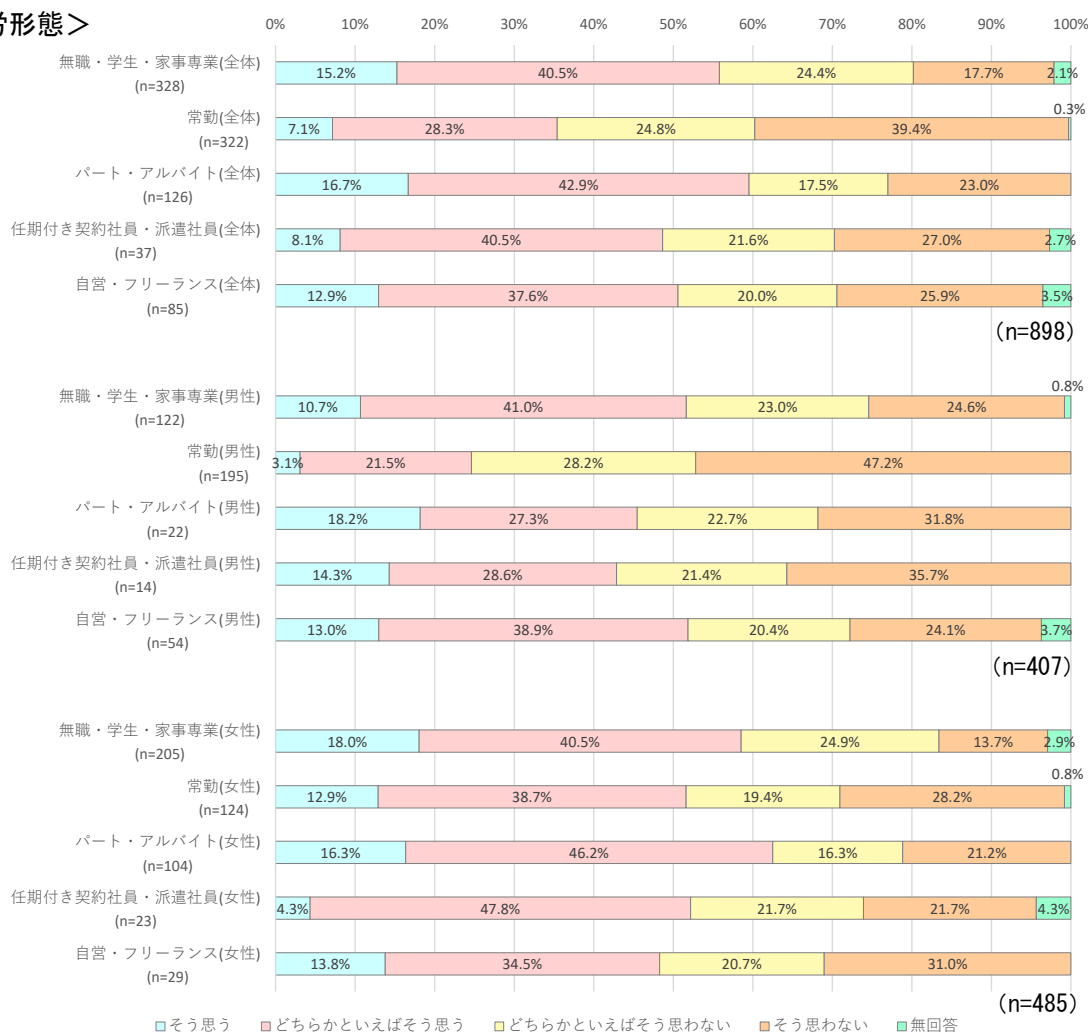
<男女別・年代別>



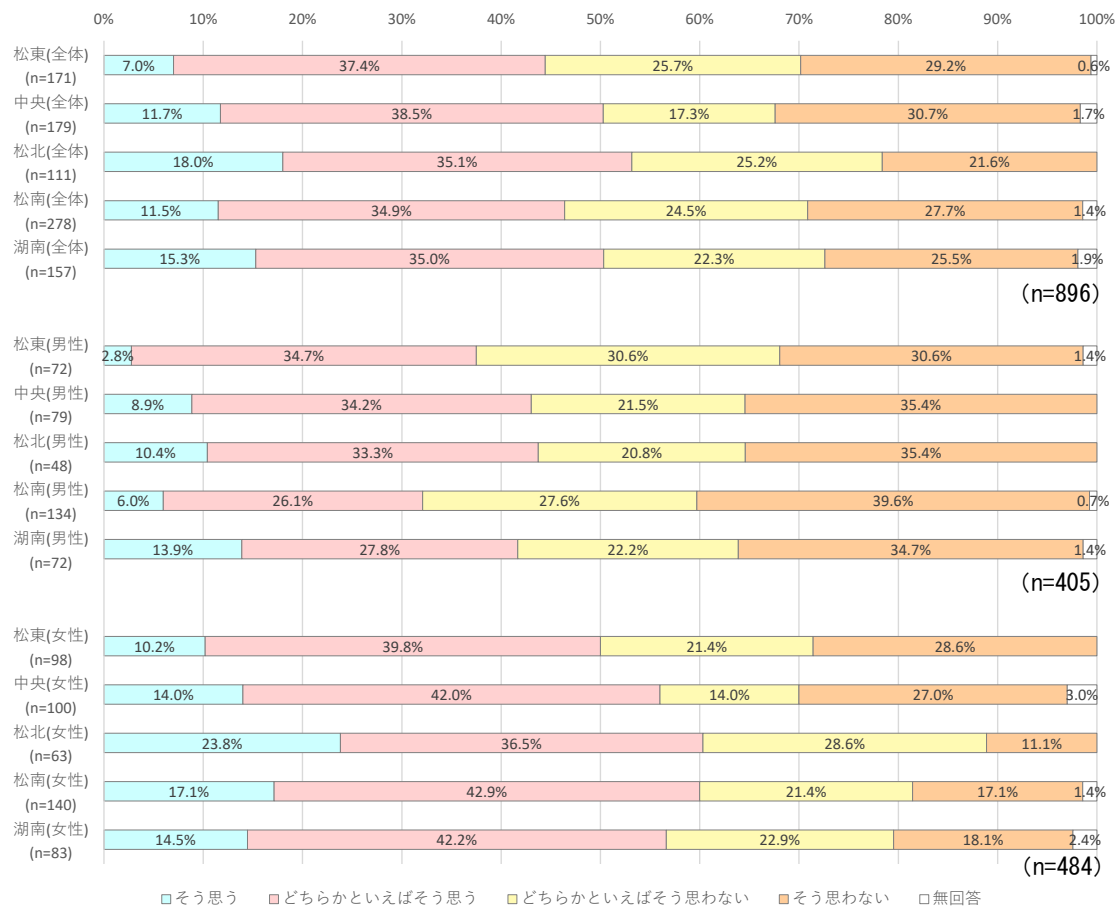
<経年変化>



<就労形態>



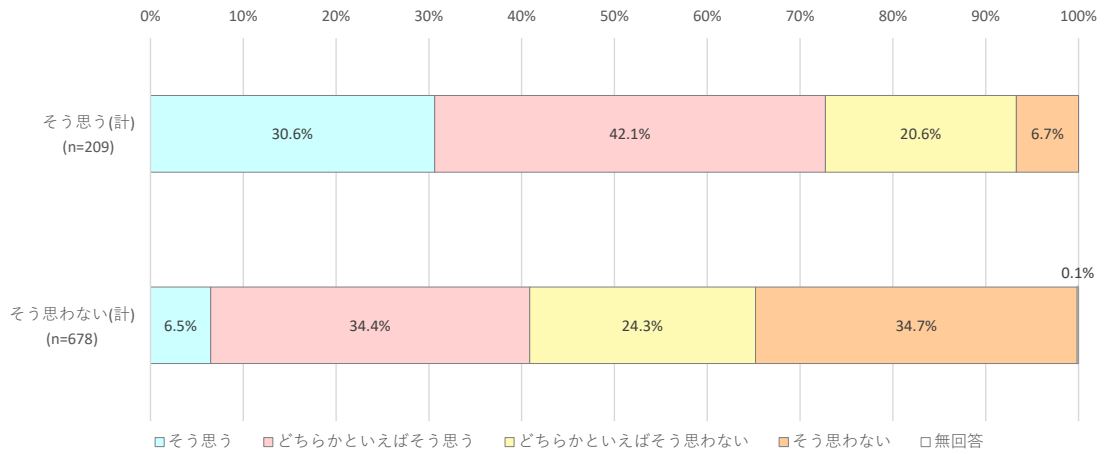
<地区別>



●「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との関係性について（問2(1)）

- ・問2(1)の「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との関連をみてる。この考えに対して、「そう思う(計)」といった肯定的な意見の方が「自治会などの代表は男性の方がうまくいく」という考えに対しても肯定的な意見(72.7%)の割合が高くなっている。

<夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである（問2(1)）>



(3) 子育ては、やはり母親でなくてはならない

●否定的な意見(計：47.0%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(計：44.4%)に対して女性(計：49.5%)と女性の方が5.1ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、全体(計：47.0%)に対して、40歳代以下はそれぞれ回答の割合が高くなっている。特に20歳代(計：69.0%)が最も高くなっている。一方で、80歳代以上(計：30.0%)の回答割合が最も低く、20歳代と80歳代の間には39.0ポイントの差があることから、年代によって意見の差が生じていることがわかる。

<経年変化>

- ・H22 松江市調査(計：38.2%)より8.8ポイント、H27 松江市調査(計：45.0%)より2.0ポイント増加していることがわかる。
- ・男女別に比較すると、H22 松江市調査(男性(計)：33.3%、女性(計)：41.6%、差：8.3ポイント)、H27 松江市調査(男性(計)：38.8%、女性(計)：49.3%、差：10.5ポイント)、本調査(男性(計)：44.4%、女性(計)：49.5%、差：5.1ポイント)の結果より、男女の意見の差が小さくなっていることがわかる。

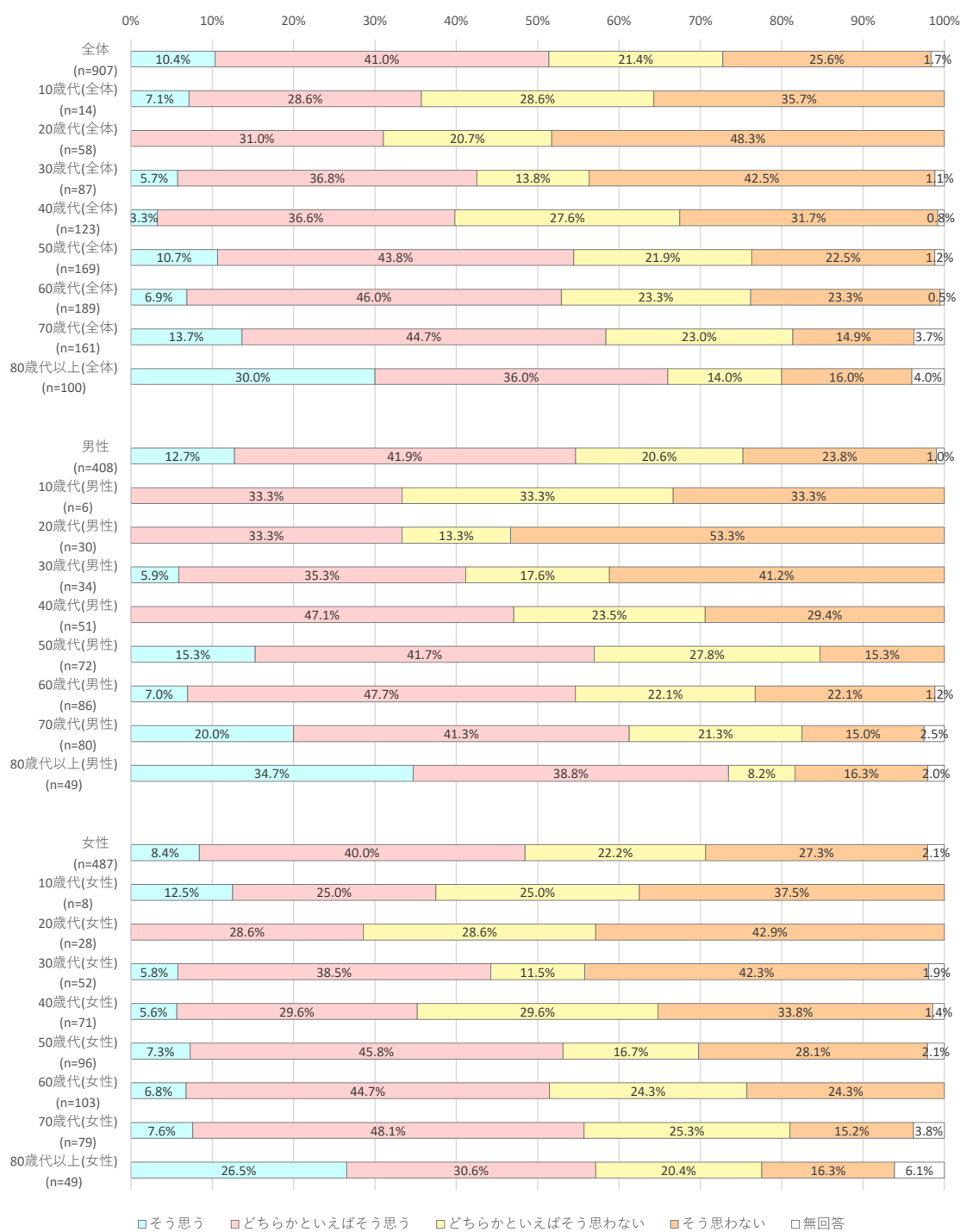
<就労形態>

- ・常勤(計：53.1%)が最も高く、次いでパート・アルバイト(計：52.4%)であった。

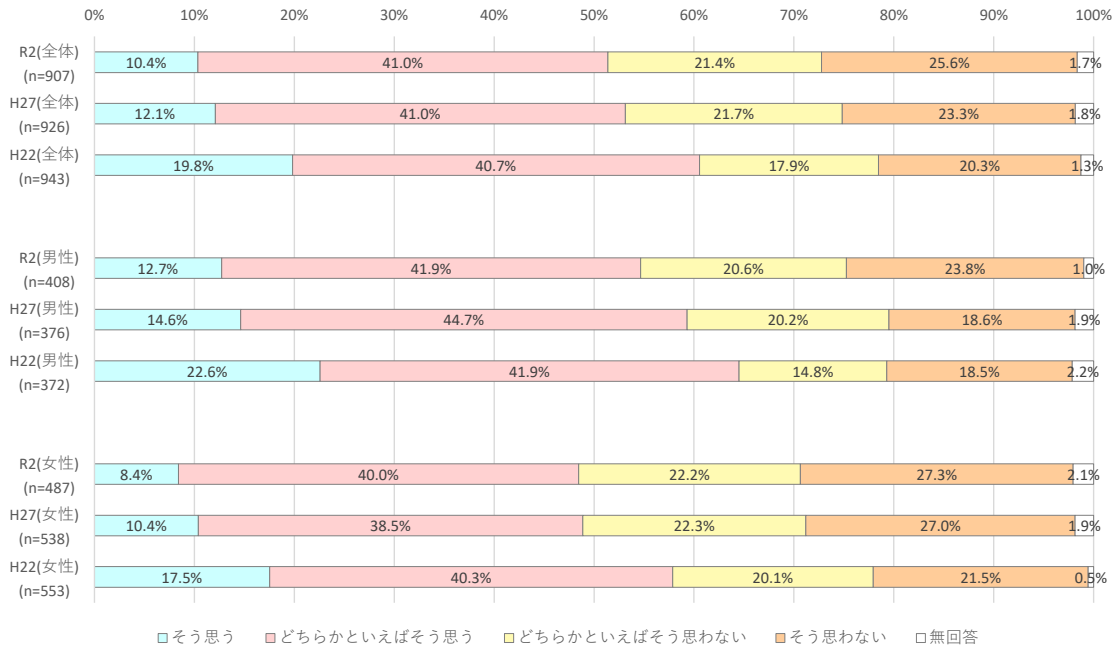
<地区別>

- ・地区別に比較すると、松東(計：51.4%)が最も高くなっている。

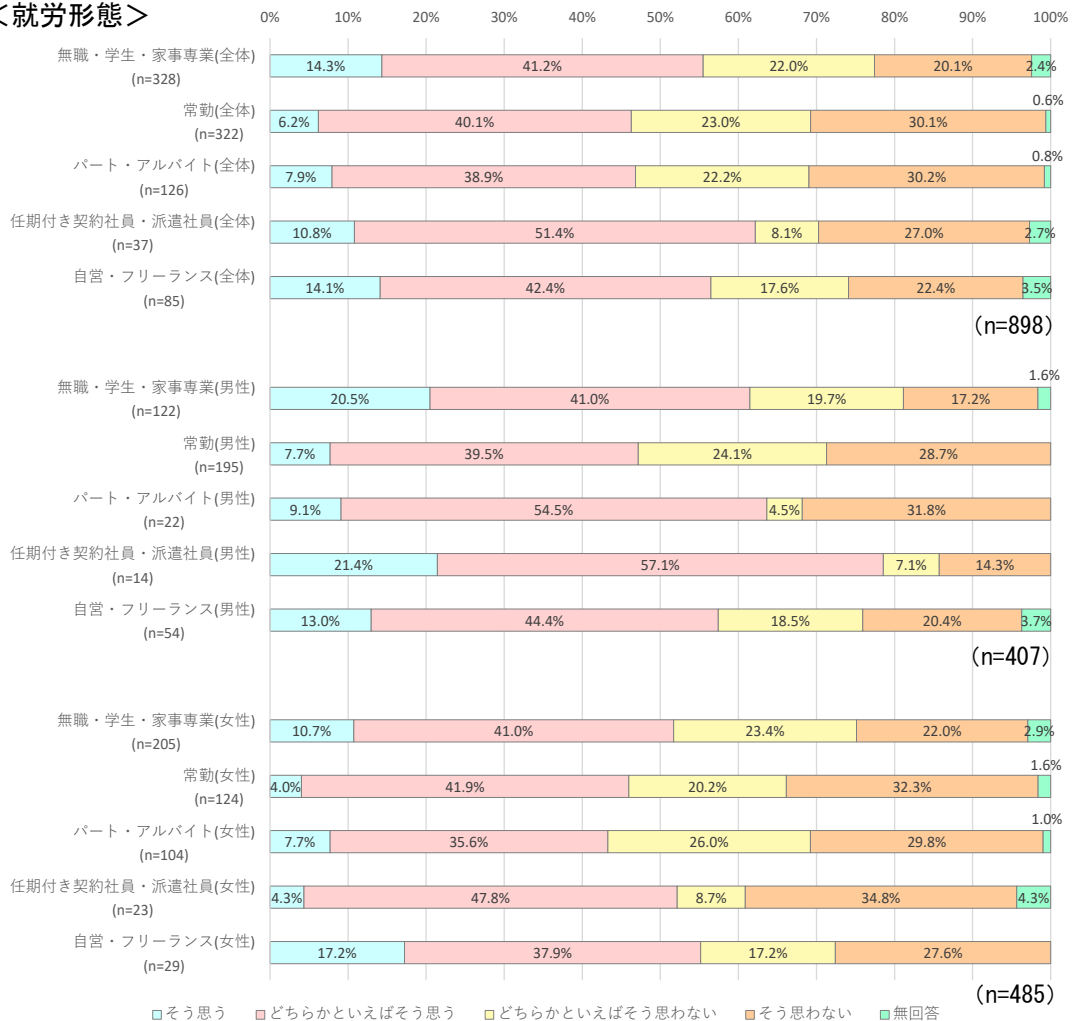
<男女別・年代別>



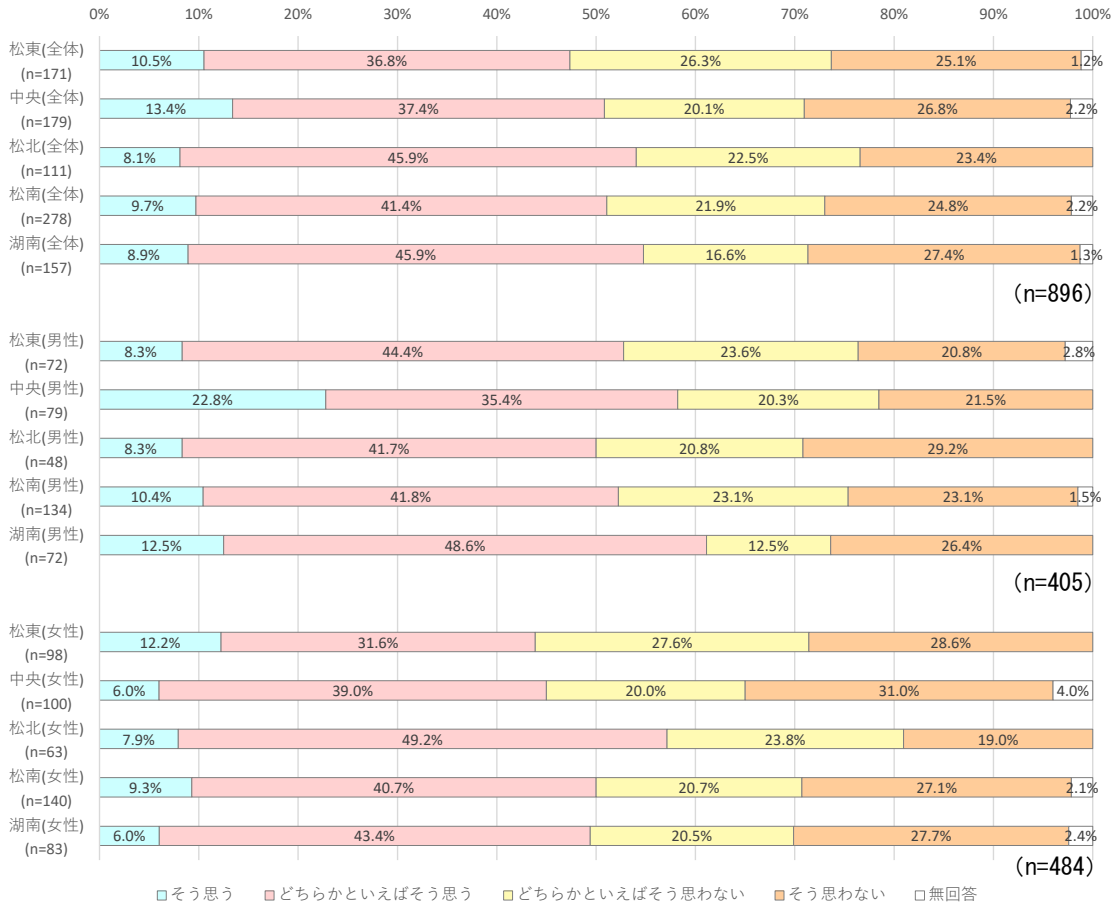
<経年変化>



<就労形態>



<地区別>



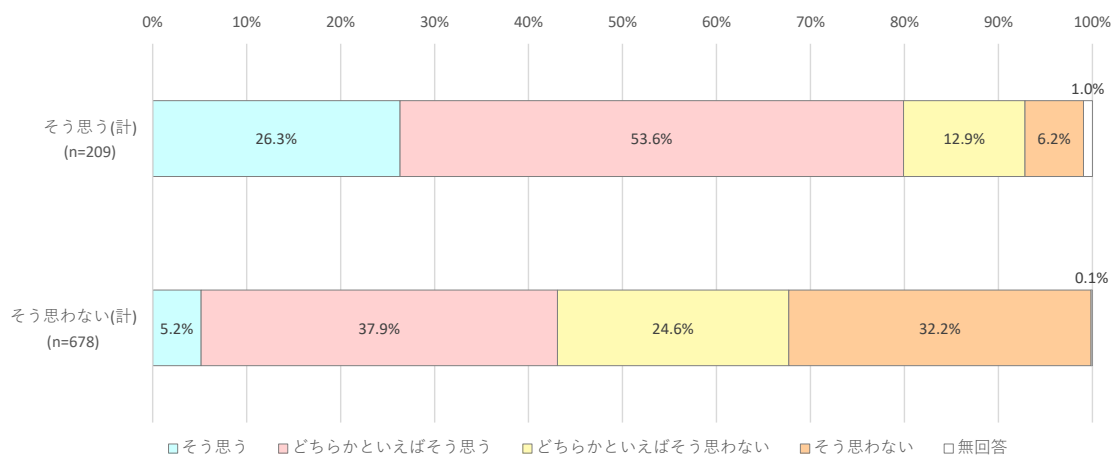
●「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との関係性について（問2(1)）

- ・問2(1)の「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との関連をみても。この考えに対して、「そう思う(計)」といった肯定的な意見の方が「子育ては、やはり母親でなくてはならない」と言う考えに対しても肯定的な意見(計：79.9%)の割合が高くなっている。

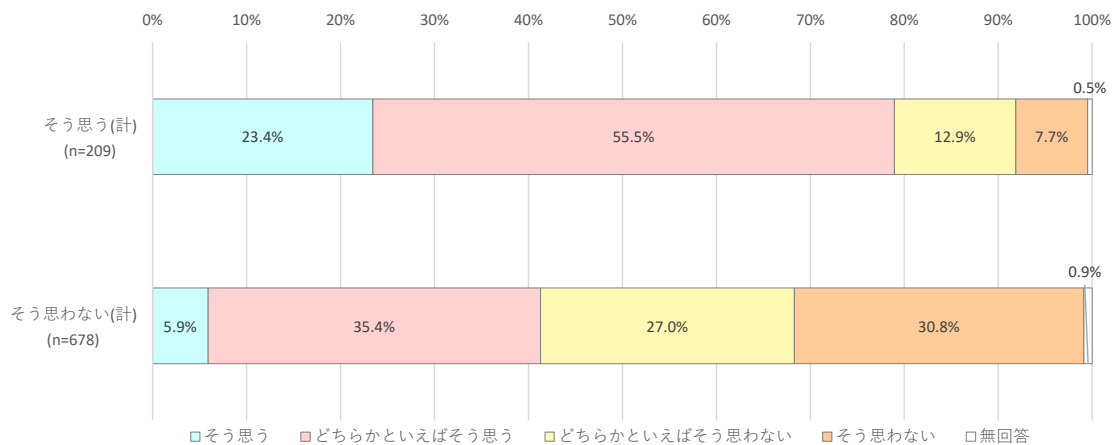
●「家事、介護は女性の方が向いていると思う」との関係性について（問2(4)）

- ・問2(4)の「家事、介護は女性のほうが向いていると思う」との関連をみても。この考えに対して、「そう思う(計)」といった肯定的な意見の方が「子育ては、やはり母親でなくてはならない」と言う考えに対しても肯定的な意見(計：78.9%)の割合が高くなっている。

<夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである（問2(1)）>



<家事、介護は女性の方が向いていると思う（問2(4)）>



(4) 家事、介護は女性の方が向いていると思う

●否定的な意見(計：48.2%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(計：44.6%)に対して女性(計：51.1%)と女性の方が6.5ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、20歳代(計：77.6%)が最も高く、次いで10歳代(計：71.4%)、30歳代(計：64.3%)と若年層が高い割合となっている。

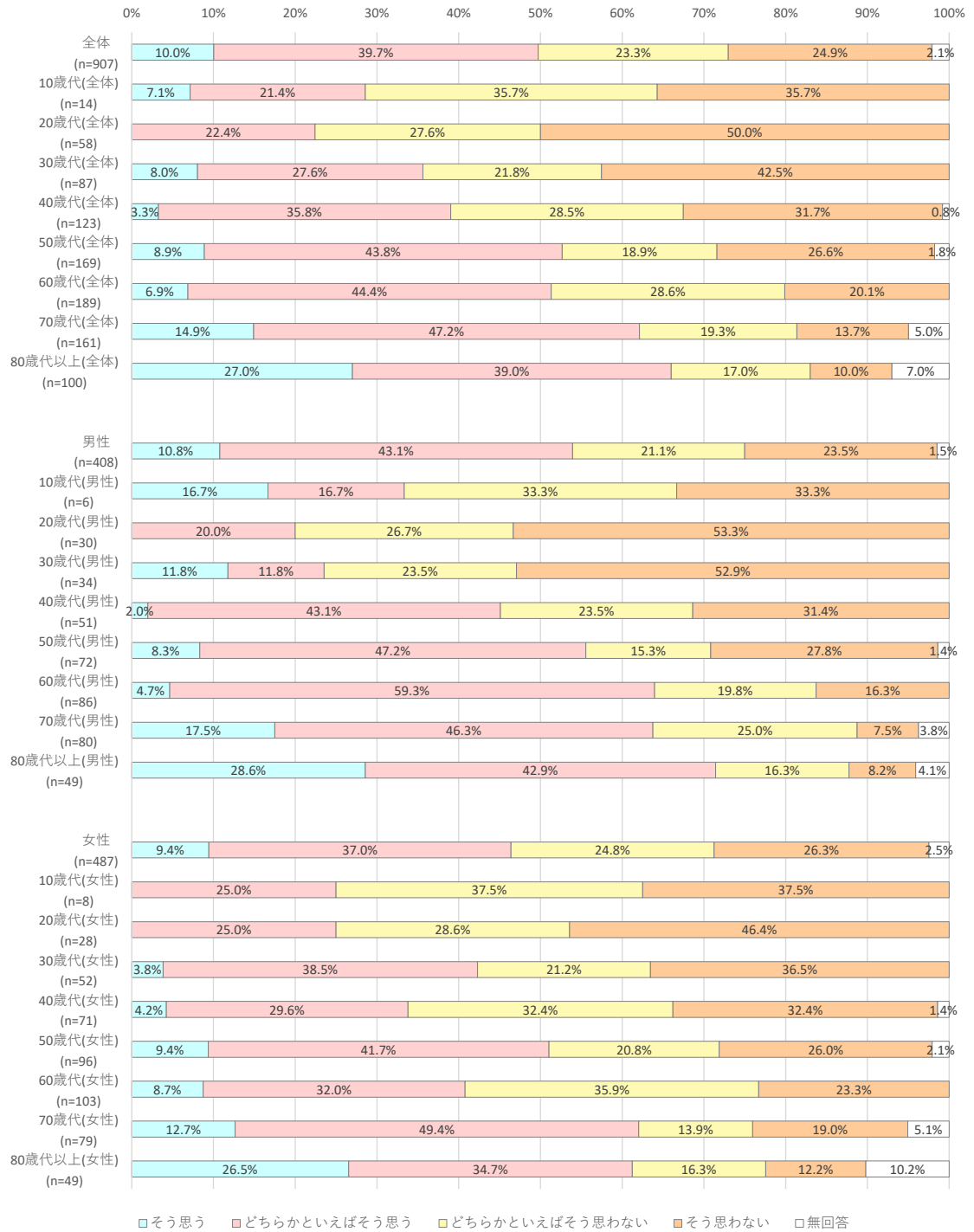
<就労形態別>

- ・常勤(計：54.1%)が最も高くなっている。

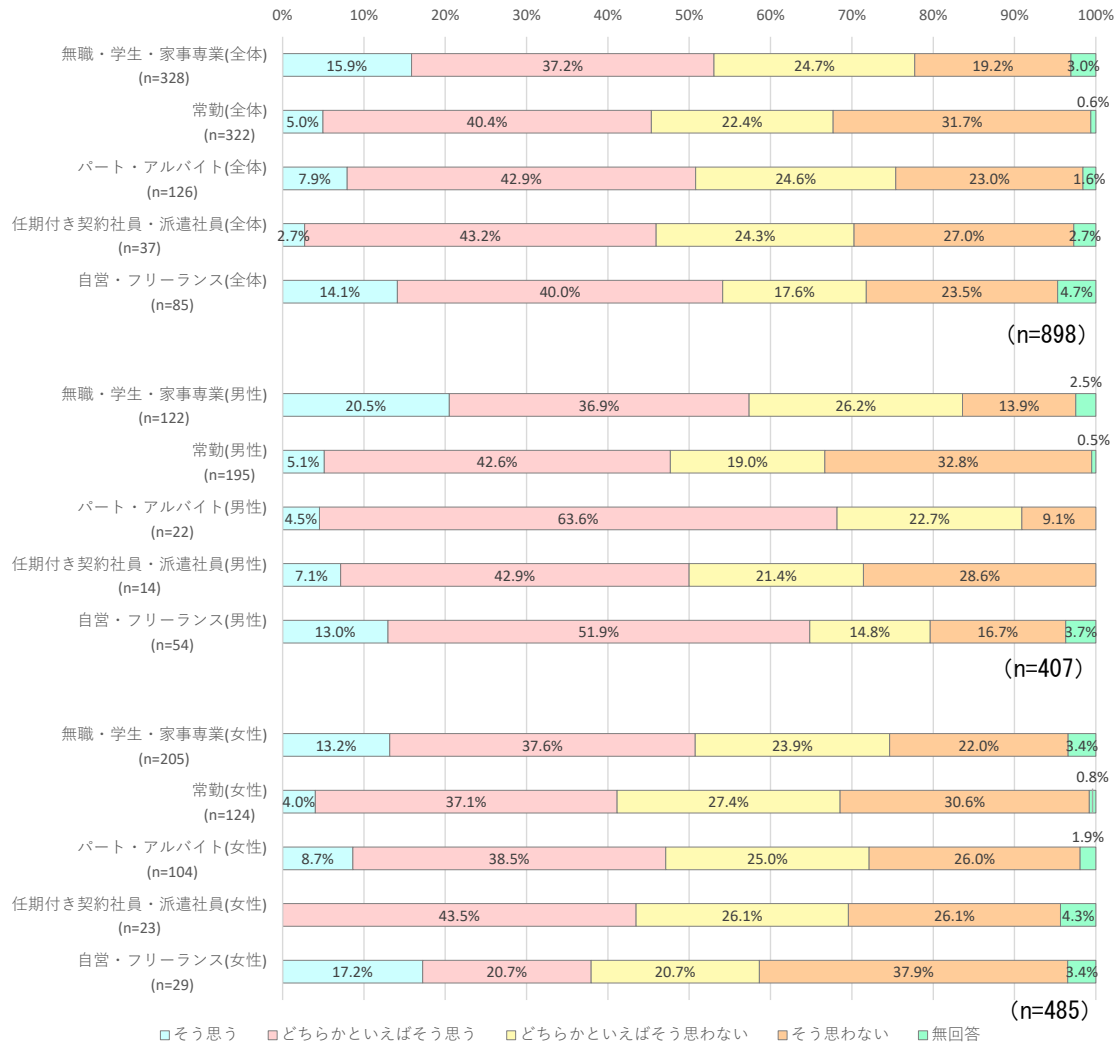
<地区別>

- ・地区別に比較すると、中央(計：49.7%)が最も高くなっている。

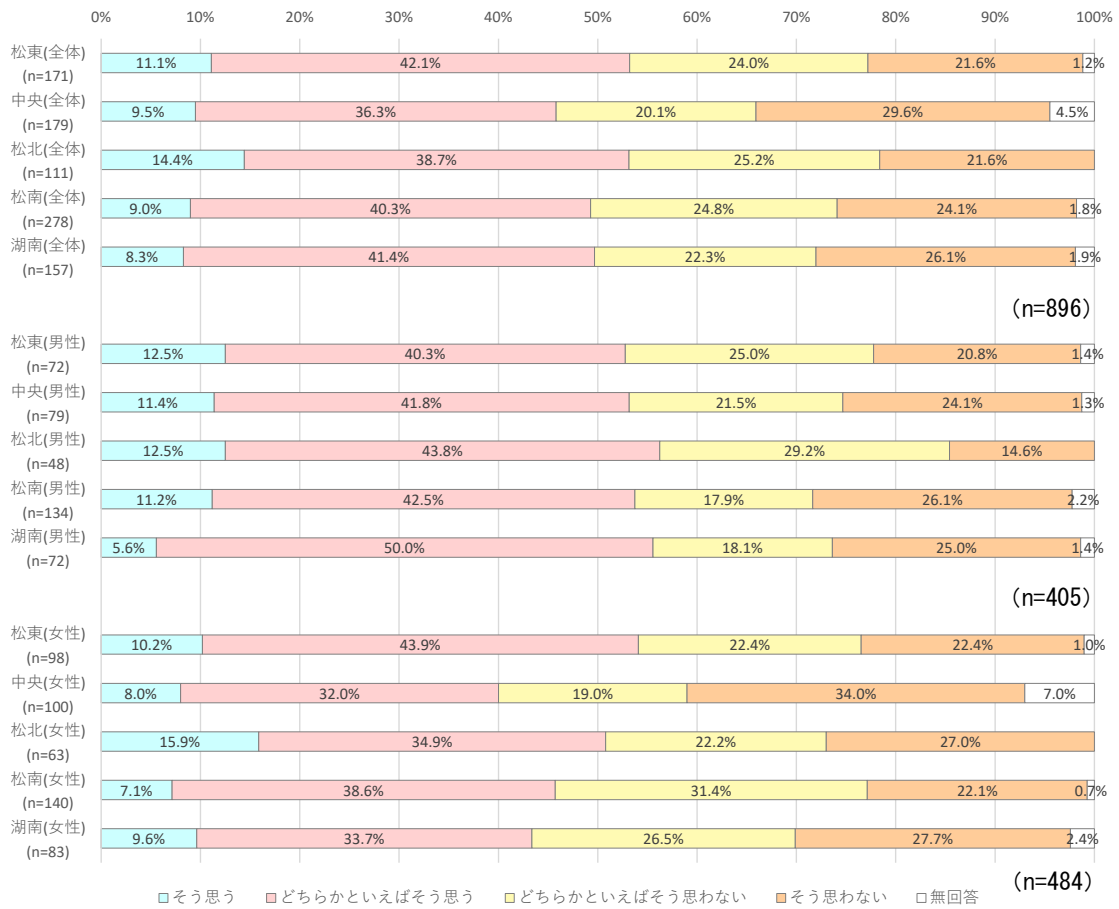
<男女別・年代別>



<就労形態>



<地区別>



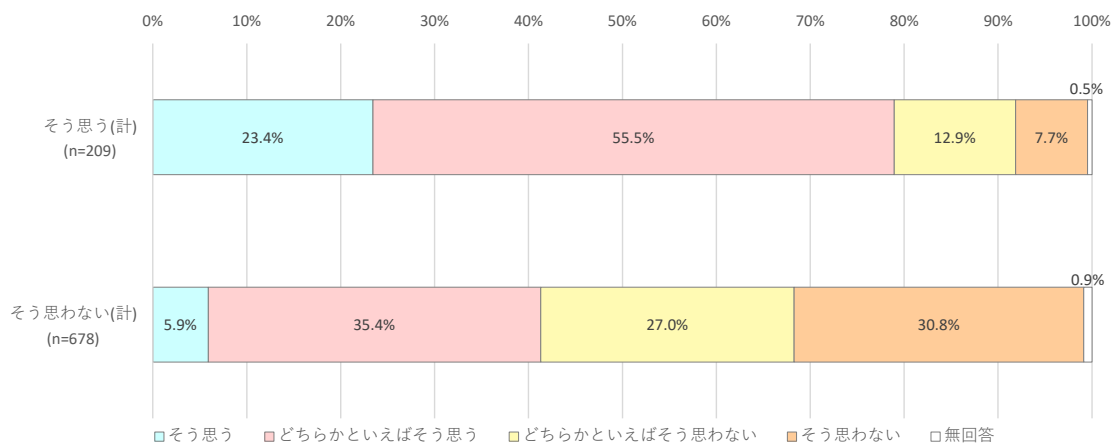
●「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との関係性について（問2(1)）

- ・問2(1)の「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との関連をみてる。この考えに対して、「そう思う(計)」といった肯定的な意見の方が「子育ては、やはり母親でなくてはならない」と言う考えに対しても肯定的な意見(計：78.9%)の割合が高くなっている。

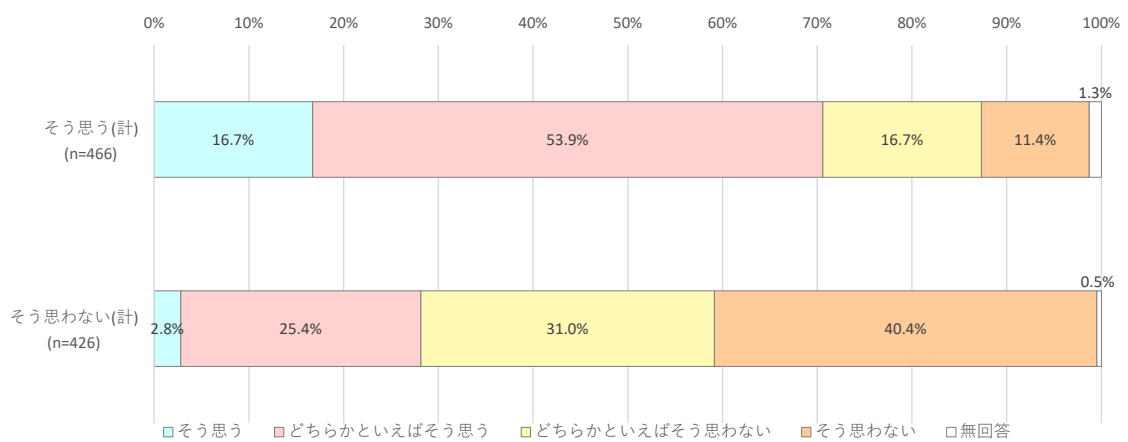
●「子育ては女性のほうが向いていると思う」（問2(3)）

- ・問2(3)の「子育ては女性のほうが向いていると思う」との関連をみてる。この考えに対して、「そう思う(計)」といった肯定的な意見の方が「子育ては、やはり母親でなくてはならない」と言う考えに対しても肯定的な意見(計：70.6%)の割合が高くなっている。

<夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである（問2(1)）>



<子育ては女性のほうが向いていると思う（問2(3)）>



(5) 男性も育児休業や介護休業を取得すべきだ

●肯定的な意見(計：82.8%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(計：81.9%)に対して女性(計：83.9%)と女性の方が2.0ポイント高い。
- ・年代別で比較すると全体(計：82.8%)に対して、60歳代以下はそれぞれ回答割合が高くなっている。
特に、10歳代(計：92.9%)、20歳代(計：94.8%)の回答は9割以上を占めている。

<経年変化>

- ・H22 松江市調査(計：78.1%)よりも4.7%増加し、H27 松江市調査(計：76.2%)よりも6.6ポイント増加していることがわかる。
- ・男女別に比較すると、H22 松江市調査(男性(計)：69.7%、女性(計)：83.7%、差：14.0ポイント)、H27 松江市調査(男性(計)：73.7%、女性(計)：78.1%、差：4.4ポイント)、本調査(男性(計)：81.9%、女性(計)：83.9%、差：2.0ポイント)と男女間の意見の差は小さくなっていることがわかる。

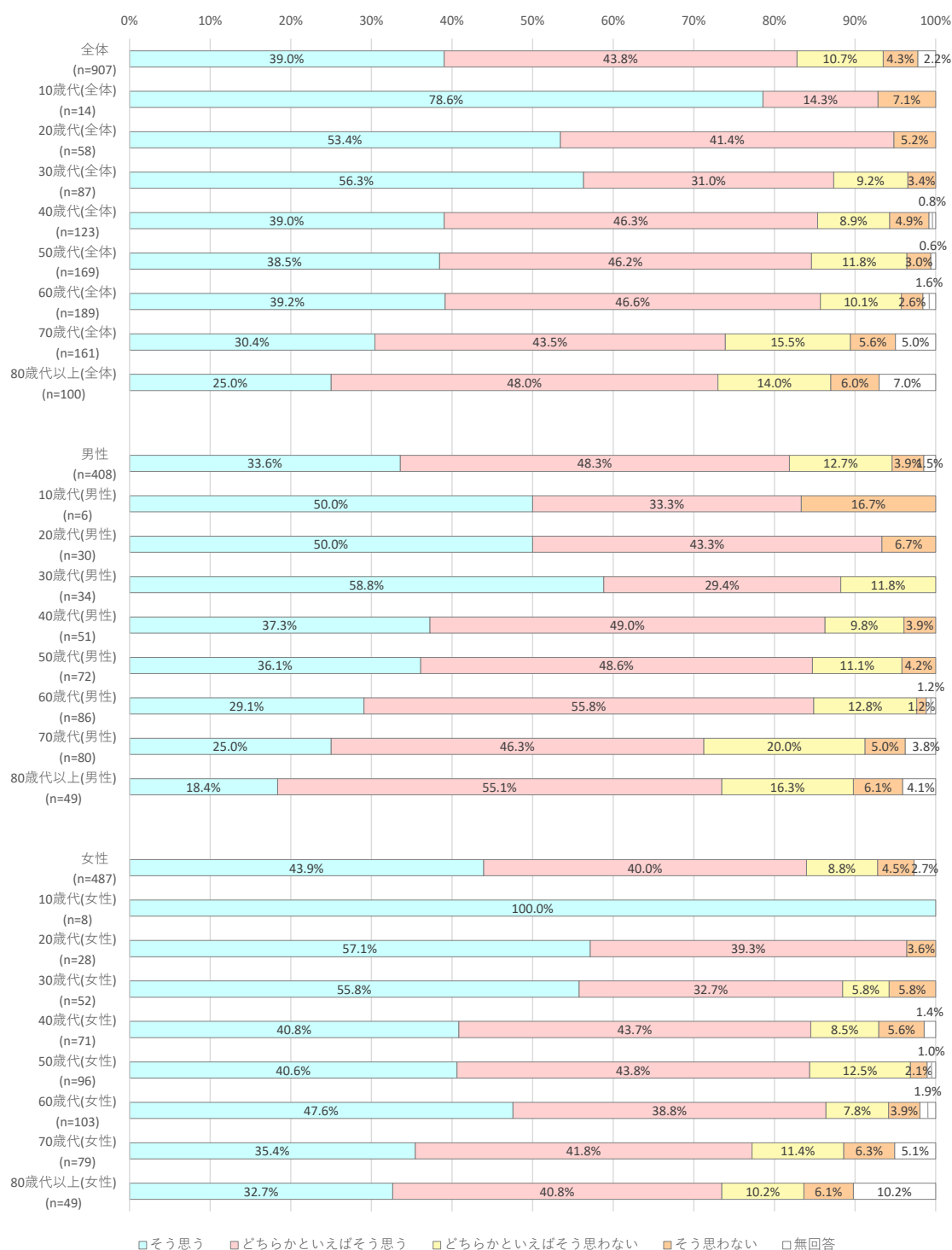
<就労形態別>

- ・常勤(計：87.9%)が最も高く、次いでパート・アルバイト(計：85.7%)、任期付き契約社員・派遣社員(計：83.8%)であった。

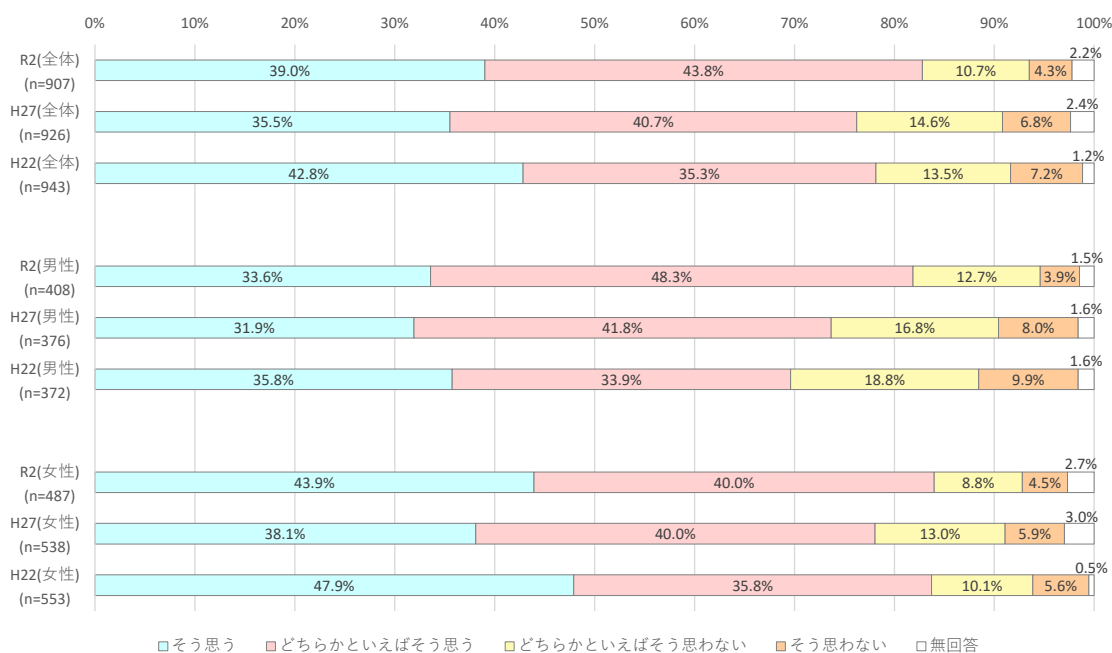
<地区別>

- ・地区別に比較すると、松南(計：84.1%)が最も高くなっている。

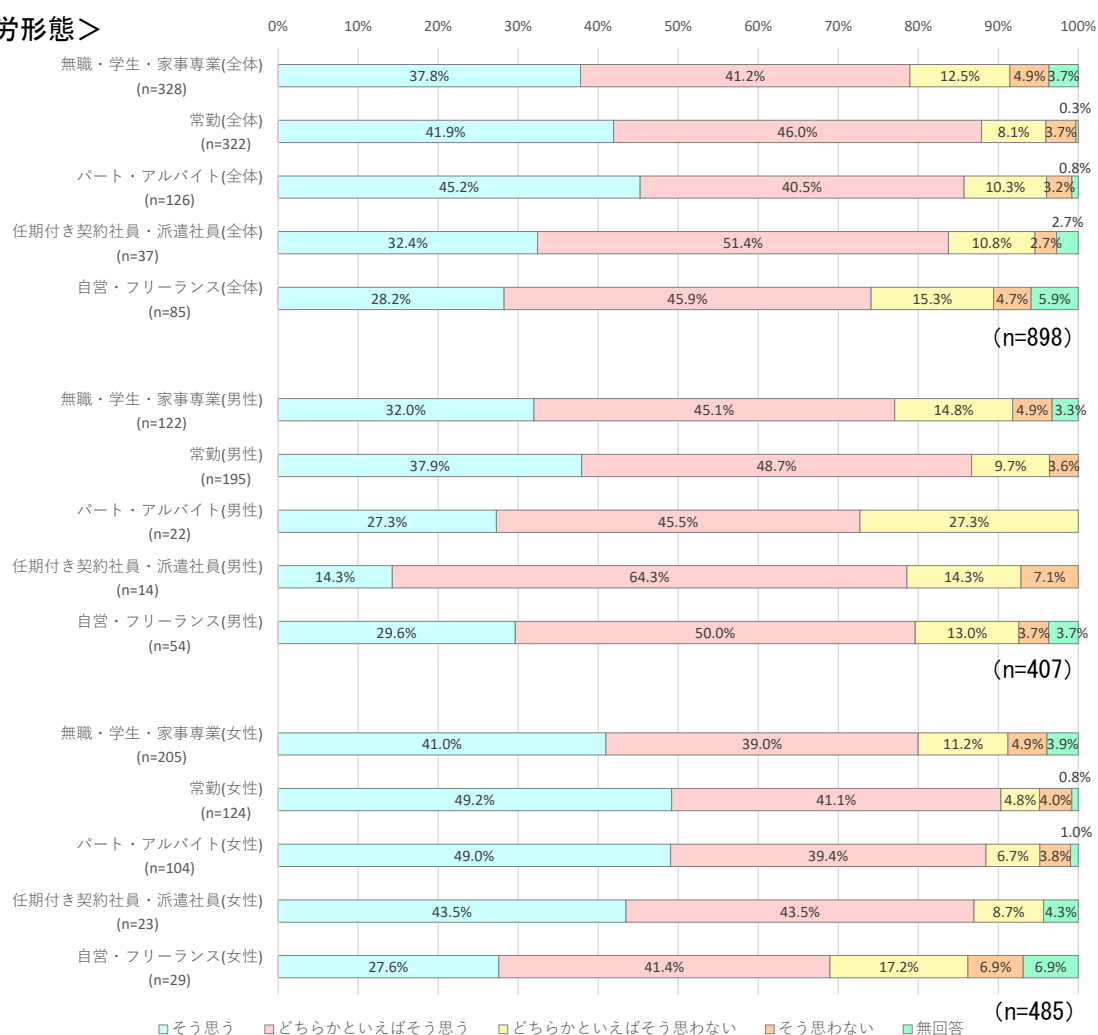
<男女別・年代別>



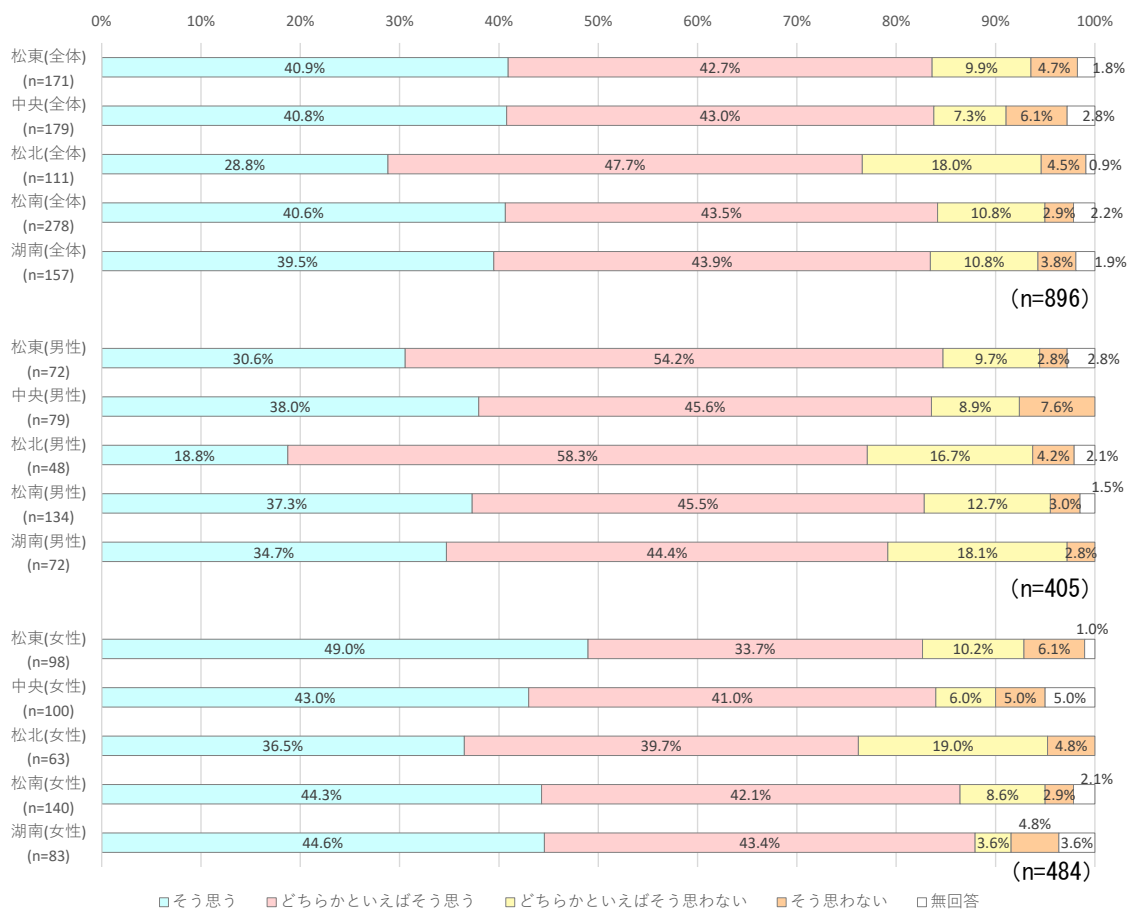
<経年変化>



<就労形態>



<地区別>



(6) 世帯主に男性になるのは当然だ

●否定的な意見(計：55.7%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(計：57.8%)に対して女性(計：53.8%)と男性の方が4.0ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、20歳代(計：72.5%)が最も高くなっている。一方で、80歳代以上(計：32.0%)からの回答は低くなっている。20歳代と80歳代の間には40.5ポイント差があり、年代によって意見の差が生じている。

<経年変化>

- ・H22 松江市調査(計：40.7%)より15.0%、H27 松江市調査(計：41.3%)より14.4ポイントそれぞれ増加していることがわかる。
- ・男女別に比較すると、H22 松江市調査(男性(計)：42.2%、女性(計)：40.2%、差：2.0ポイント)、H27 松江市調査(男性(計)：39.4%、女性(計)：43.1%、差：3.7ポイント)、本調査(男性(計)：57.8%、女性(計)：53.8%、差：4.0ポイント)と男女の意見の差が広がっていることがわかる。

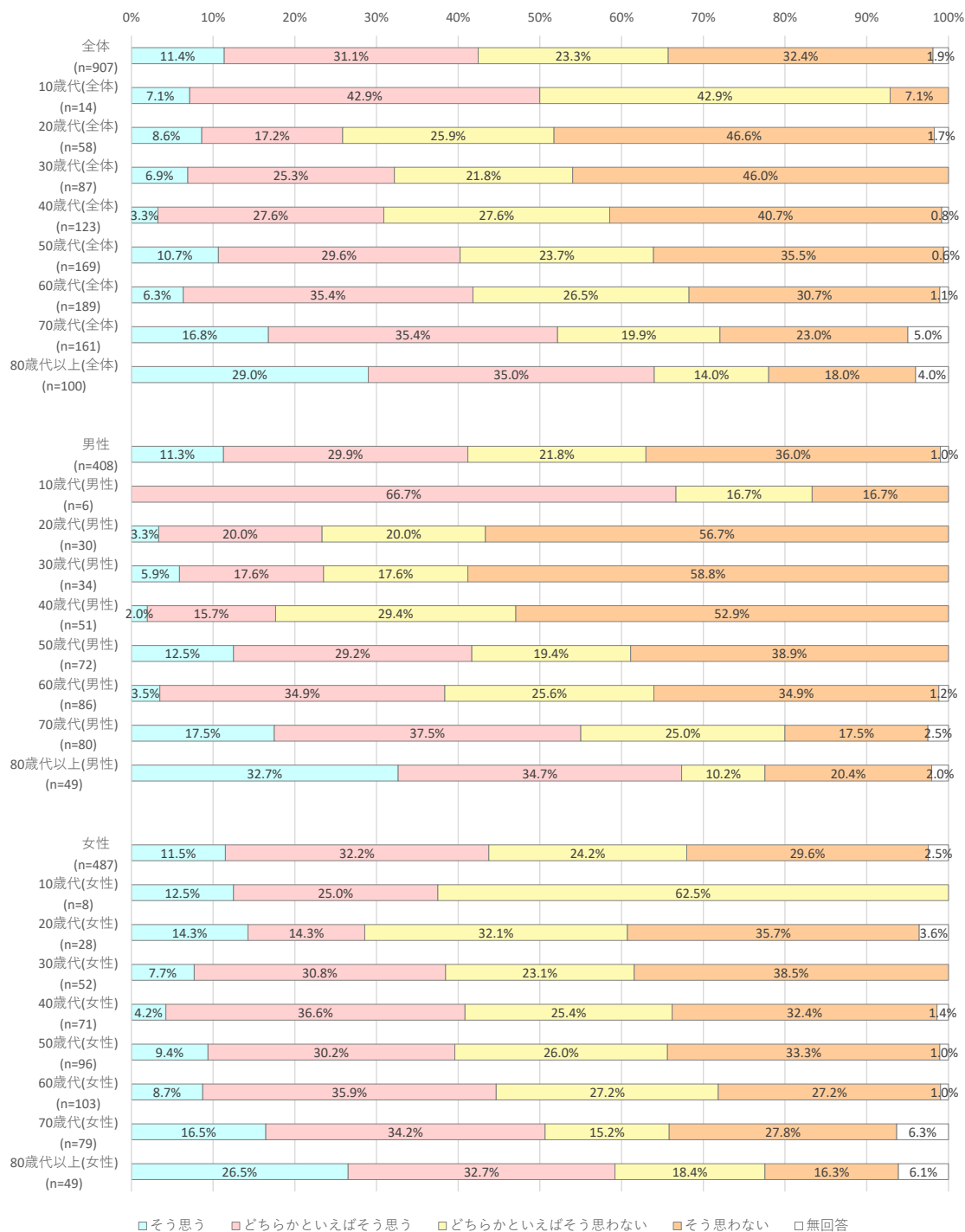
<就労形態>

- ・常勤(計：69.3%)が最も高く、次いで任期付き契約社員・派遣社員(計：67.6%)であった。

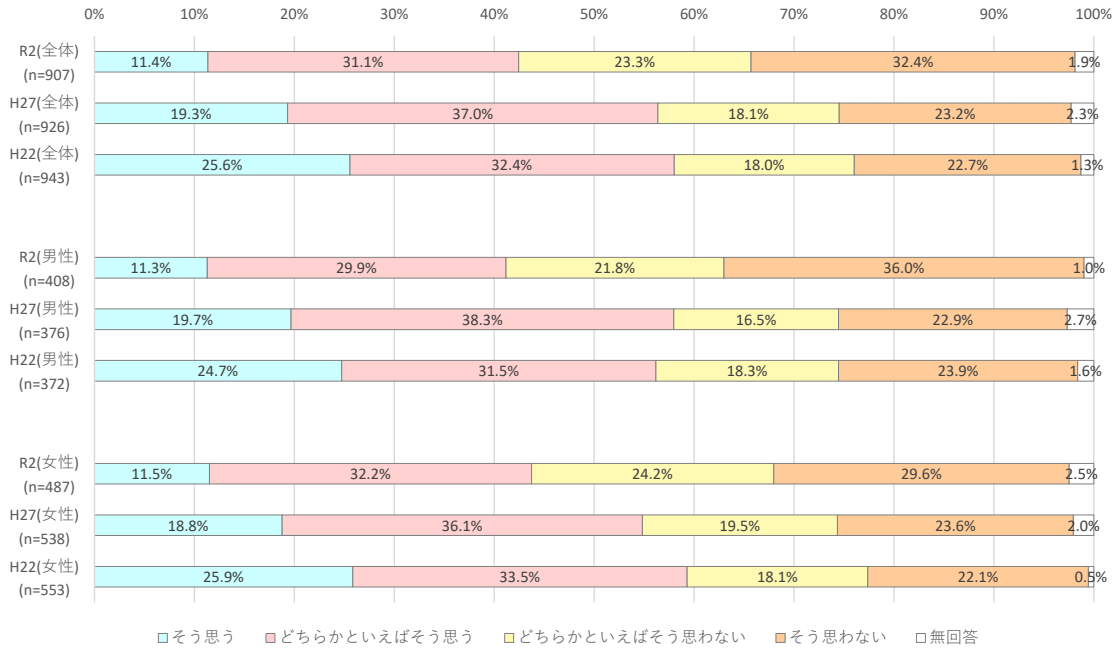
<地区別>

- ・地区別に比較すると、松南(計：59.7%)が最も高くなっている。

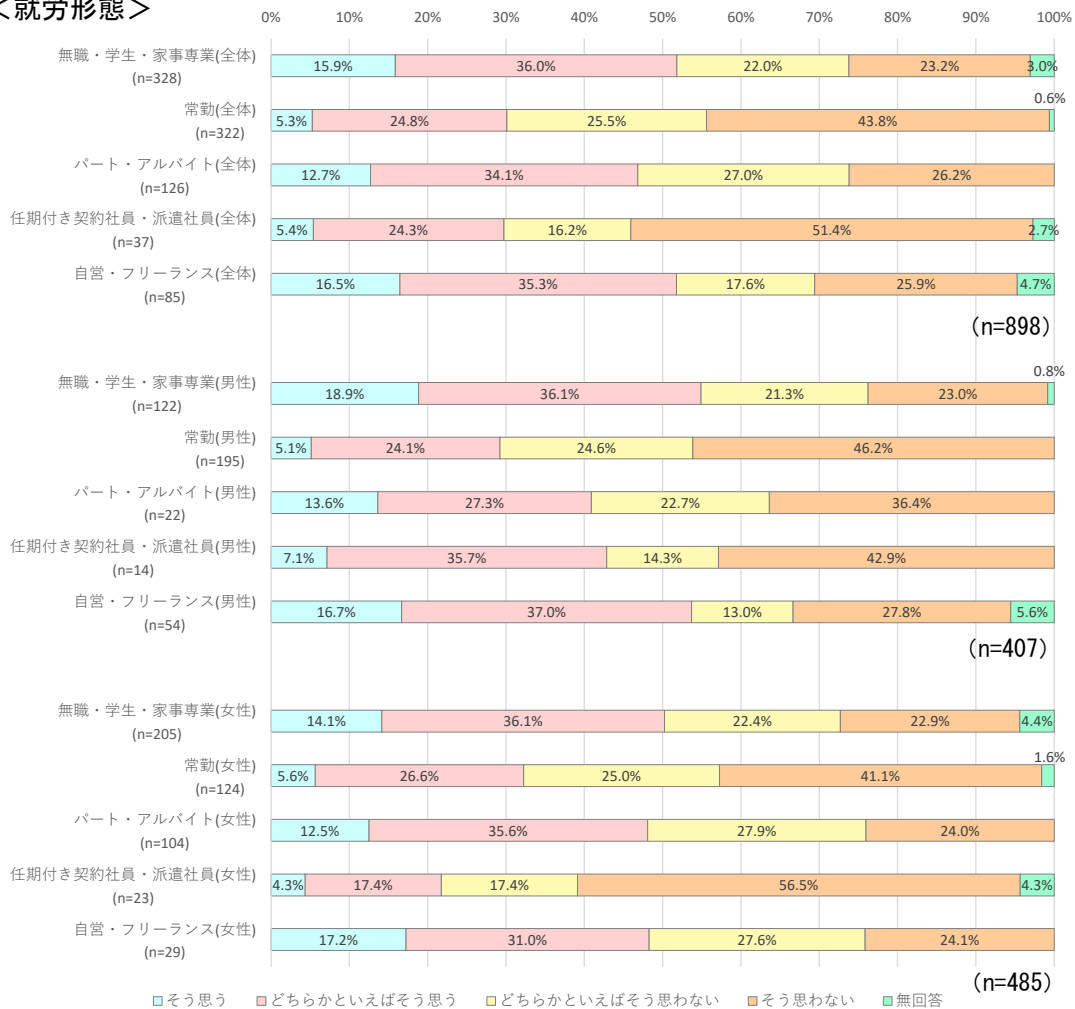
<男女別・年代別>



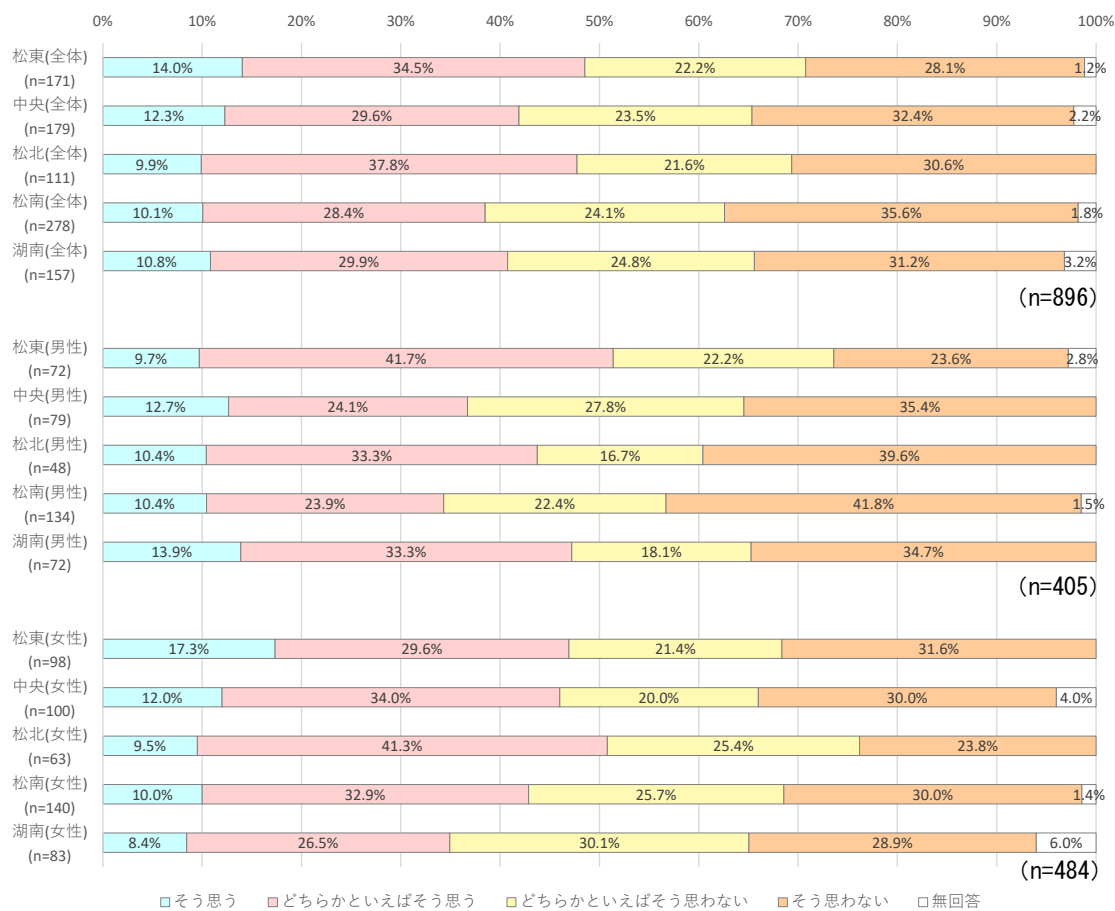
<経年変化>



<就労形態>



<地区別>



(7) 結婚したら女性は、夫の姓に改姓した方が良い

● 否定的な意見(計：57.3%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(計：54.7%)に対して女性(計：59.7%)と女性の方が5.0ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、全体(計：57.3%)に対して50歳代以下がそれぞれ高い割合となっている。特に、20歳代(79.3%)が最も高い割合となっている。

<経年変化>

- ・H27 松江市調査(計：40.1%)と比較すると17.2ポイント増加していることがわかる。
- ・男女別に比較すると、H27 松江市調査(男性(計)：36.7%、女性(計)：42.5%、差：5.8ポイント)、本調査(男性(計)：54.7%、女性(計)：59.7%、差：5.0ポイント)と意見の差は小さくなっている。

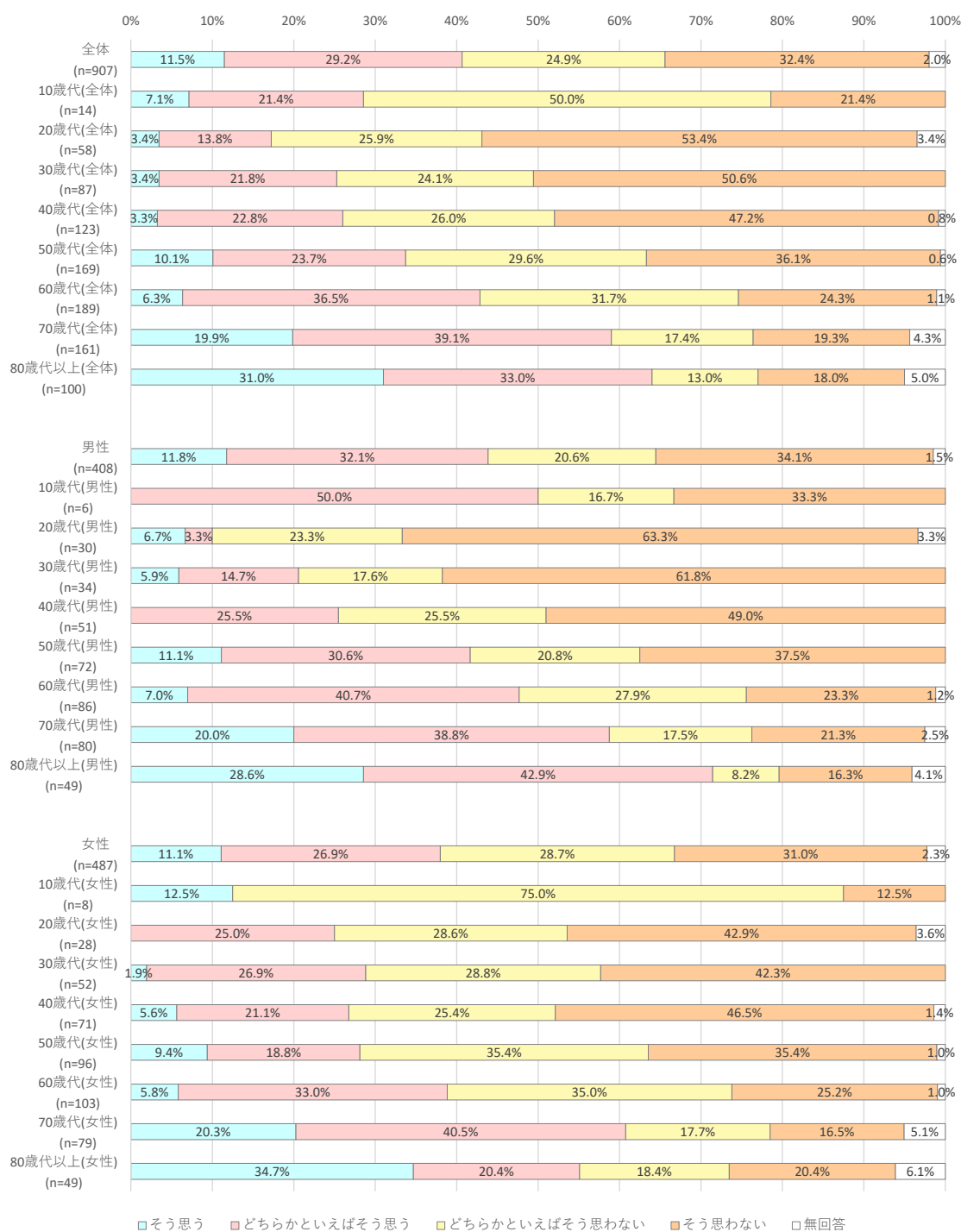
<就労形態>

- ・常勤(計：71.4%)が最も高くなっている。

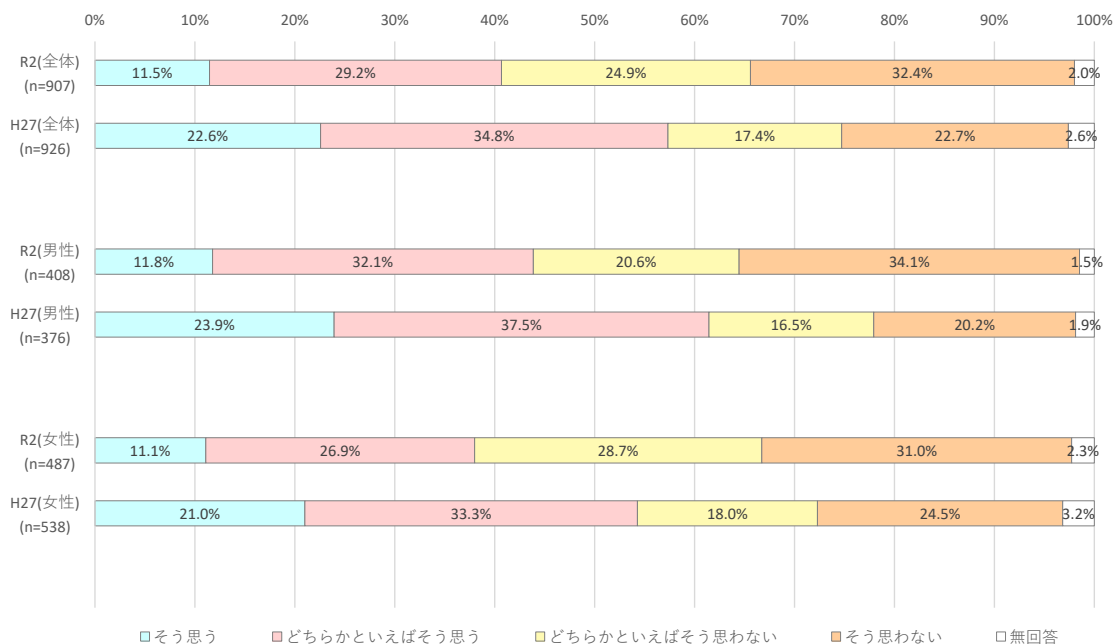
<地区別>

- ・地区別に比較すると、松南(計：62.3%)が最も高くなっている。

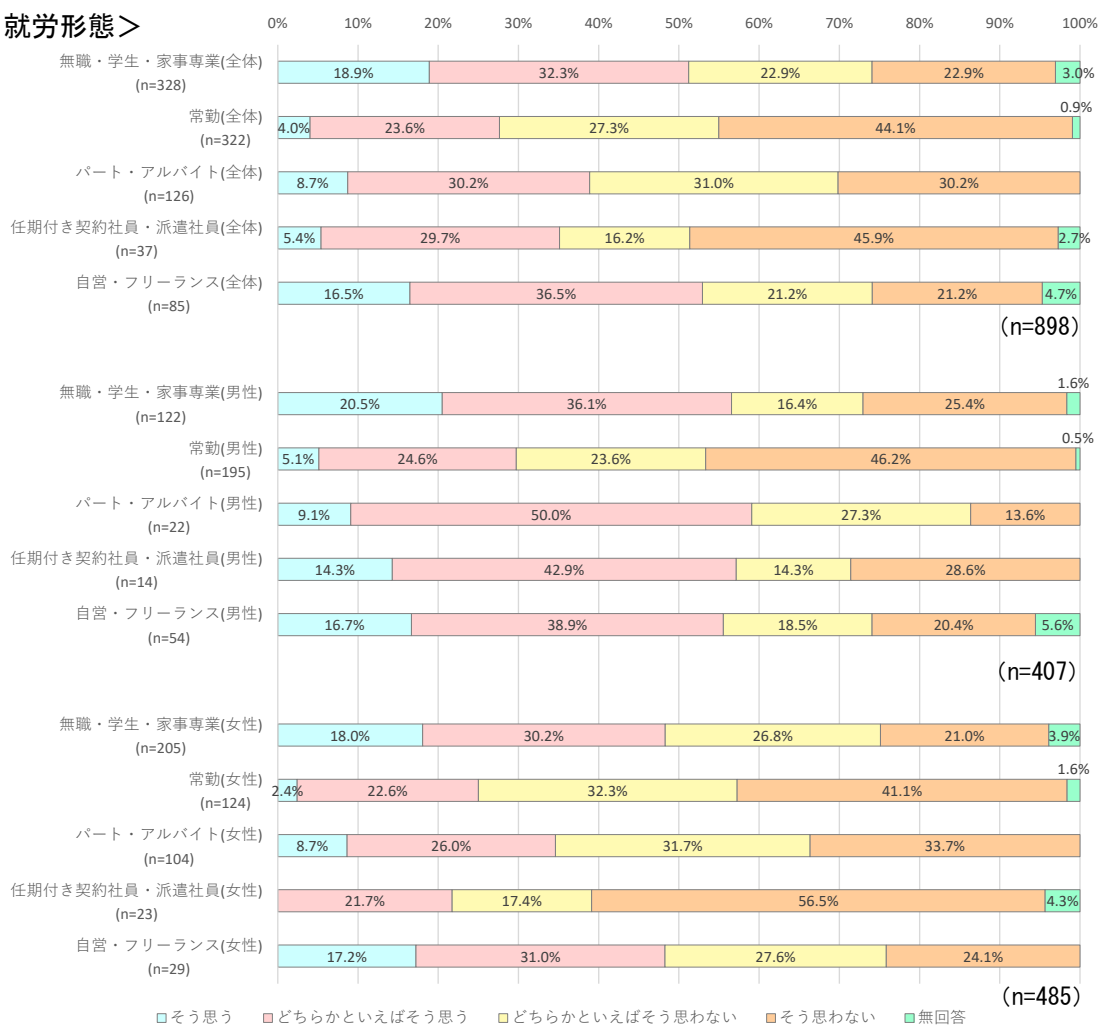
<男女別・年代別>



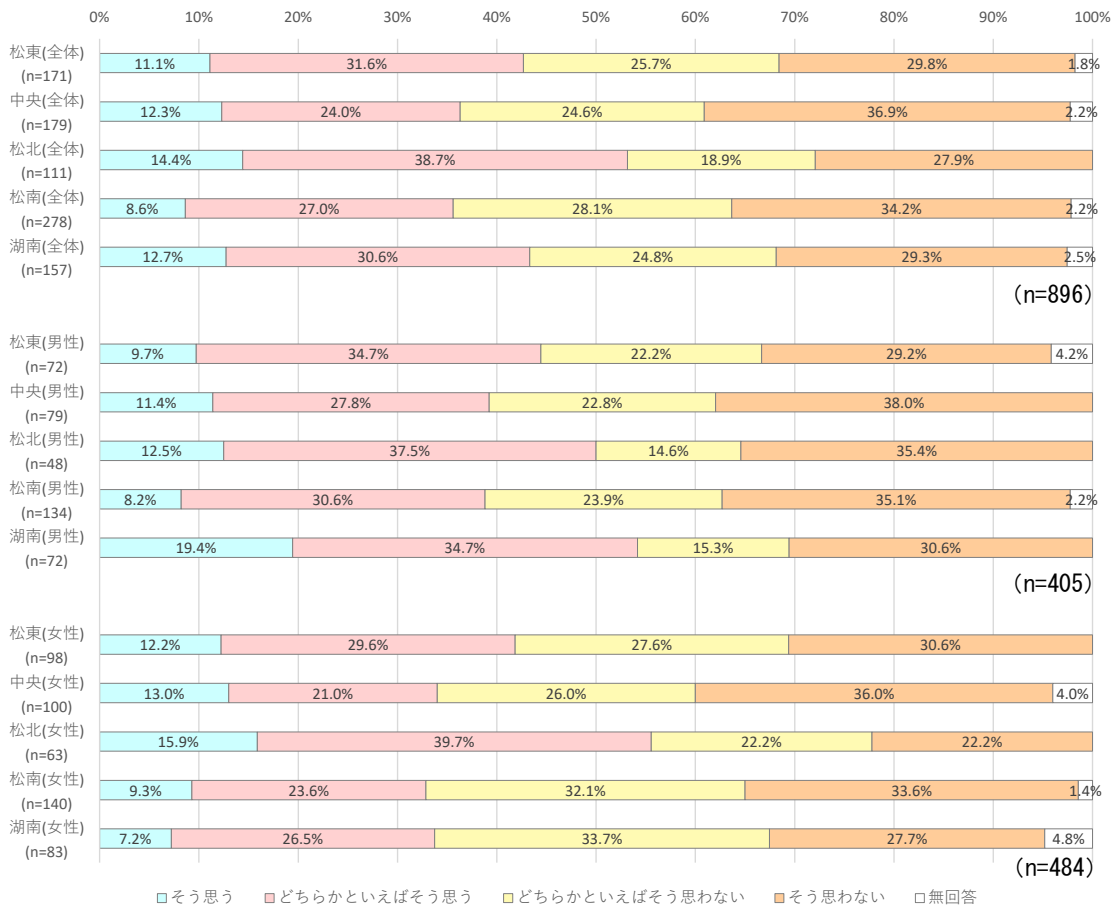
<経年変化>



<就労形態>



<地区別>



(8) 男女共同参画社会は、だれもが生きやすい社会だ

●肯定的な意見(計：69.6%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(計：70.6%)に対して女性(計：68.8%)と男性の方が1.8ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、全体(計：69.6%)と比較すると、20歳代～40歳代の回答割合が低いことがわかる。

<経年変化>

- ・H27 松江市調査(計：73.2%)と比較すると3.6ポイント減少していることがわかる。
- ・男女別に比較すると、H27 松江市調査(男性(計)：75.3%、女性(計)：72.1%、差：3.2ポイント)に対して、本調査(男性(計)：70.6%、女性(計)：68.8%、差：1.8ポイント)と男女での意見の差は小さくなっている。

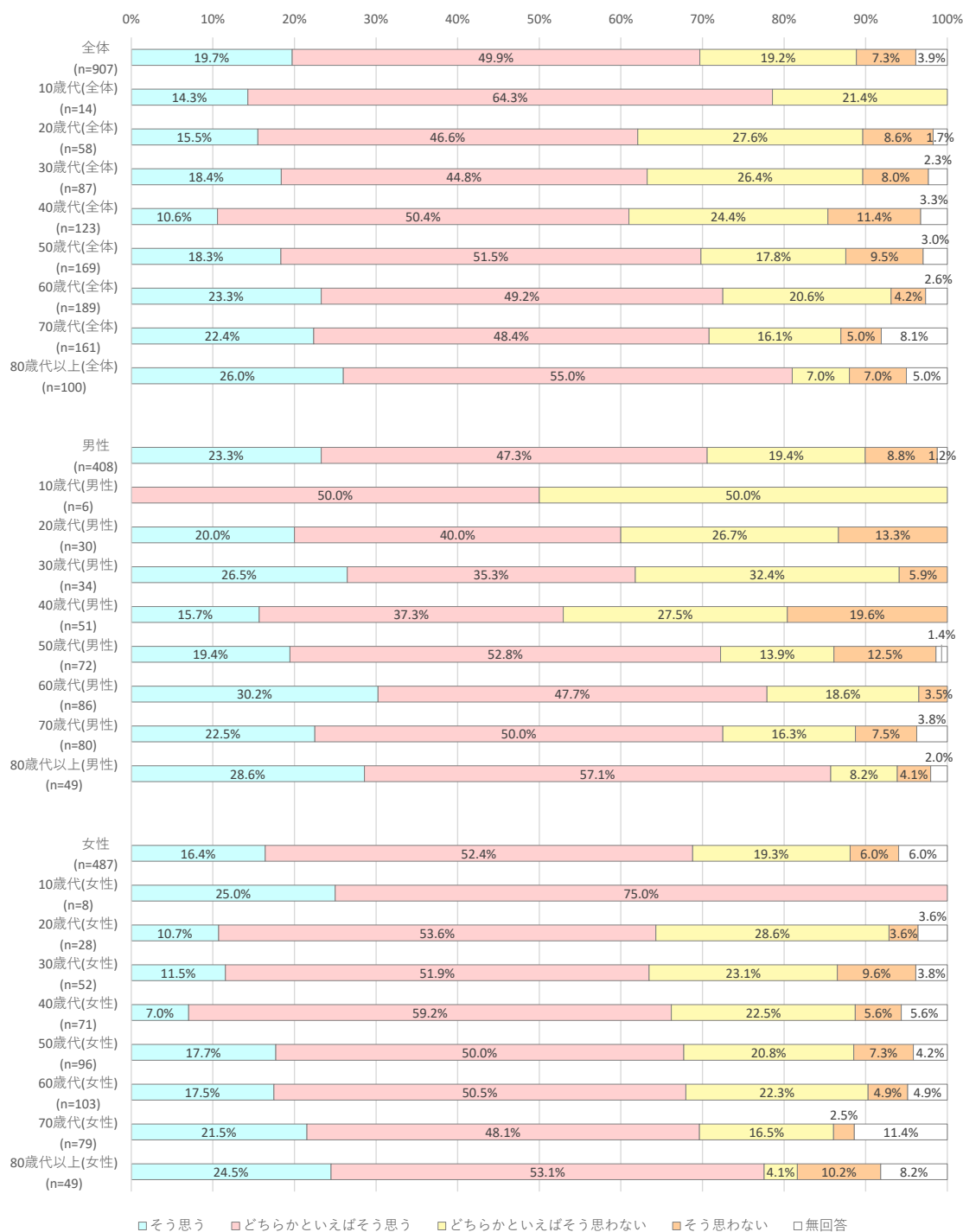
<就労形態>

- ・無職・学生・家事専業(計：71.1%)が最も高く、次いで常勤(計：70.2%)であった。

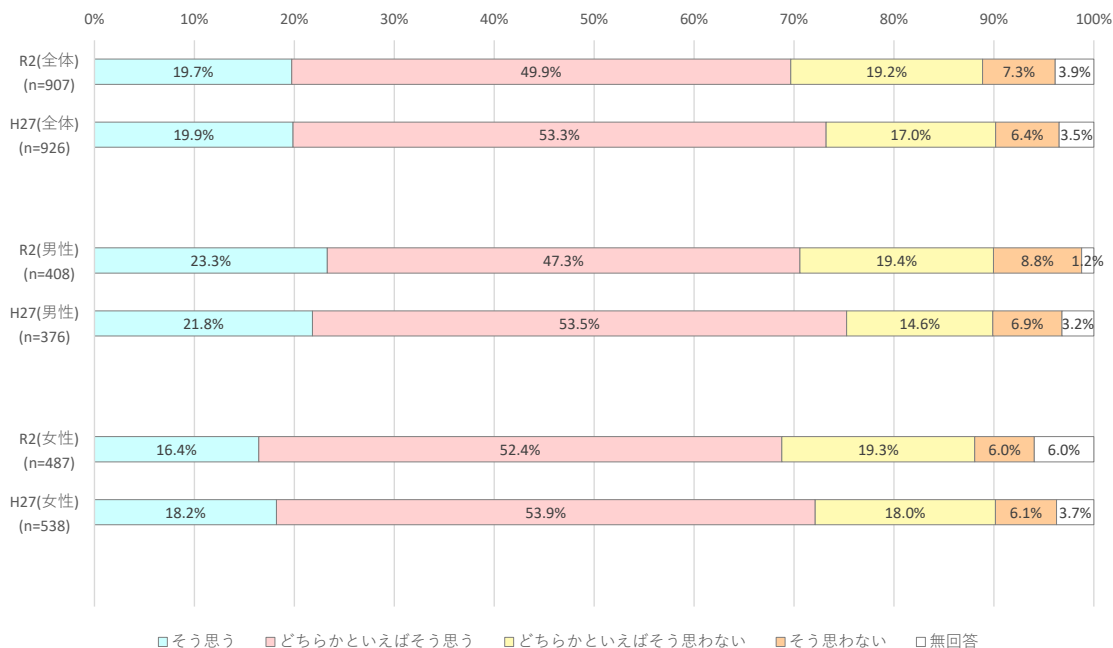
<地区別>

- ・地区別に比較すると、松北(計：75.7%)が最も高くなっている。

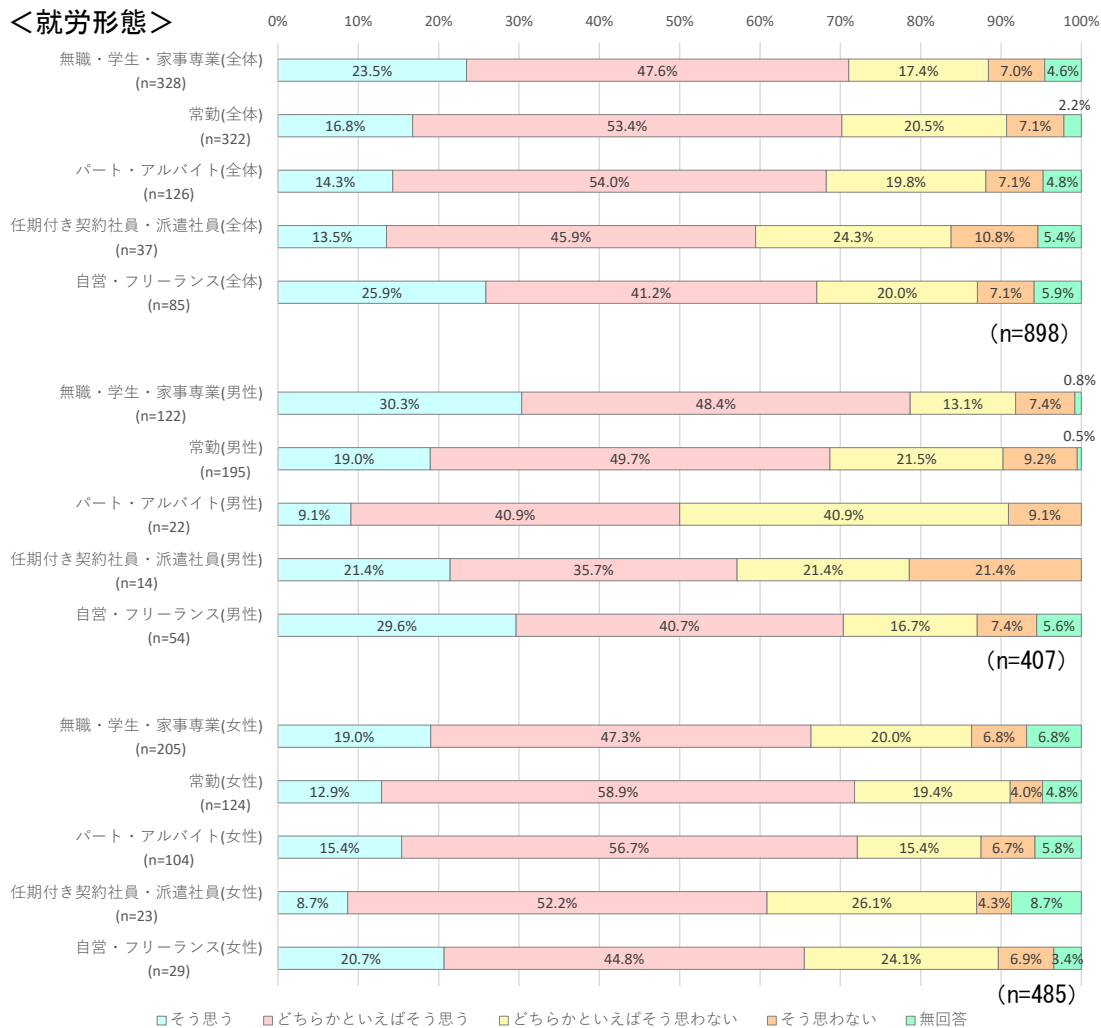
<男女別・年代別>



<経年変化>



<就労形態>



<地区別>



問 3. 市の政策について女性の意見の反映度

- ・市の政策への女性の意見の反映度について、「十分反映されている」(2.9%)、「ある程度反映されている」(49.7%)と半数以上の方は女性の意見が反映されていると感じている。
- ・一方、「ほとんど(全く)反映されていない」(33.3%)、「あまり反映されていない」(2.8%)と女性の意見が反映されていないと考えている方も3割以上存在することがわかる。

●「反映されている」と回答した方(計：52.6%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(計：55.4%)に対して女性(計：50.7%)と男性の方が4.7ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、全体(計：52.6%)に対して、60歳代(計：44.5%)、70歳代(計：47.8%)からの回答が低くなっている。

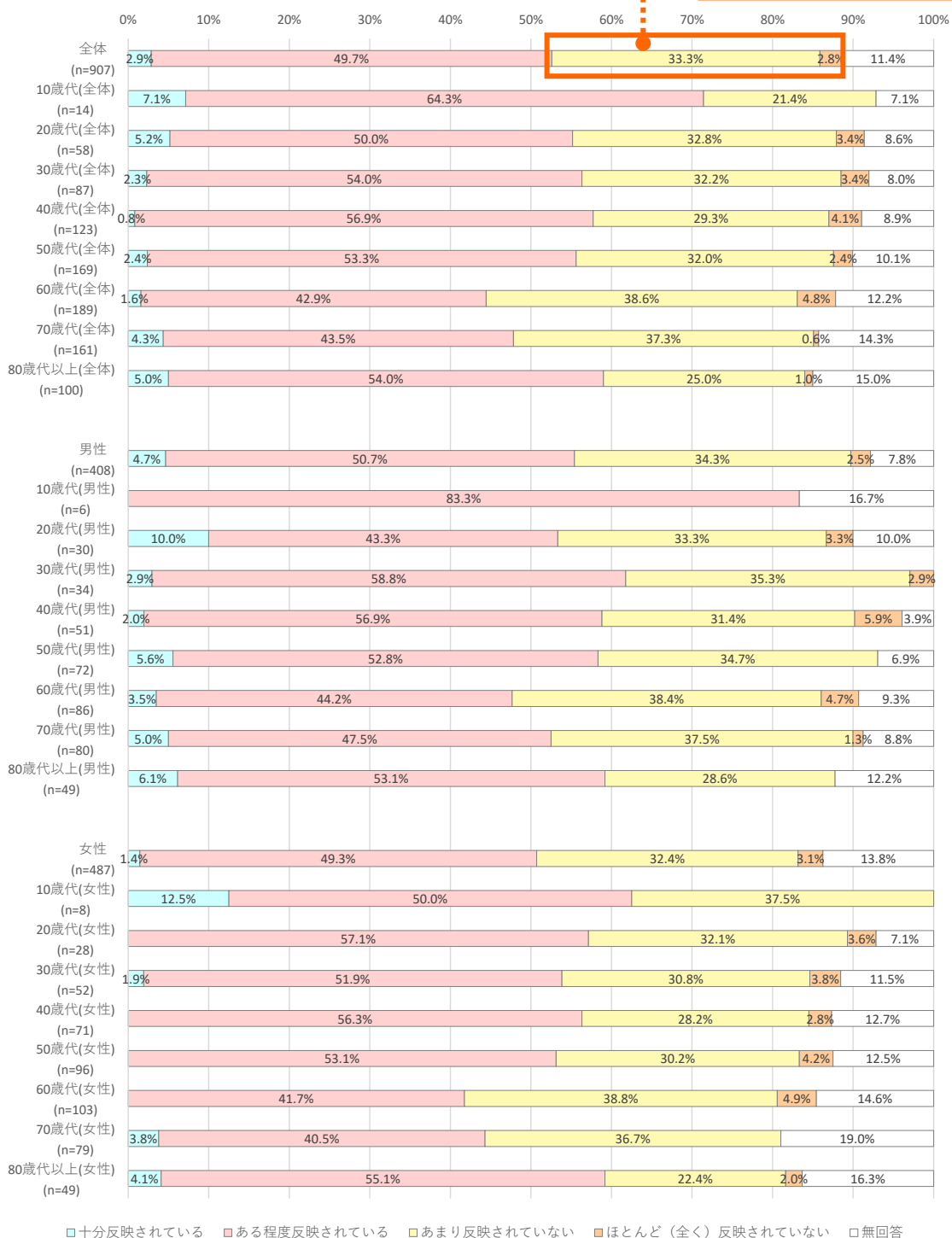
●「反映されていない」と回答した方(計：36.1%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(計：36.8%)に対して女性(計：35.5%)と男性の方が1.3ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、60歳代(計：43.4%)が最も高く、次いで70歳代(計：37.9%)となっている。
男女ともに60歳代(男性(計)：43.1%、女性(計)：43.7%)からの回答が最も高くなっている。

<男女別・年代別>

(反映されていない理由)
問 3-2 へ



●「政治の場での平等感」との関係性について（問1(4)）

- ・問1(4)の「政治の場での平等感」との関連をみてる。

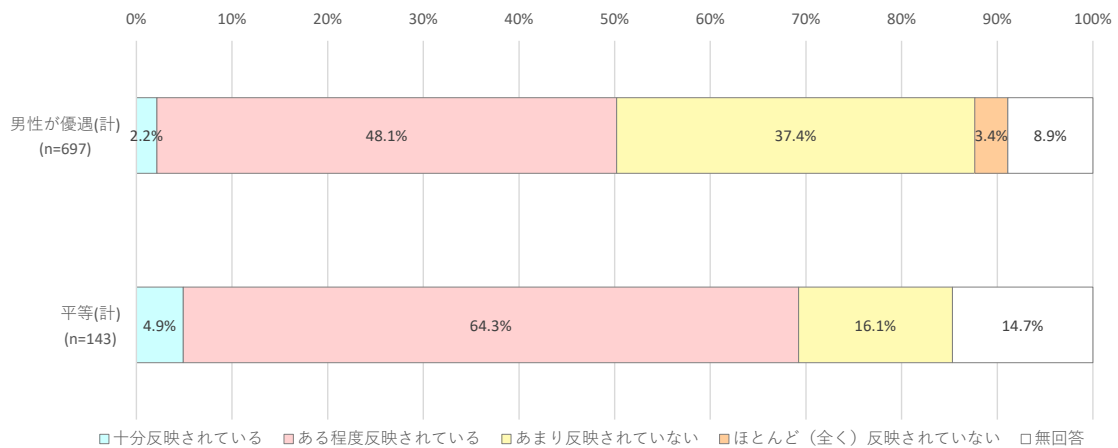
この考えに対して、「男性が優遇(計)」といった意見の方は「市の政策への女性の意見の反映度」に対して「反映されている(計)」(50.3%)となっている。一方、「平等(計)」といった意見の方は「反映されている(計)」(69.2%)と18.9ポイントの差が生じている。

●「法律や制度上での平等感」との関係性について（問1(5)）

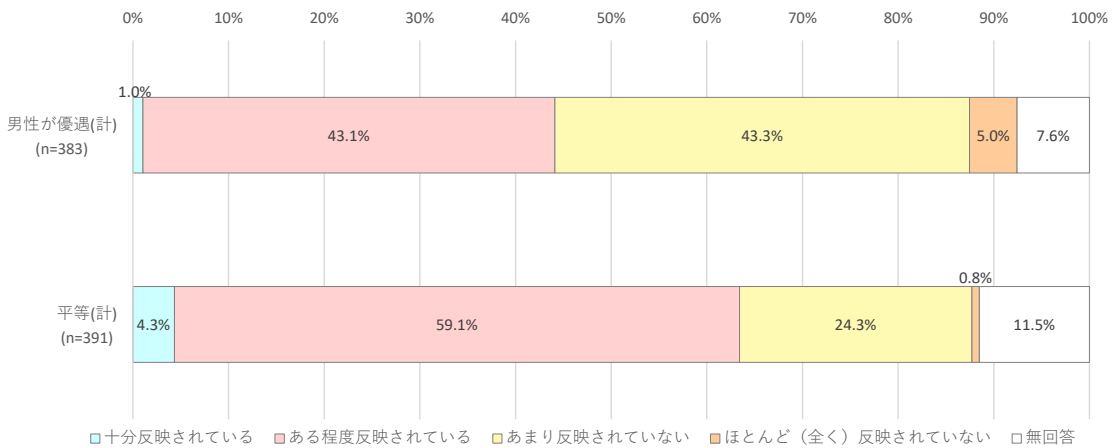
- ・問1(5)の「法律や制度上での平等感」との関連をみてる。

この考えに対して、「男性が優遇(計)」といった意見の方は「市の政策への女性の意見の反映度」に対して「反映されている(計)」(44.1%)となっている。一方、「平等(計)」といった意見の方は「反映されている(計)」(63.4%)と19.3ポイントの差が生じている。

<政治の場での平等感（問1(4)）>



<法律や制度上での平等感（問1(5)）>



＜問3で「あまり反映されていない(33.3%)」「ほとんど(全く)反映されていない(2.8%)」と回答された方＞ (計：36.1%)

問3-2. 女性の意見が反映されていない理由

- ・女性の意見が反映されていない理由としては、「政策・方針決定の場に女性が少ない」(35.8%)が最も高く、次いで「女性の意見や考え方に対して市議会や行政機関の関心が薄い」(24.8%)となっている。

●「政策・方針決定の場に女性が少ない」と回答した方(35.8%)について

＜男女別・年代別＞

- ・男女の回答を比較すると、男性(37.3%)に対して女性(35.3%)と男性の方が2.0ポイント高い。
- ・年代別の男女差については、20歳代男性(9.1%)に対し、20歳代女性(50.0%)と40.9ポイントの差がある。(年代別の差が一番大きい)

＜就労形態別＞

- ・無職、学生、家事専業(40.3%)の回答が最も高い。男性は、常勤(42.9%)、女性は無職・学生・家事専業(40.8%)が最も高くなっている。

●「女性の意見や考え方に対して市議会や行政機関の関心が薄い」と回答した方(24.8%)について

＜男女別・年代別＞

- ・男女の回答を比較すると、男性(22.7%)に対して女性(26.0%)と女性の方が3.3ポイント高い。
- ・年代別の男女差については、40歳代男性(15.8%)に対し、40歳代女性(36.4%)と20.6ポイントの差がある。(年代別の差が一番大きい)

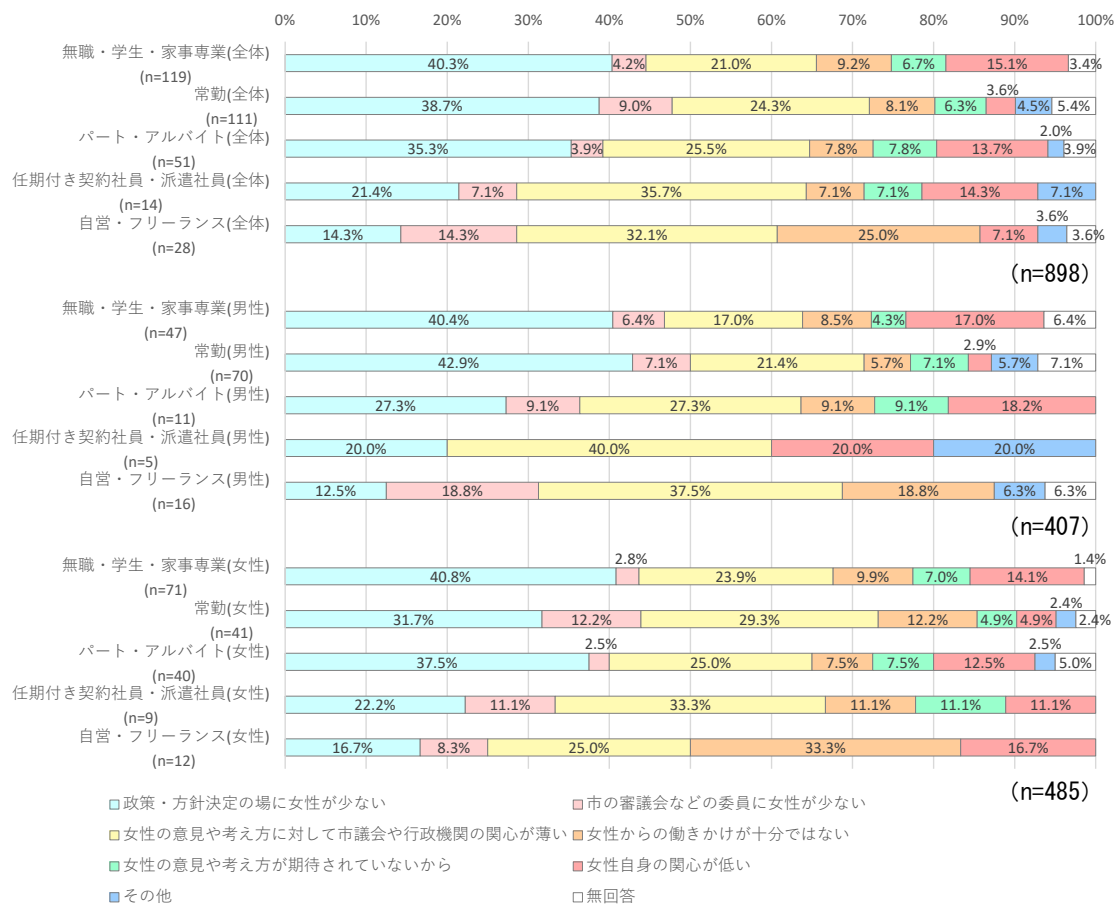
＜就労形態別＞

- ・任期付き契約社員・派遣社員(35.7%)が最も高く、次いで自営・フリーランス(32.1%)であった。

<男女別・年代別>



<就労形態>



2-4. 女性と仕事について

問4. 一般的に女性が仕事をすることについての考え

- ・「子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい(就労継続型)」(51.2%)が最も高く、次いで「子どもが大きくなったら再び仕事に就く方がよい(中断・再就労型)」(25.5%)となっている。

●「子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい(就労継続型)」と回答した方(51.2%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(53.9%)に対して女性(48.9%)と男性の方が5.0ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、30歳代(58.6%)が最も高く20歳代~60歳代は半数以上の回答となっている。

<経年変化>

- ・H22 松江市調査(37.3%)より13.9ポイント、H27 松江市調査(44.9%)より6.3ポイント高くなっており回答割合が増加傾向となっている。
- ・男女別に比較すると、H22 松江市調査(男性：39.0%、女性：36.9%)、H27 松江市調査(男性：47.6%、女性：42.9%)、本調査(男性：53.9%、女性：48.9%)の結果、男女ともに回答割合が高くなっていることがわかる。

●「子どもが大きくなったら再び仕事に就く方がよい(中断・再就労型)」と回答した方(25.5%)について

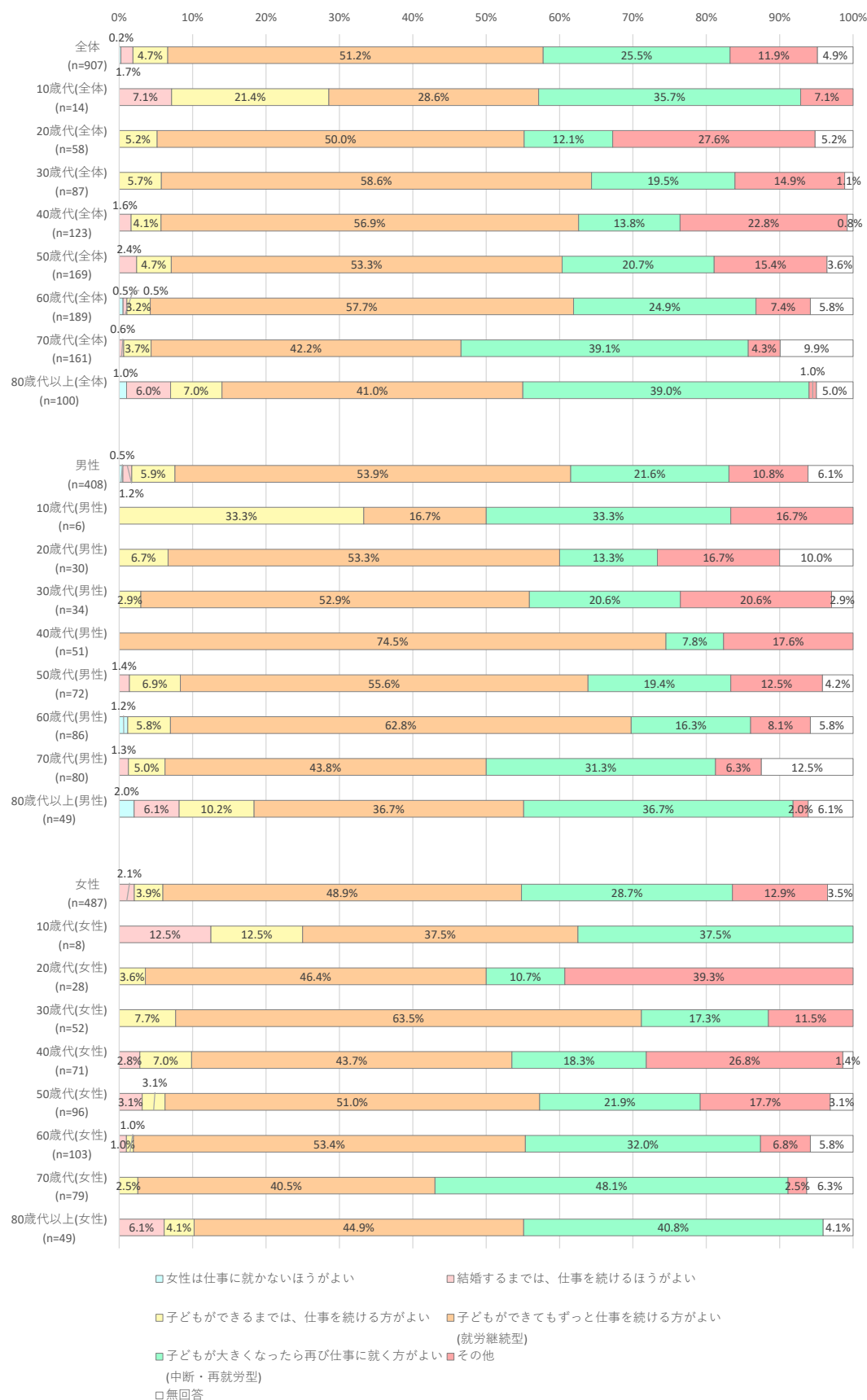
<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(21.6%)に対して女性(28.7%)と女性の方が7.1ポイント高い。
- ・年代別で比較すると、70歳代(39.1%)が最も高く、次いで60歳代(39.0%)となっている。

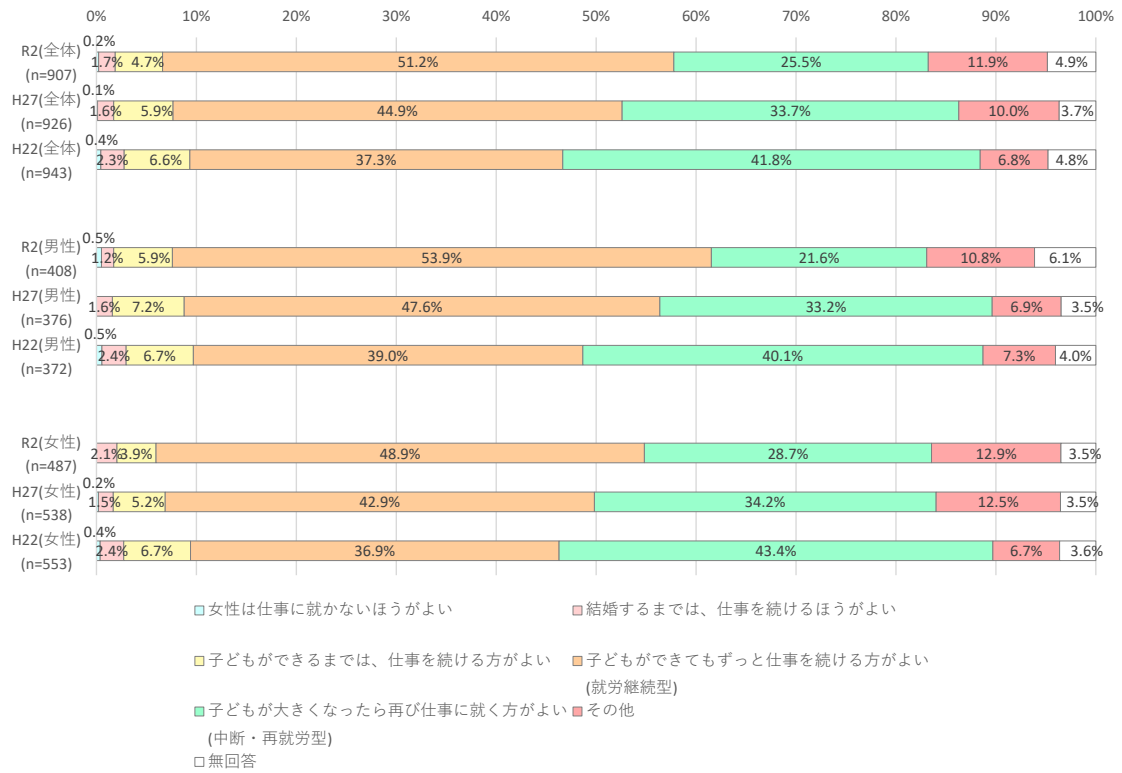
<経年変化>

- ・H22 松江市調査(41.8%)より16.3ポイント、H27 松江市調査(33.7%)より8.2ポイント低くなっており回答割合が減少傾向となっている。
- ・男女別に比較すると、H22 松江市調査(男性：40.1%、女性：43.4%)、H27 松江市調査(男性：33.2%、女性：34.2%)、本調査(男性：21.6%、女性：28.7%)の結果、男女ともに回答割合が低くなっていることがわかる。

<男女別・年代別>



<経年変化>



「子どもができてみずっと仕事を続ける方がよい(就労継続型)」(51.2%)
と回答された方

「就労継続型」と回答した方について、性別役割分担等に関する意識(問2(1)・問2(3)・問2(5))との関係性をみってみる。

●「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との関係性について (問2(1))

- ・問2(1)の「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との関連をみってみる。
この考えに対して、「そう思わない(計)」(86.1%)といった意見の方の割合が高くなっている。

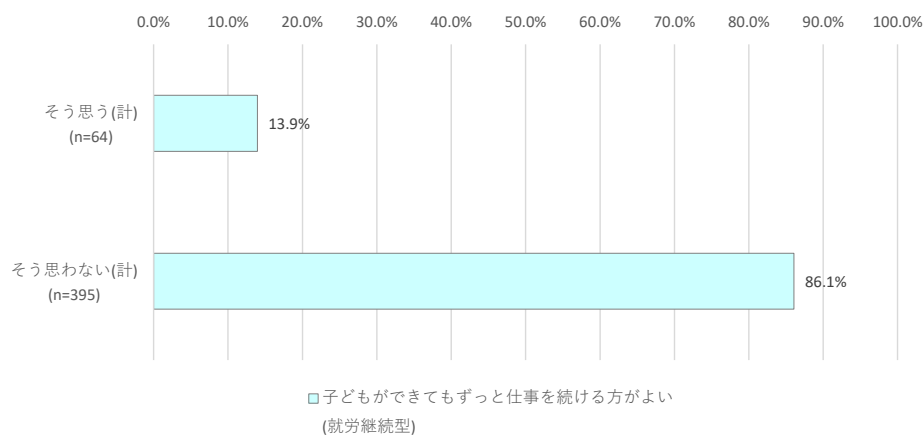
●「子育ては、やはり母親でなくてはならない」との関係性について (問2(3))

- ・問2(3)の「子育ては、やはり母親でなくてはならない」との関連をみってみる。
この考えに対して、「そう思わない(計)」(54.5%)、「そう思う(計)」(45.5%)となっている。

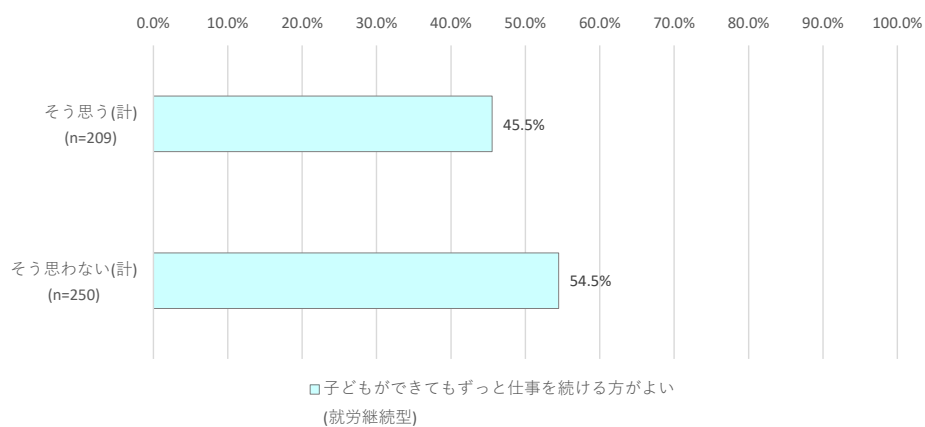
●「男性も育児休暇や介護休暇を取得すべき」との関係性について (問2(5))>

- ・問2(5)の「男性も育児休暇や介護休暇を取得すべき」との関連をみってみる。
この考えに対して、「そう思う(計)」(86.4%)といった意見の方の割合が高くなっている。

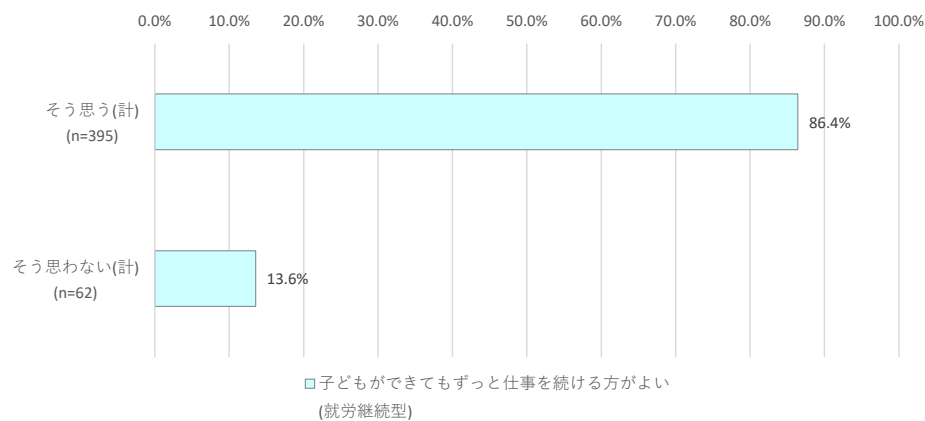
<夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである (問2(1))>



<子育ては、やはり母親でなくてはならない (問2(3))>



<男性も育児休暇や介護休暇を取得すべき (問2(5))>



「子どもが大きくなったら再び仕事に就く方がよい(中断・再就労型)」(25.5%)
と回答された方

「中断・再就労型」と回答した方について、性別役割分担等に関する意識(問2(1)・問2(3)・問2(5))との関係性をみてる。

●「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との関係性について (問2(1))

- ・問2(1)の「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との関連をみてる。
この考えに対して、「そう思わない(計)」(60.4%)といった意見の方の割合が高くなっている。

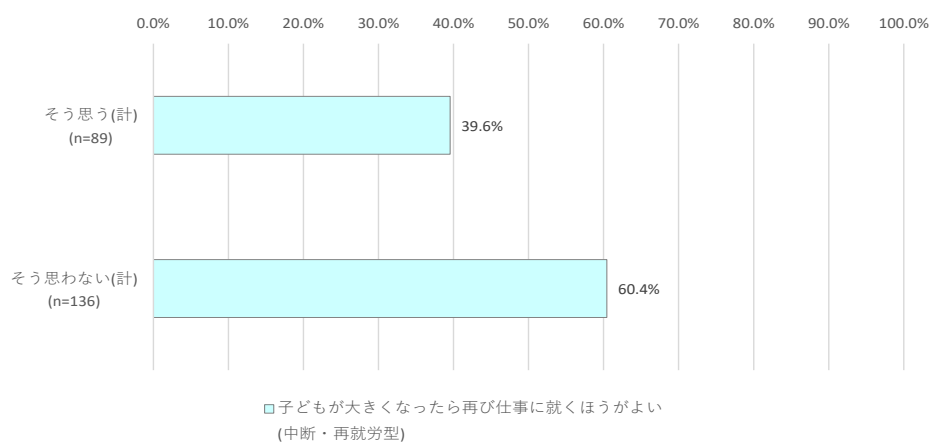
●「子育ては、やはり母親でなくてはならない」との関係性について (問2(3))>

- ・問2(3)の「子育ては、やはり母親でなくてはならない」との関連をみてる。
この考えに対して、「そう思う(計)」(66.1%)といった意見の方の割合が高くなっている。

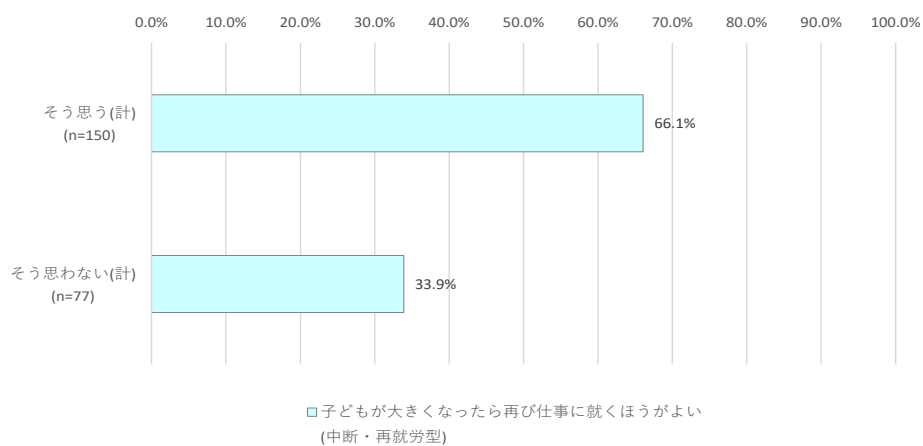
●「男性も育児休暇や介護休暇を取得すべき」との関係性について (問2(5))>

- ・問2(5)の「男性も育児休暇や介護休暇を取得すべき」との関連をみてる。
この考えに対して、「そう思う(計)」(78.3%)といった意見の方の割合が高くなっている。

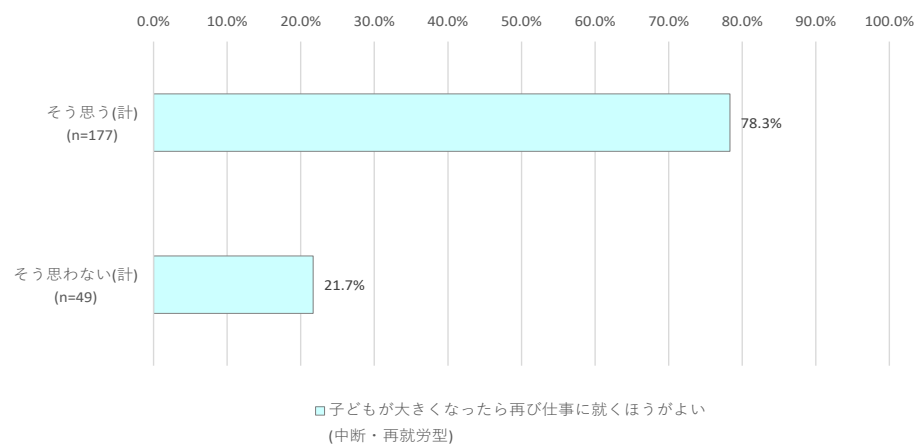
<夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである (問 2(1))>



<子育ては、やはり母親でなくてはならない (問 2(3))>



<男性も育児休暇や介護休暇を取得すべき (問 2(5))>



問 5. 一般的に女性が働き続ける状況について

・「どちらかといえば働き続けにくい」(50.8%)「働き続けにくい」(8.9%)と約6割の方が働き続けにくい状況であると感じていることがわかる。

●「働き続けにくい」(計：59.7%)と回答した方について

<男女別・年代別>

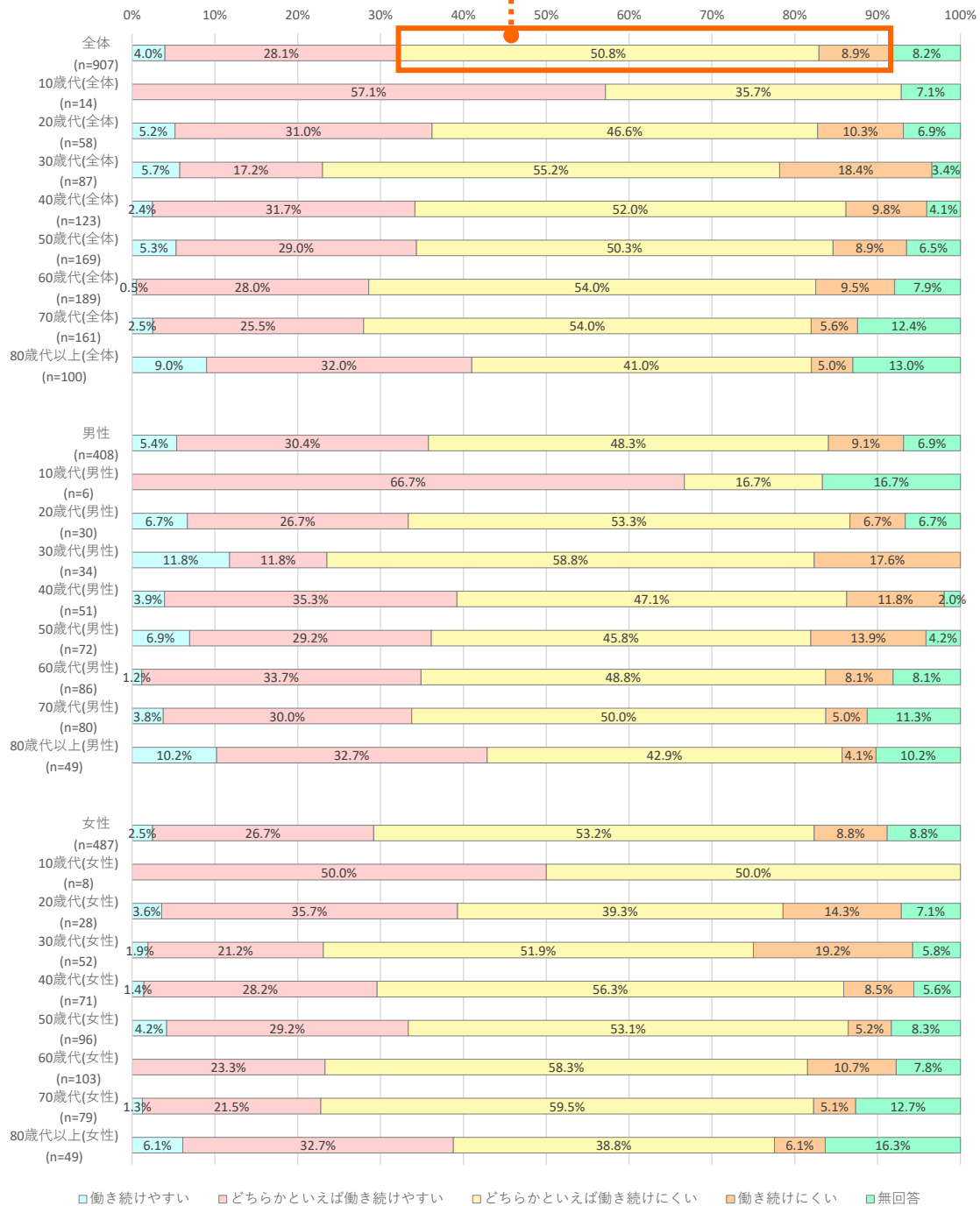
- ・男女の回答を比較すると、男性(計：57.4%)に対して女性(計：62.0%)と女性の方が4.6ポイント高い。

<就労形態別>

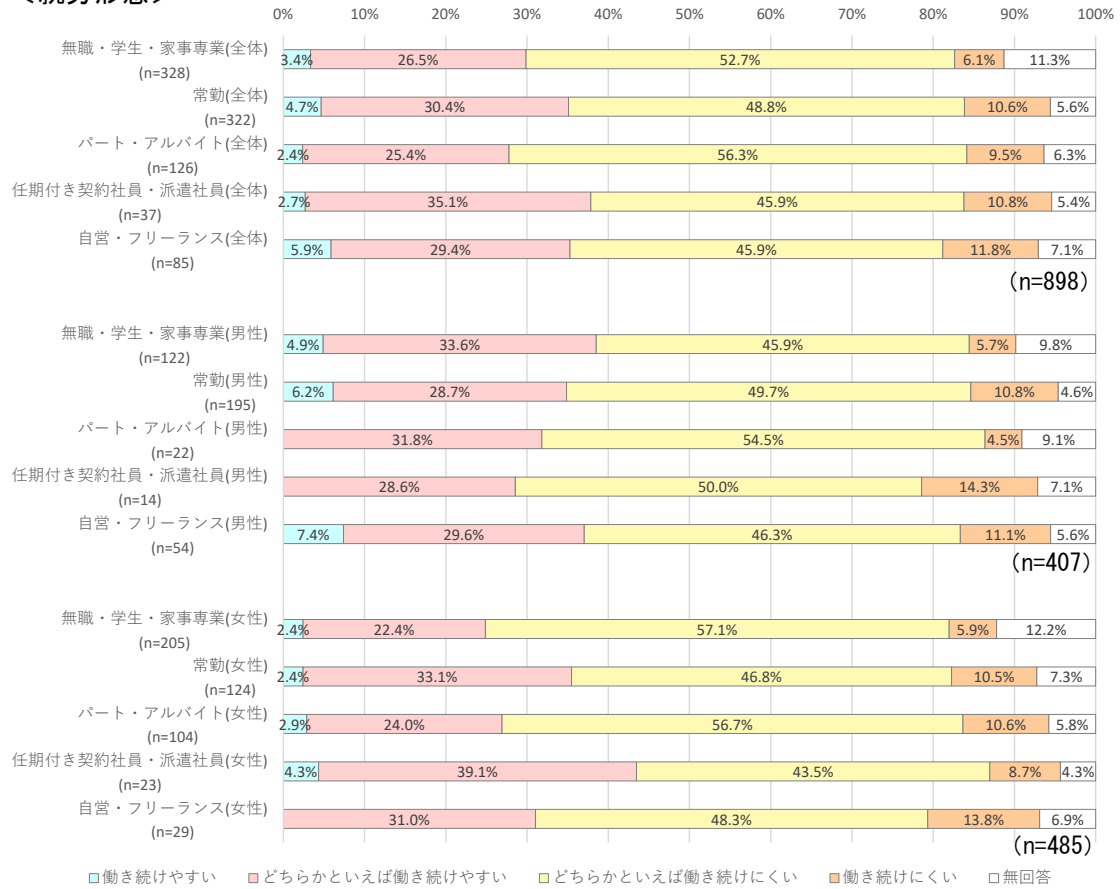
- ・「パート・アルバイト」(計：65.8%)が最も高い割合となっている。
- ・男女別に比較すると、男性は「任期付き契約社員・派遣社員」(計：64.3%)、女性は「パート・アルバイト」(計：67.3%)がそれぞれ最も高い割合となっている。

<男女別・年代別>

(働き続けていく上で障害
となっていること)
問 5-2 へ



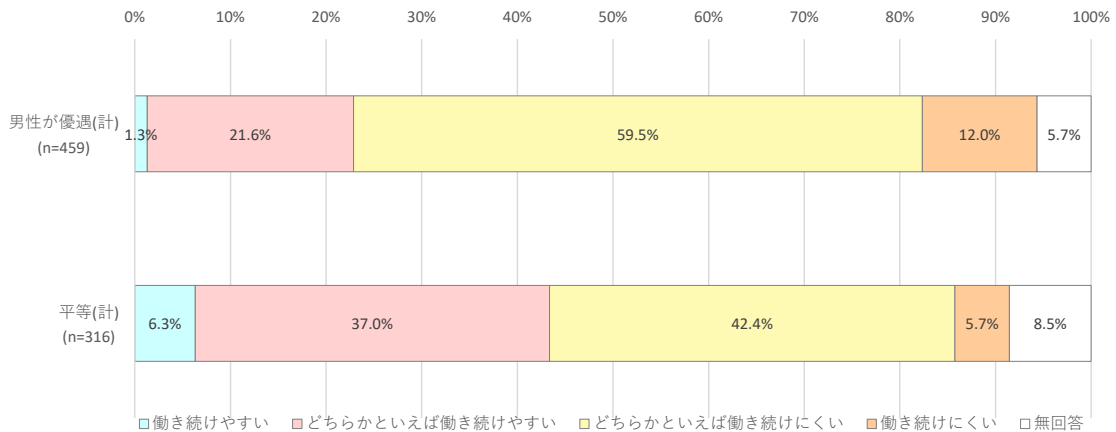
<就労形態>



●「職場での平等感」との関係性について (問1(2))>

・問1(2)の「職場での平等感」との関連をみしてみる。

この考えに対して、「男性が優遇(計)」といった意見の方は「女性が働き続ける状況」について「働き続けにくい(計)」(71.5%)となっている。一方、「平等(計)」といった意見の方は「働き続けにくい(計)」(48.1%)と23.4ポイントの差が生じている。



＜問5で「どちらかといえば働き続けにくい(n=461)」「働き続けにくい(n=81)」
と回答された方＞（計：59.7%）

問5-2. 女性が働き続けていく上で障害となっていること（複数回答）

- ・「育児施設が十分でない」（60.1%）が最も高く、次いで、「不安定な雇用形態が多い」（52.8%）、「結婚・出産退職の慣行がある」（40.8%）となっている。

●「育児施設が十分でない」（60.1%）と回答した方について

＜男女別・年代別＞

- ・男女の回答を比較すると、男性（64.1%）に対して女性（57.0%）と男性の方が7.1ポイント高い。

＜就労形態別＞

- ・「常勤」（67.0%）が最も高い割合となっている。
- ・男女別に比較すると、最も高い割合は男女ともに「常勤」（男性：66.9%、女性：66.2%）であった。

●「不安定な雇用形態が多い」（52.8%）と回答した方について

＜男女別・年代別＞

- ・男女の回答を比較すると、男性（51.3%）に対して女性（53.6%）と女性の方が2.3ポイント高い。

＜就労形態別＞

- ・「無職・学生・家事専業」（59.1%）が最も高い割合となっている。
- ・男女別に比較すると、男性は「パート・アルバイト」（76.9%）、女性は「任期付き契約社員・派遣社員」（66.7%）がそれぞれ最も高くなっている。

●「結婚・出産退職の慣行がある」（40.8%）と回答した方について

＜男女別・年代別＞

- ・男女の回答を比較すると、男性（43.2%）に対して女性（38.7%）と男性の方が4.5ポイント高い。

＜就労形態別＞

- ・「自営・フリーランス」（46.9%）が最も高い割合となっている。
- ・男女別に比較すると、男性は「任期付き契約社員・派遣社員」（55.6%）、女性は「自営・フリーランス」（55.6%）がそれぞれ最も高くなっている。

<男女別・年代別>

(複数回答)

	育児施設が十分でない	不安定な雇用形態が多い	結婚・出産退職の慣行がある	介護施設が十分でない	長時間労働や残業がある	昇進・昇格、教育・訓練等に男女で不平等な扱いがある	家族の理解や協力が得にくい	勤め続けにくい雰囲気がある	女性に対する年々厳しい雰囲気がある	職場でのセクシュアルハラスメントがある	仕事は補助的な仕事しか任せてもらえない	女性自身に働き続けようという意欲が不足している	技術が自身の知識やスキルに不足している	その他	無回答
全体 (n=542)	60.1%	52.8%	40.8%	36.9%	36.2%	31.2%	26.8%	21.2%	16.1%	14.8%	14.8%	10.0%	7.2%	0.4%	
10歳代(全体) (n=5)	80.0%	20.0%	80.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	
20歳代(全体) (n=33)	63.6%	36.4%	57.6%	15.2%	33.3%	27.3%	24.2%	15.2%	24.2%	21.2%	18.2%	9.1%	12.1%	0.0%	
30歳代(全体) (n=64)	64.1%	39.1%	45.3%	29.7%	43.8%	29.7%	20.3%	12.5%	14.1%	15.6%	7.8%	4.7%	17.2%	0.0%	
40歳代(全体) (n=75)	70.7%	45.3%	32.0%	37.3%	45.3%	28.0%	29.3%	25.3%	14.7%	6.7%	12.0%	4.0%	12.0%	1.3%	
50歳代(全体) (n=100)	64.0%	54.0%	47.0%	49.0%	36.0%	37.0%	29.0%	20.0%	16.0%	11.0%	12.0%	7.0%	5.0%	0.0%	
60歳代(全体) (n=120)	60.8%	63.3%	37.5%	43.3%	31.7%	31.7%	26.7%	19.2%	15.0%	11.7%	13.3%	9.2%	5.0%	0.0%	
70歳代(全体) (n=96)	45.8%	62.5%	33.3%	31.3%	33.3%	32.3%	29.2%	24.0%	16.7%	20.8%	19.8%	20.8%	2.1%	0.0%	
80歳代以上(全体) (n=45)	53.3%	51.1%	44.4%	35.6%	33.3%	31.1%	28.9%	33.3%	17.8%	28.9%	26.7%	15.6%	2.2%	2.2%	
男性 (n=234)	64.1%	51.3%	43.2%	34.2%	32.1%	30.3%	25.6%	25.6%	18.8%	17.1%	15.4%	10.7%	5.6%	0.4%	
10歳代(男性) (n=1)	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
20歳代(男性) (n=18)	55.6%	33.3%	61.1%	16.7%	16.7%	33.3%	27.8%	16.7%	33.3%	22.2%	11.1%	5.6%	11.1%	0.0%	
30歳代(男性) (n=26)	73.1%	34.6%	46.2%	34.6%	30.8%	15.4%	23.1%	15.4%	15.4%	15.4%	0.0%	7.7%	19.2%	0.0%	
40歳代(男性) (n=30)	83.3%	40.0%	43.3%	43.3%	33.3%	26.7%	16.7%	36.7%	13.3%	6.7%	16.7%	10.0%	3.3%	0.0%	
50歳代(男性) (n=43)	62.8%	55.8%	51.2%	46.5%	39.5%	32.6%	32.6%	27.9%	23.3%	14.0%	11.6%	9.3%	4.7%	0.0%	
60歳代(男性) (n=49)	63.3%	65.3%	42.9%	28.6%	28.6%	36.7%	22.4%	22.4%	14.3%	16.3%	14.3%	6.1%	4.1%	0.0%	
70歳代(男性) (n=44)	52.3%	59.1%	34.1%	27.3%	29.5%	36.4%	31.8%	29.5%	18.2%	22.7%	29.5%	22.7%	2.3%	0.0%	
80歳代以上(男性) (n=23)	60.9%	43.5%	30.4%	39.1%	43.5%	21.7%	21.7%	26.1%	17.4%	26.1%	17.4%	8.7%	0.0%	4.3%	
女性 (n=302)	57.0%	53.6%	38.7%	38.7%	39.1%	32.1%	27.8%	17.9%	13.9%	12.9%	13.6%	9.3%	0.3%	0.0%	
10歳代(女性) (n=4)	75.0%	0.0%	100.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	
20歳代(女性) (n=15)	73.3%	40.0%	53.3%	13.3%	53.3%	20.0%	20.0%	13.3%	13.3%	20.0%	26.7%	13.3%	40.0%	0.0%	
30歳代(女性) (n=37)	56.8%	40.5%	43.2%	24.3%	51.4%	37.8%	18.9%	10.8%	13.5%	16.2%	13.5%	2.7%	21.6%	0.0%	
40歳代(女性) (n=46)	60.9%	47.8%	23.9%	32.6%	52.2%	28.3%	37.0%	17.4%	15.2%	6.5%	8.7%	0.0%	6.5%	2.2%	
50歳代(女性) (n=56)	64.3%	51.8%	42.9%	50.0%	32.1%	41.1%	26.8%	14.3%	10.7%	7.1%	10.7%	3.6%	7.1%	0.0%	
60歳代(女性) (n=71)	59.2%	62.0%	33.8%	53.5%	33.8%	28.2%	29.6%	16.9%	15.5%	8.5%	12.7%	11.3%	1.4%	0.0%	
70歳代(女性) (n=51)	41.2%	64.7%	33.3%	35.3%	37.3%	29.4%	25.5%	19.6%	13.7%	19.6%	11.8%	19.6%	2.0%	0.0%	
80歳代以上(女性) (n=22)	45.5%	59.1%	59.1%	31.8%	22.7%	40.9%	36.4%	40.9%	18.2%	31.8%	31.8%	22.7%	0.0%	0.0%	

<就労形態>

(複数回答)

	育児施設が十分でない	不安定な雇用形態が多い	結婚・出産退職の慣行がある	介護施設が十分でない	長時間労働や残業がある	昇進・昇格、教育・訓練等に男女で不平等な扱いがある	家族の理解や協力が得にくい	勤め続けにくい雰囲気がある	職場でのセクシュアルハラスメントがある	仕事は補助的なものが多い	女性自身に働き続けようという意欲が不足している	技術が自身の知識や能力に不足している	その他	無回答
無職・学生・家事専業(全体) (n=193)	56.0%	59.1%	38.9%	36.3%	34.7%	31.1%	23.8%	25.4%	18.1%	19.2%	17.1%	14.5%	4.1%	0.0%
常勤(全体) (n=191)	67.0%	46.6%	44.5%	37.7%	38.2%	33.0%	24.6%	19.9%	15.2%	15.7%	13.1%	7.3%	9.4%	0.0%
パート・アルバイト(全体) (n=83)	61.4%	55.4%	32.5%	39.8%	42.2%	32.5%	30.1%	13.3%	9.6%	7.2%	13.3%	7.2%	10.8%	1.2%
任期付き契約社員・派遣社員(全体) (n=21)	38.1%	47.6%	42.9%	23.8%	23.8%	19.0%	38.1%	28.6%	23.8%	9.5%	9.5%	4.8%	19.0%	0.0%
自営・フリーランス(全体) (n=49)	55.1%	49.0%	46.9%	34.7%	28.6%	28.6%	34.7%	18.4%	16.3%	8.2%	14.3%	10.2%	0.0%	2.0%

(n=537)

無職・学生・家事専業(男性) (n=63)	63.5%	58.7%	36.5%	36.5%	42.9%	33.3%	20.6%	30.2%	20.6%	23.8%	22.2%	12.7%	1.6%	0.0%
常勤(男性) (n=118)	66.9%	45.8%	46.6%	33.1%	29.7%	29.7%	28.0%	22.9%	18.6%	15.3%	11.0%	9.3%	8.5%	0.0%
パート・アルバイト(男性) (n=13)	61.5%	76.9%	38.5%	30.8%	38.5%	38.5%	15.4%	23.1%	15.4%	15.4%	15.4%	23.1%	7.7%	0.0%
任期付き契約社員・派遣社員(男性) (n=9)	66.7%	22.2%	55.6%	33.3%	11.1%	22.2%	33.3%	55.6%	22.2%	22.2%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%
自営・フリーランス(男性) (n=30)	56.7%	56.7%	43.3%	36.7%	23.3%	26.7%	30.0%	20.0%	16.7%	10.0%	20.0%	10.0%	0.0%	3.3%

(n=233)

無職・学生・家事専業(女性) (n=129)	52.7%	58.9%	40.3%	36.4%	31.0%	30.2%	24.8%	23.3%	16.3%	17.1%	14.7%	15.5%	5.4%	0.0%
常勤(女性) (n=71)	66.2%	46.5%	39.4%	43.7%	50.7%	38.0%	19.7%	15.5%	9.9%	15.5%	15.5%	2.8%	11.3%	0.0%
パート・アルバイト(女性) (n=69)	62.3%	52.2%	31.9%	42.0%	43.5%	31.9%	33.3%	11.6%	8.7%	5.8%	13.0%	4.3%	11.6%	1.4%
任期付き契約社員・派遣社員(女性) (n=12)	16.7%	66.7%	33.3%	16.7%	33.3%	16.7%	41.7%	8.3%	25.0%	0.0%	8.3%	8.3%	25.0%	0.0%
自営・フリーランス(女性) (n=18)	55.6%	38.9%	55.6%	33.3%	38.9%	33.3%	44.4%	16.7%	16.7%	5.6%	5.6%	11.1%	0.0%	0.0%

(n=297)

2-5. 仕事、生活、地域・個人の生活について

問6(1). 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のバランス（希望）

・「仕事と家庭生活をともに優先したい」（35.5%）が最も高く、次いで、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」（20.0%）、「家庭生活を優先したい」（19.0%）の順に高くなっている。

● 「仕事と家庭生活をともに優先したい」（35.5%）と回答した方について

<男女別・年代別>

・男女の回答を比較すると、男性(36.3%)に対して女性(34.5%)と男性の方が1.8ポイント高い。

<就労形態別>

・「パート・アルバイト」（44.4%）が最も高い割合となっている。
・男女別に比較すると、男性は「常勤」（40.5%）、女性は「パート・アルバイト」（50.0%）がそれぞれ最も高い割合となっている。

● 「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」（20.0%）と回答した方について

<男女別・年代別>

・男女の回答を比較すると、男性(19.4%)に対して女性(20.7%)と女性の方が1.3ポイント高い。

<就労形態別>

・「自営・フリーランス」（34.1%）が最も高い割合となっている。
・男女別に比較すると、最も高い割合は男女ともに「自営・フリーランス」（男性：37.0%、女性：31.0%）であった。

● 「家庭生活を優先したい」（19.0%）と回答した方について

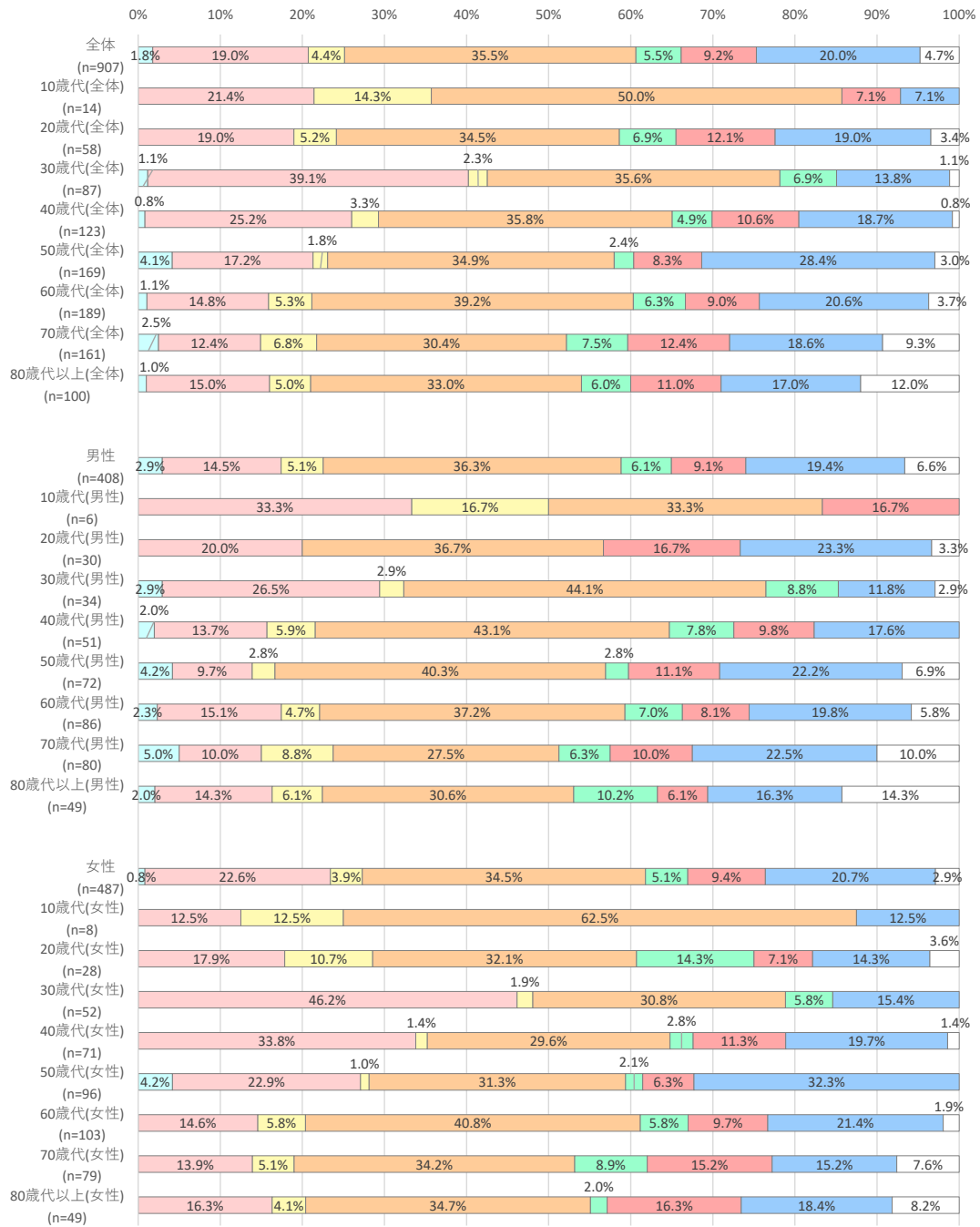
<男女別・年代別>

・男女の回答を比較すると、男性(14.5%)に対して女性(22.6%)と女性の方が8.1ポイント高い。

<就労形態別>

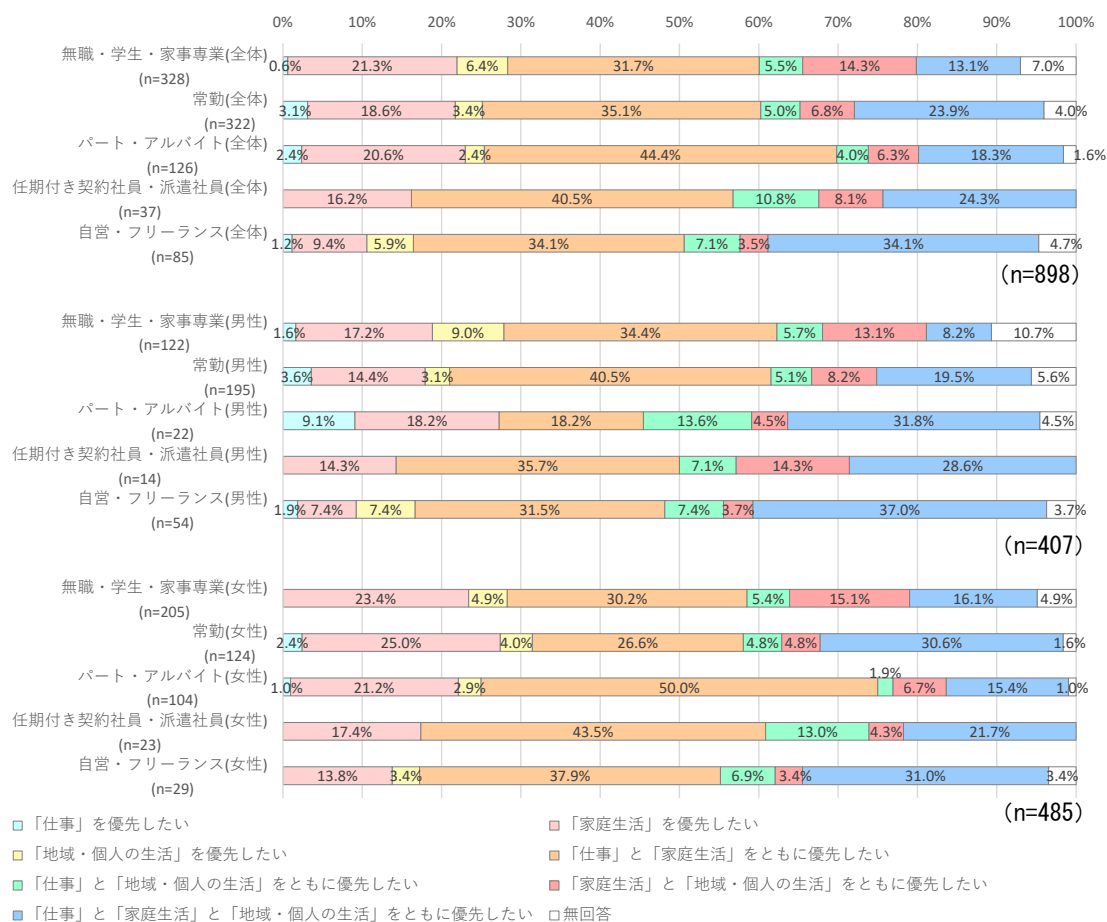
・「無職・学生・家事専業」（21.3%）が最も高い割合となっている。
・男女別に比較すると、男性は「パート・アルバイト」（18.2%）、女性は「常勤」（25.0%）がそれぞれ最も高い割合となっている。

<男女別・年代別>



- 「仕事」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 無回答

<就労形態>



問6(2)。「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のバランス（現実）

・「家庭生活を優先している」(25.4%)が最も高く、次いで、「仕事と家庭生活をともに優先している」(24.6%)、「仕事を優先している」(21.1%)の順に高くなっている。

●「家庭生活を優先している」(25.4%)と回答した方について

<男女別・年代別>

・男女の回答を比較すると、男性(15.9%)に対して女性(33.7%)と男性の方が17.8ポイント高い。

<就労形態別>

・「無職・学生・家事専業」(48.2%)が最も高い割合となっている。
・男女別に比較すると、最も高い割合は男女ともに「無職・学生・家事専業」(男性：37.7%、女性：54.1%)であった。

●「仕事と家庭生活をともに優先している」(24.6%)と回答した方について

<男女別・年代別>

・男女の回答を比較すると、男性(22.8%)に対して女性(25.7%)と女性の方が2.9ポイント高い。

<就労形態別>

・「パート・アルバイト」(37.3%)が最も高い割合となっている。
・男女別に比較すると、男性は「パート・アルバイト」(31.8%)、女性は「自営・フリーランス」(44.8%)がそれぞれ最も高い割合となっている。

●「仕事を優先している」(21.1%)と回答した方について

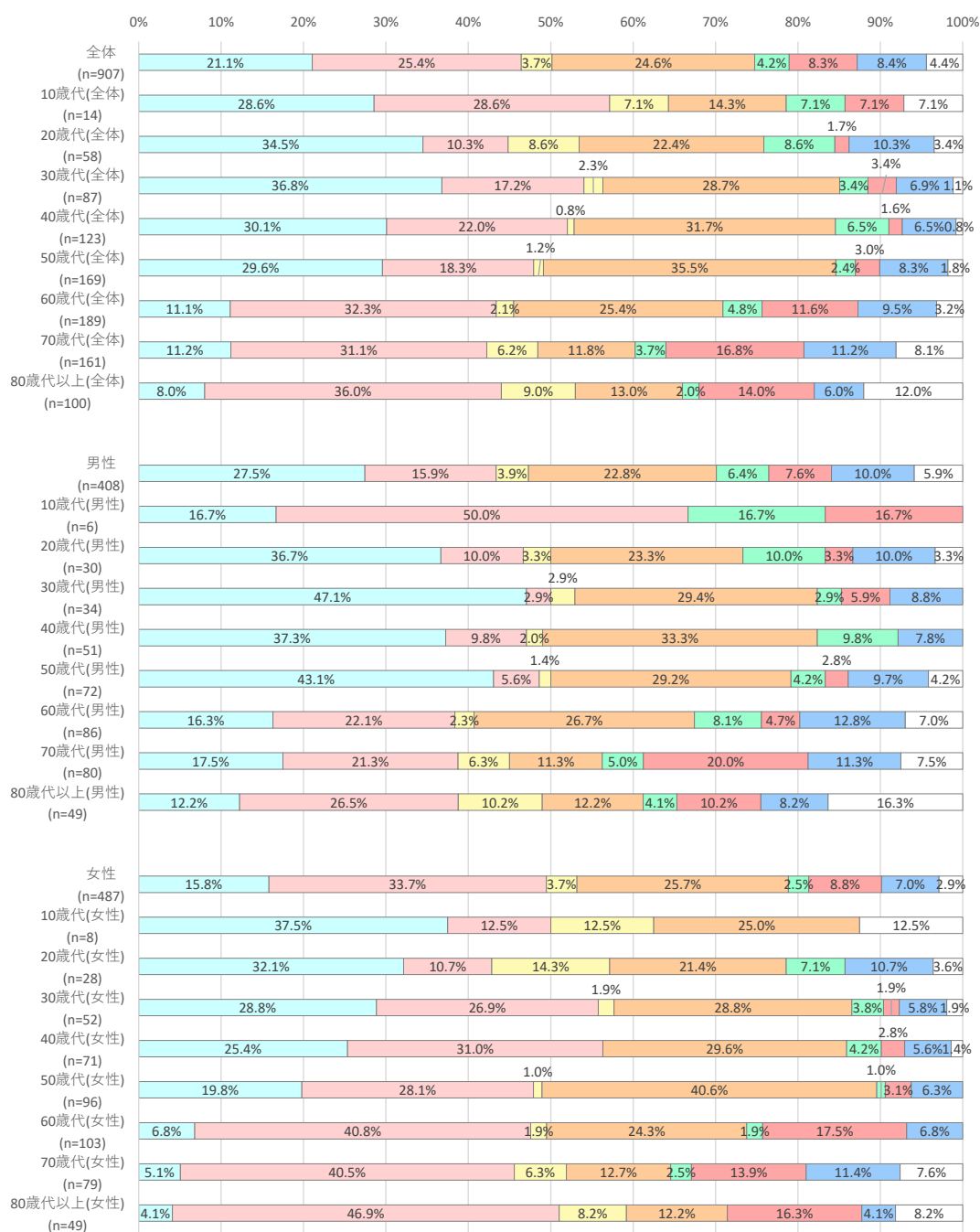
<男女別・年代別>

・男女の回答を比較すると、男性(27.5%)に対して女性(15.8%)と男性の方が11.7ポイント高い。

<就労形態別>

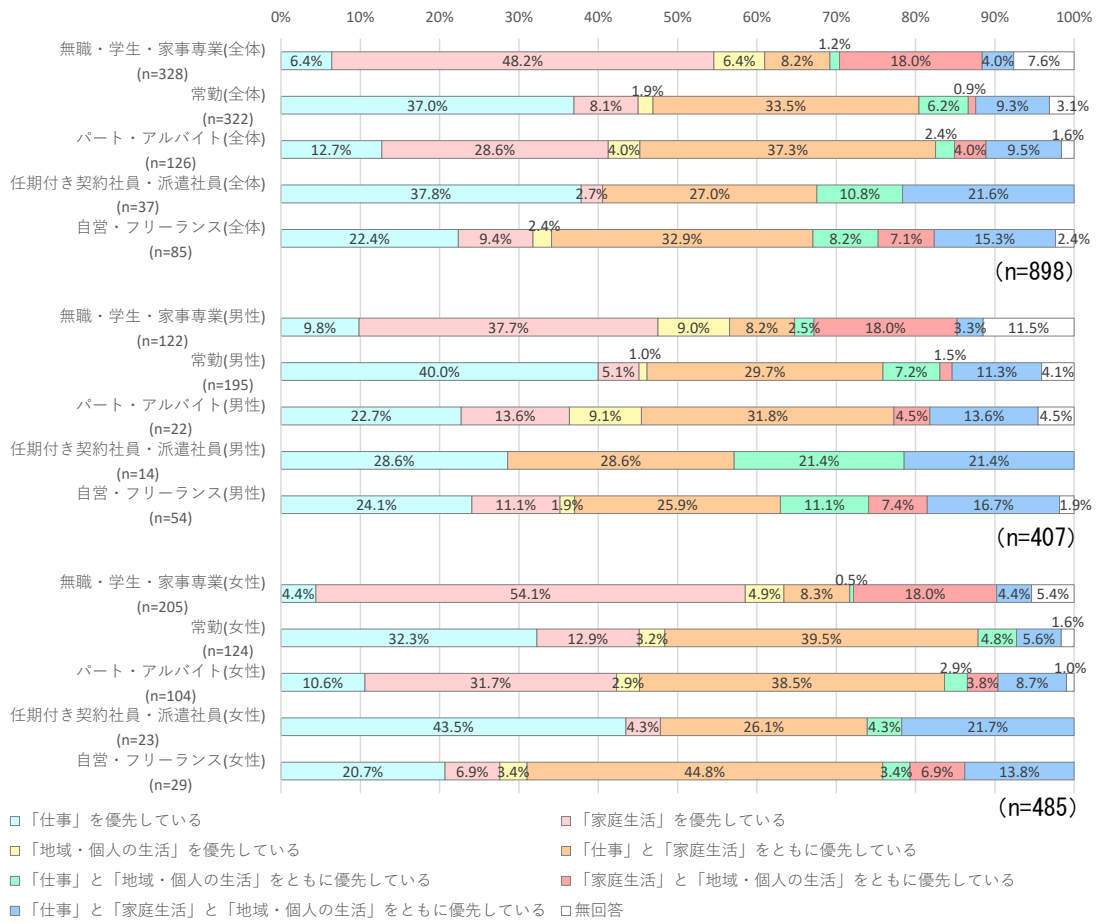
・「任期付き契約社員・派遣社員」(37.8%)が最も高い割合となっている。
・男女別に比較すると、男性は「常勤」(40.0%)、女性は「任期付き契約社員・派遣社員」(43.5%)がそれぞれ最も高い割合となっている。

<男女別・年代別>



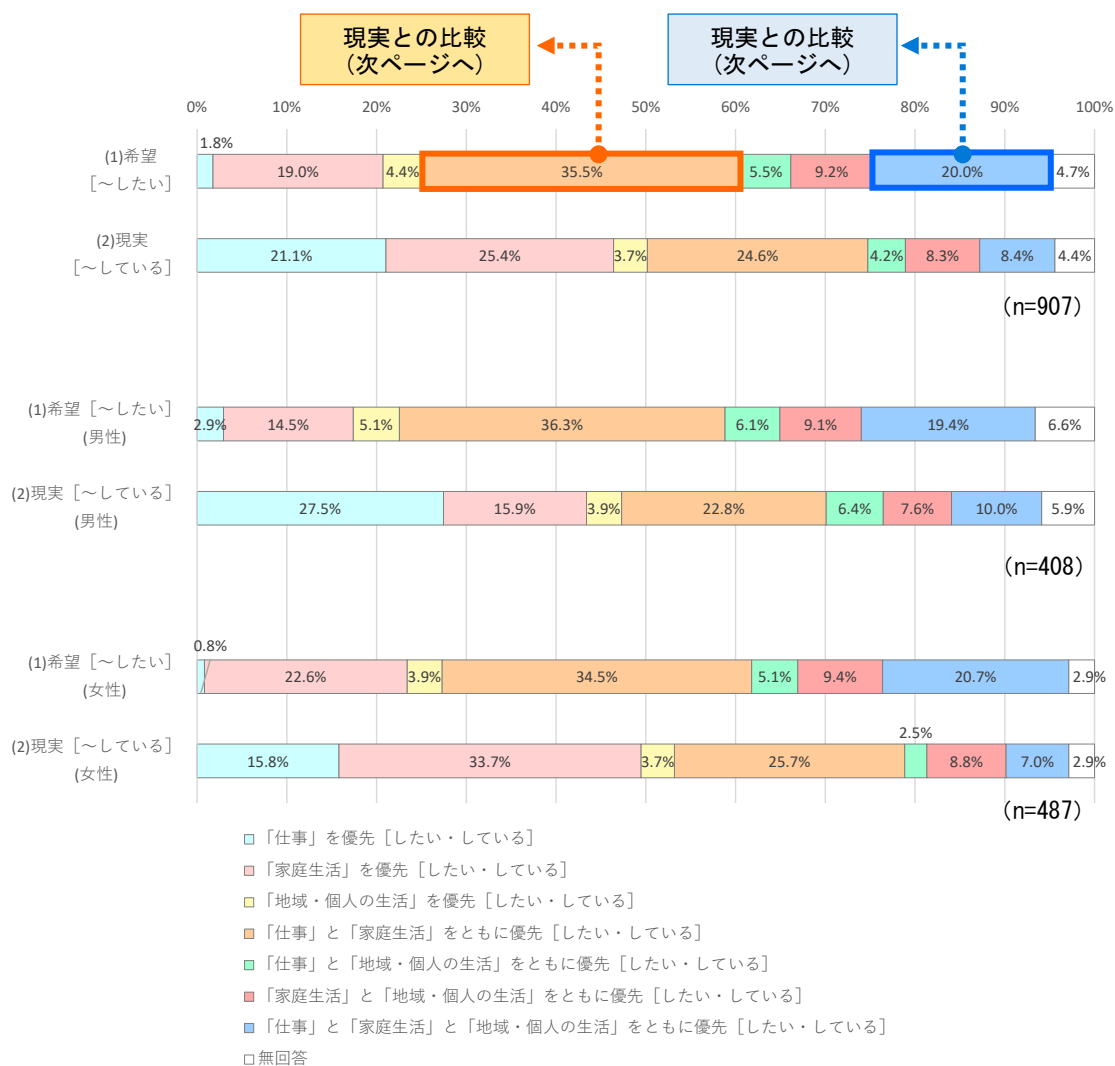
- 「仕事」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 無回答

<就労形態>



「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のバランス（希望と現実の比較）

・希望(問6(1))と現実(問6(2))を比較すると、「仕事を優先したい(希望)」(1.8%)に対して「仕事を優先している(現実)」(21.1%)となっており、19.3ポイントの差が生じている。



● 「仕事と家庭生活をともに優先したい」(35.5%)と回答した方

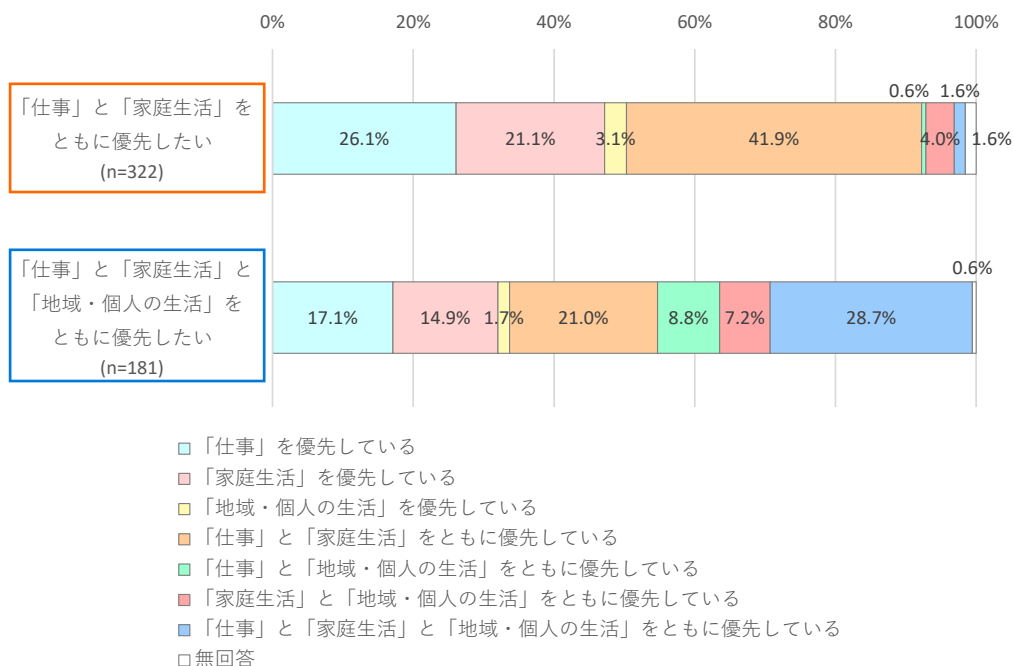
<現実との比較 (問6(2))>

- ・問6(1)の「仕事と家庭生活をともに優先したい」との関連をみてる。
この考えに対して、「仕事と家庭生活をともに優先している」(41.9%)と回答している方が最も高くなっていることがわかる。次いで「仕事を優先している」(26.1%)と回答している方が多い。

● 「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」(20.0%)と回答した方

<現実との比較 (問6(2))>

- ・問6(1)の「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」との関連をみてる。この考えに対して、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先している」(28.7%)と回答している方が最も高くなっていることがわかる。次いで「仕事と家庭生活をともに優先している」(21.0%)と回答している方が多い。



<配偶者（パートナー）と一緒に暮らしている方(n=631)>

問 7. 家庭の中での役割分担

【家事】 (1) (2) (3) (4) (8)

- ・ (1)～(4)の4項目は「妻がすることが多い」と回答した割合が最も高く、(1) 食事のしたく(83.5%)、(2) 食事のかたづけ(71.2%)、(3) 掃除(66.1%)、(4) 日常の買い物(65.8%)の順となっている。
- ・ 一方で、(8) ゴミ出しは「夫がすることが多い」(38.2%)が最も高く、次いで「妻がすることが多い」(36.0%)となっている。

【育児・介護】 (5) (6)

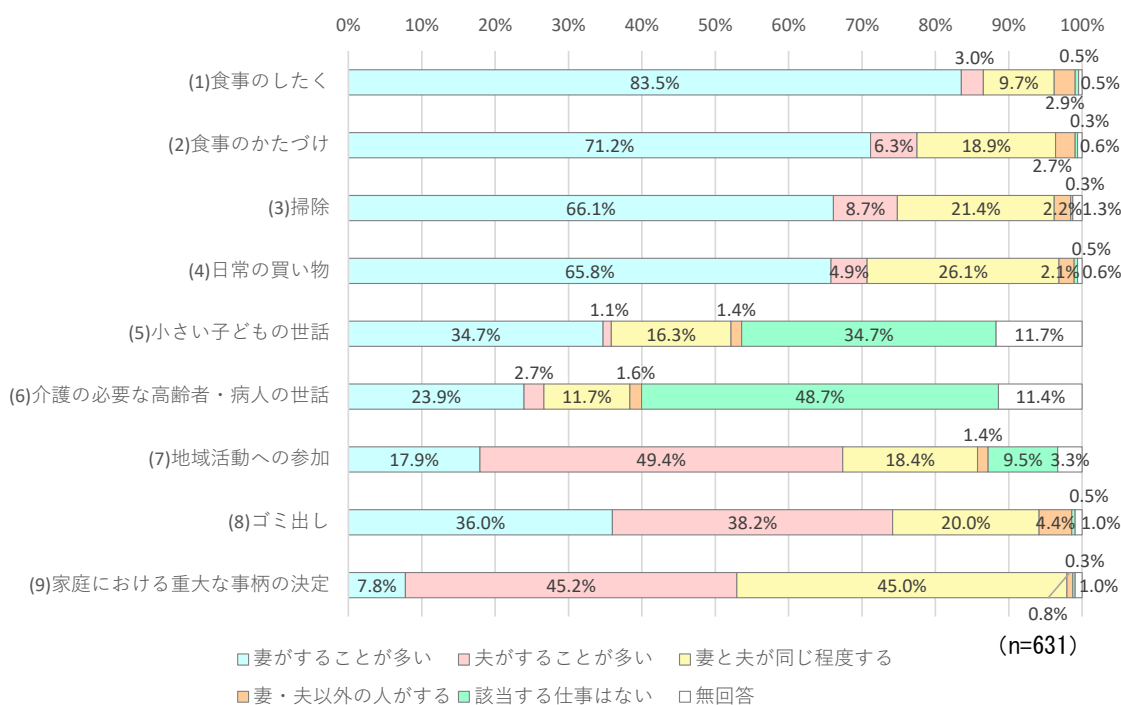
- ・ (5) (6)の2項目は「妻がすることが多い」と回答した割合が最も高く、(5) 小さい子どもの世話(34.7%)、(6) 介護の必要な高齢者・病人の世話(23.9%)の順となっている。

【地域活動】 (7)

- ・ (7) 地域活動への参加は「夫がすることが多い」(49.4%)が最も高くなっている。

【重大な事柄の決定】 (9)

- ・ (9) 家庭における重大な事柄の決定は「夫がすることが多い」(45.2%)、「妻と夫が同じ程度する」(45.0%)が同程度となっている。



<男女別・年代別>

[家事]

- ・ (1)では「妻がすることが多い」が全ての世代において最も多くなっている。
- ・ (4)では、「妻と夫が同じ程度する」が全ての年代で2割以上を占めている。
- ・ (8)では、「夫がすることが多い」が20歳代(58.3%)、30歳代(51.6%)と若い年代で高い割合となっている。

[育児・介護]

- ・ (5)では、「妻がすることが多い」が30歳代(50.0%)、40歳代(58.2%)で半数以上を占めている。(6)では、「妻がすることが多い」が50歳代(33.1%)、60歳代(30.1%)と他の年代と比べて高い割合となっている。

[地域活動]

- ・ (7)では、「夫がすることが多い」が50歳代(57.4%)と最も高く、次いで60歳代(56.9%)となっている。

[重大な事柄の決定]

- ・ (9)家庭における重大な事柄の決定は「夫がすることが多い」が80歳代以上(57.6%)と最も高くなっている。

<経年変化>

[家事]

- ・ (1)(2)(3)(4)(8)の5項目について、H27松江市調査と比較して「妻がすることが多い」と回答している方が減少していることがわかる。
特に(8)については、H27松江市調査(妻がすることが多い：44.6%、夫がすることが多い：35.8%)と「妻がすることが多い」が多かったが、本調査(妻がすることが多い：36.0%、夫がすることが多い：38.2%)では「夫がすることが多い」が上回る結果となっている。

[育児・介護]

- ・ (5)については、「妻がすることが多い」がH27松江市調査(49.4%)と比較すると14.7ポイント減少していることがわかる。

[地域活動]

- ・ (7)については、「夫がすることが多い」がH27松江市調査(43.8%)と比較すると5.6ポイント増加していることがわかる。

[重大な事柄の決定]

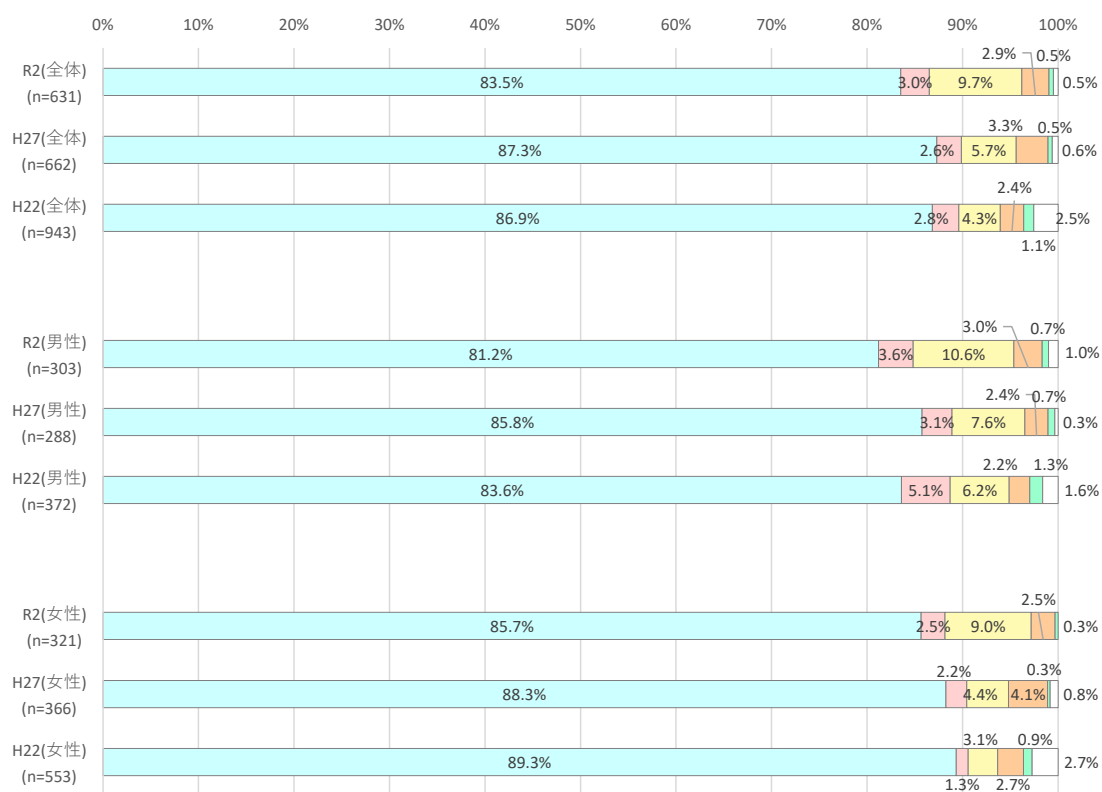
- ・ (9)について、H22松江市調査(夫がすることが多い：50.5%、妻と夫が同じ程度する：31.3%)と比較すると「夫がすることが多い」は5.3ポイント減少し、「妻と夫が同じ程度する」が13.7ポイント増加した。

(1) 食事のしたく

<男女別・年代別>



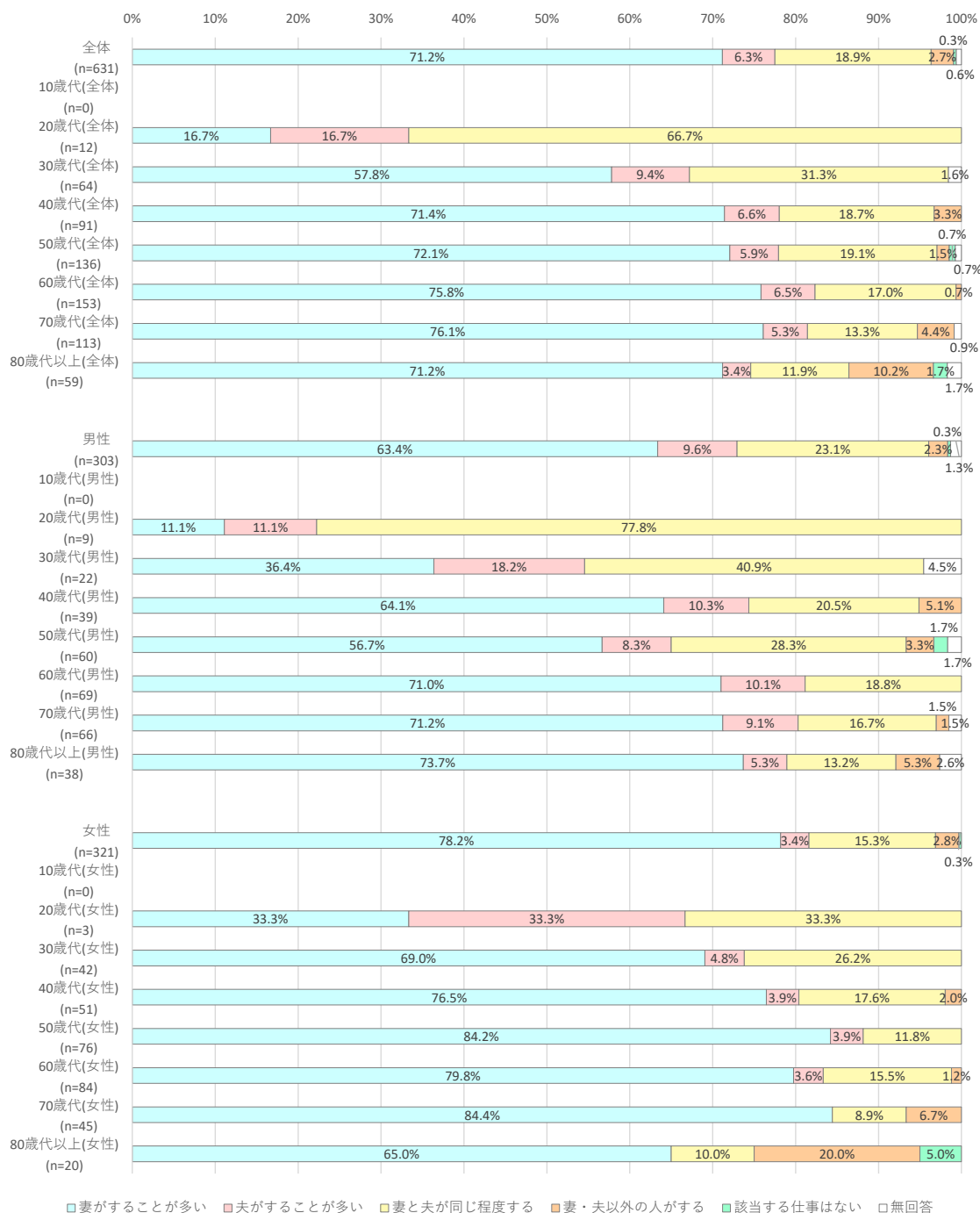
<経年変化>



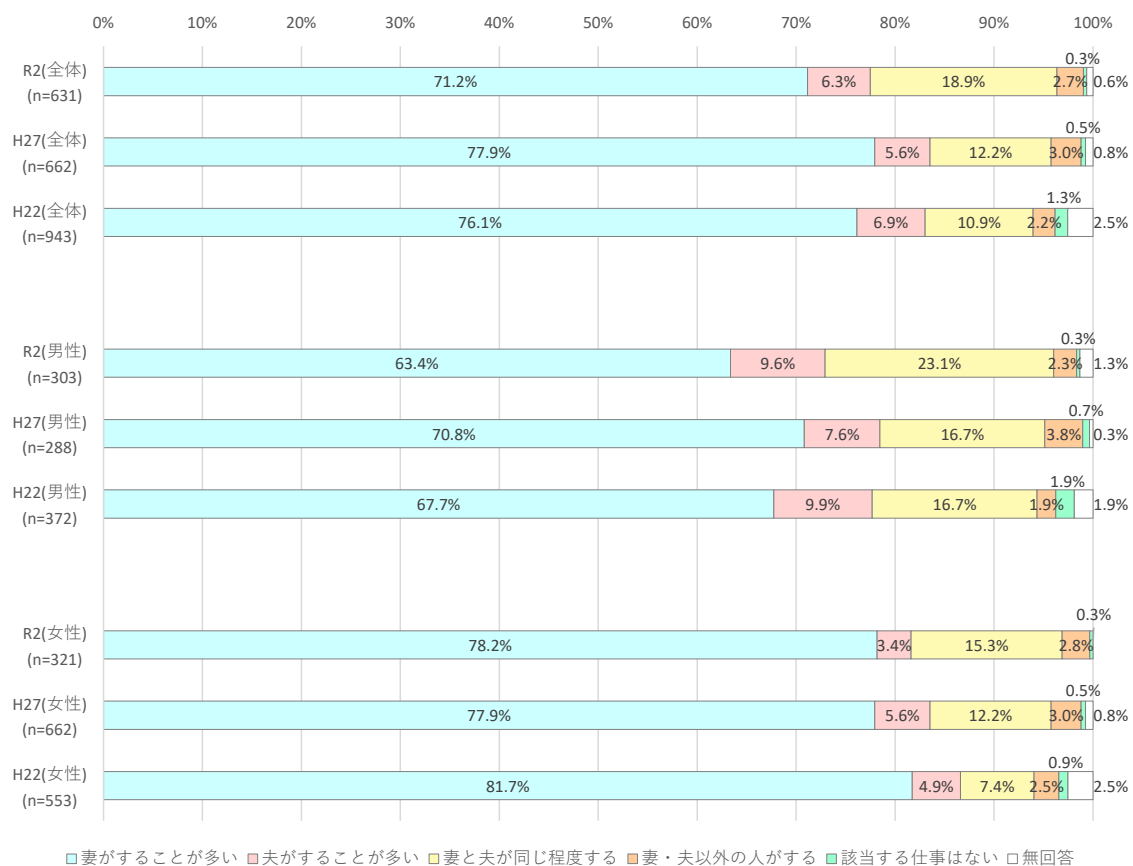
妻がすることが多い
 夫がすることが多い
 妻と夫が同じ程度する
 妻・夫以外の人がする
 該当する仕事はない
 無回答

(2) 食事のかたづけ

<男女別・年代別>

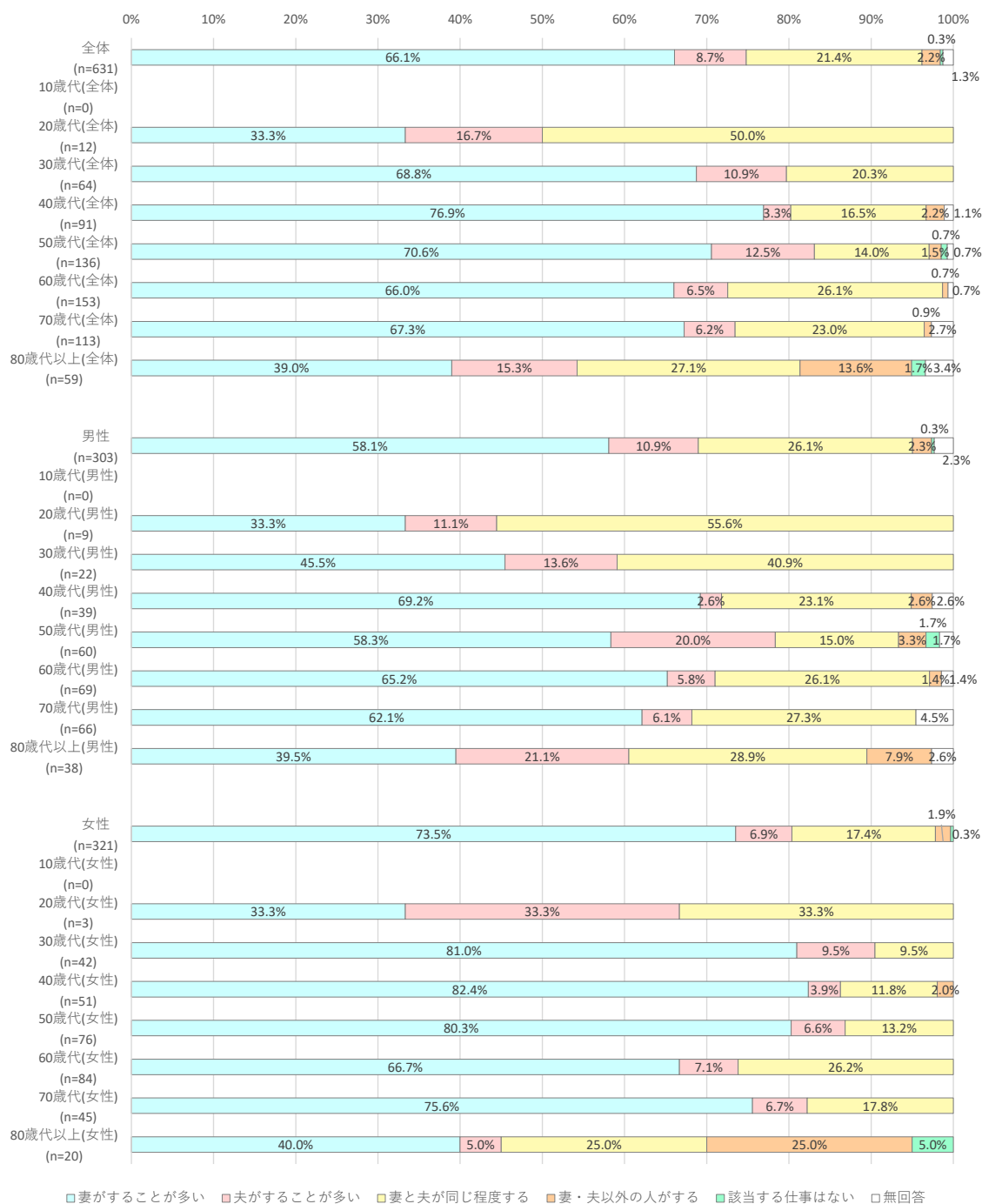


<経年変化>

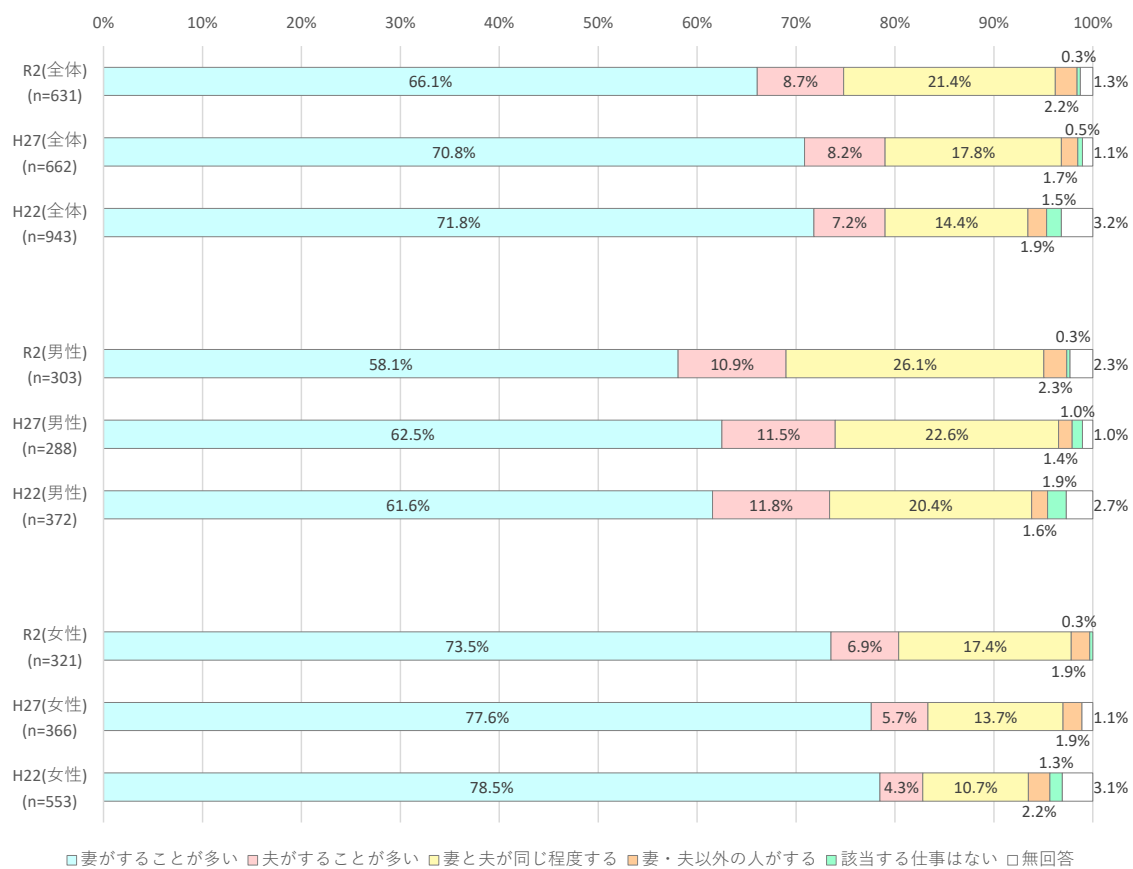


(3) 掃除

<男女別・年代別>

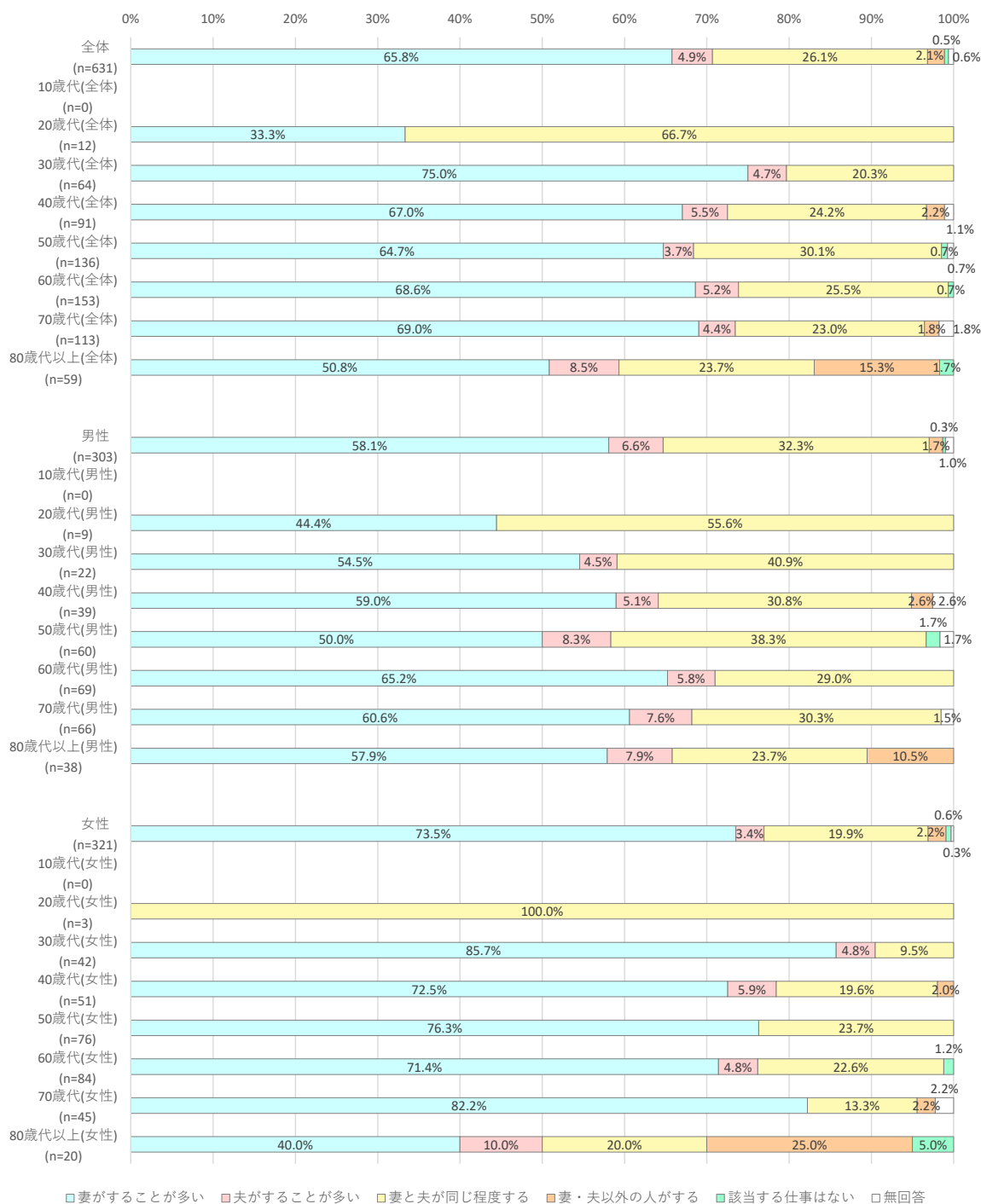


<経年変化>

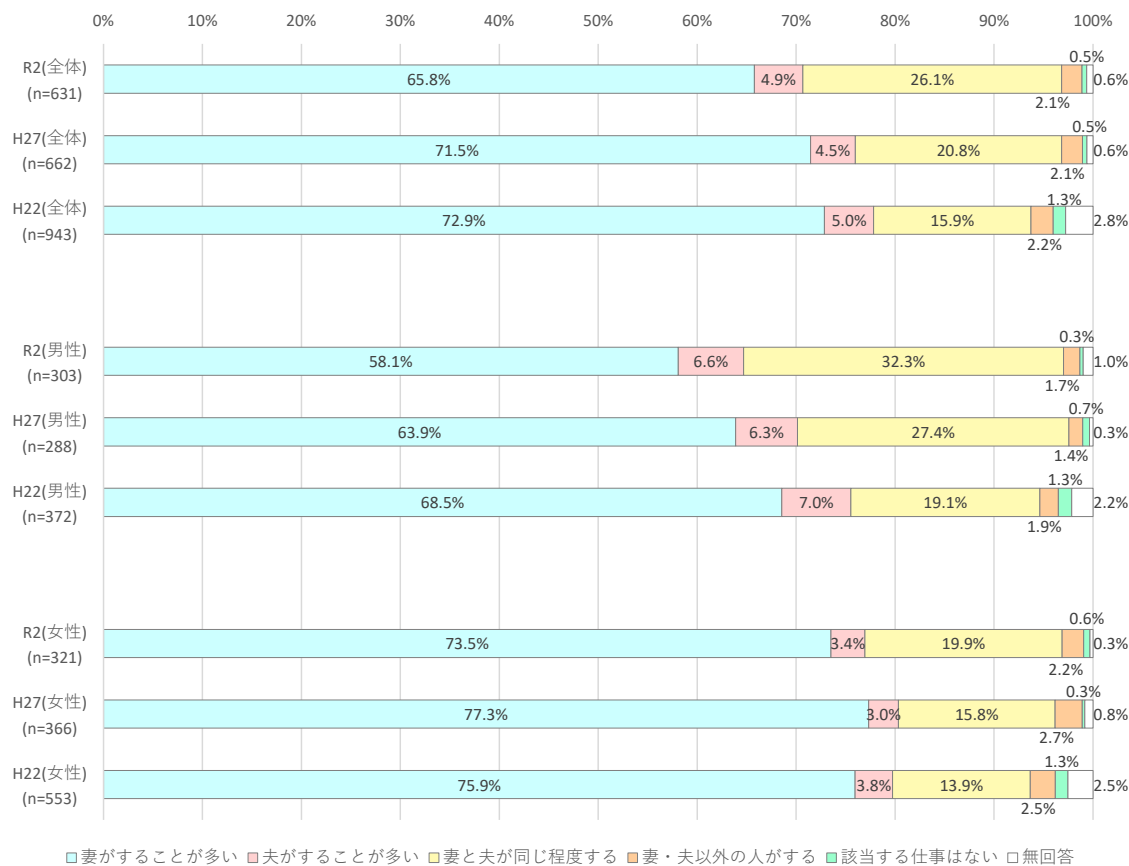


(4) 日常の買い物

<男女別・年代別>

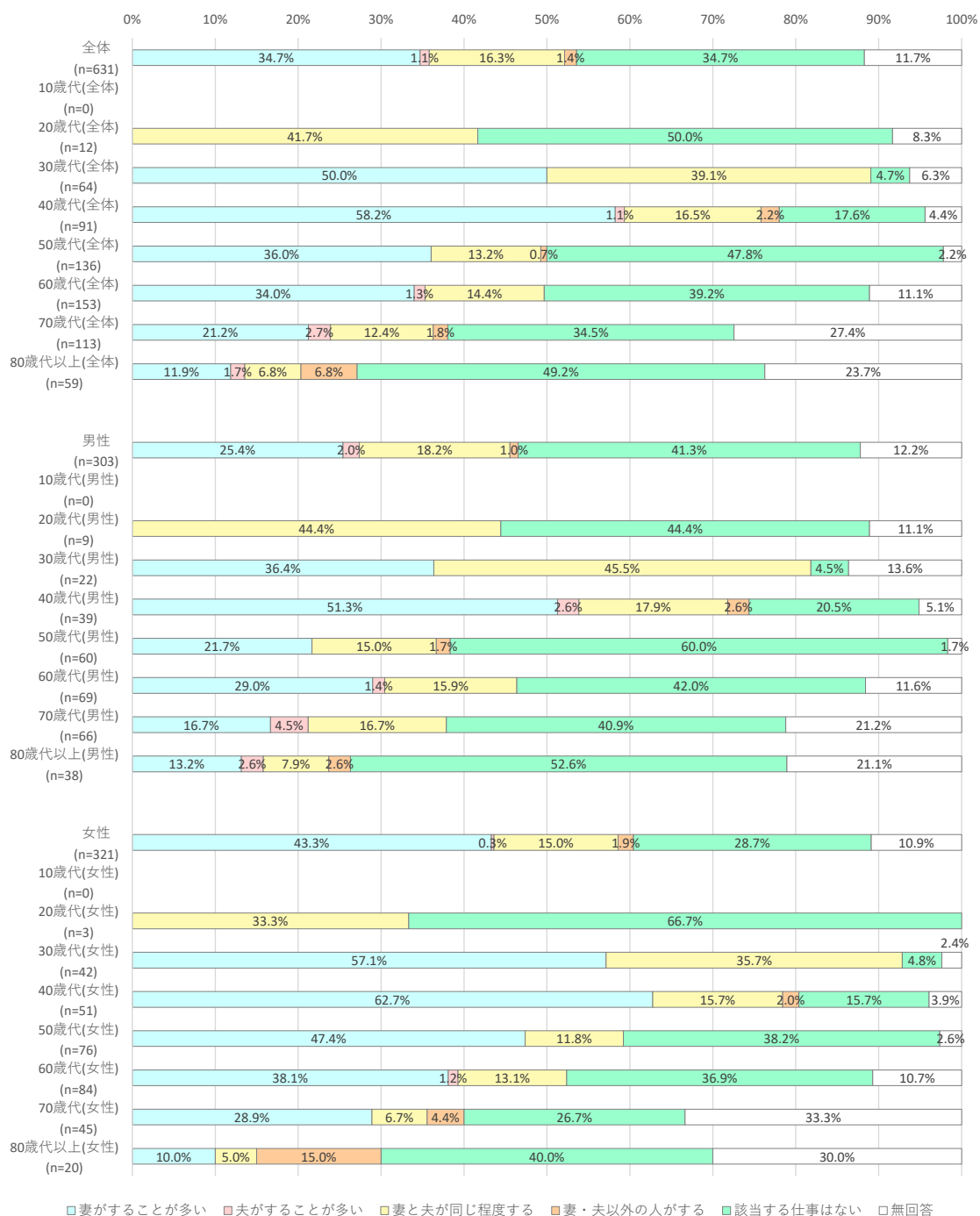


<経年変化>

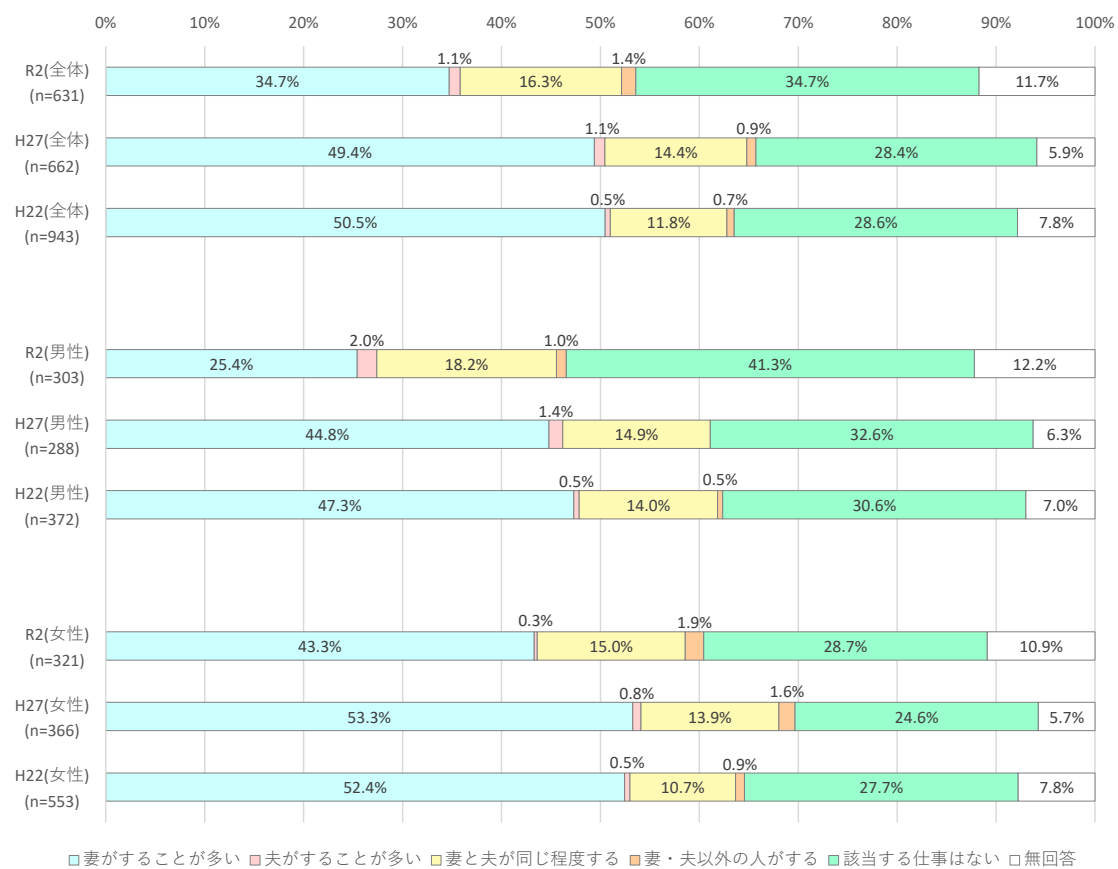


(5) 小さい子どもの世話

<男女別・年代別>

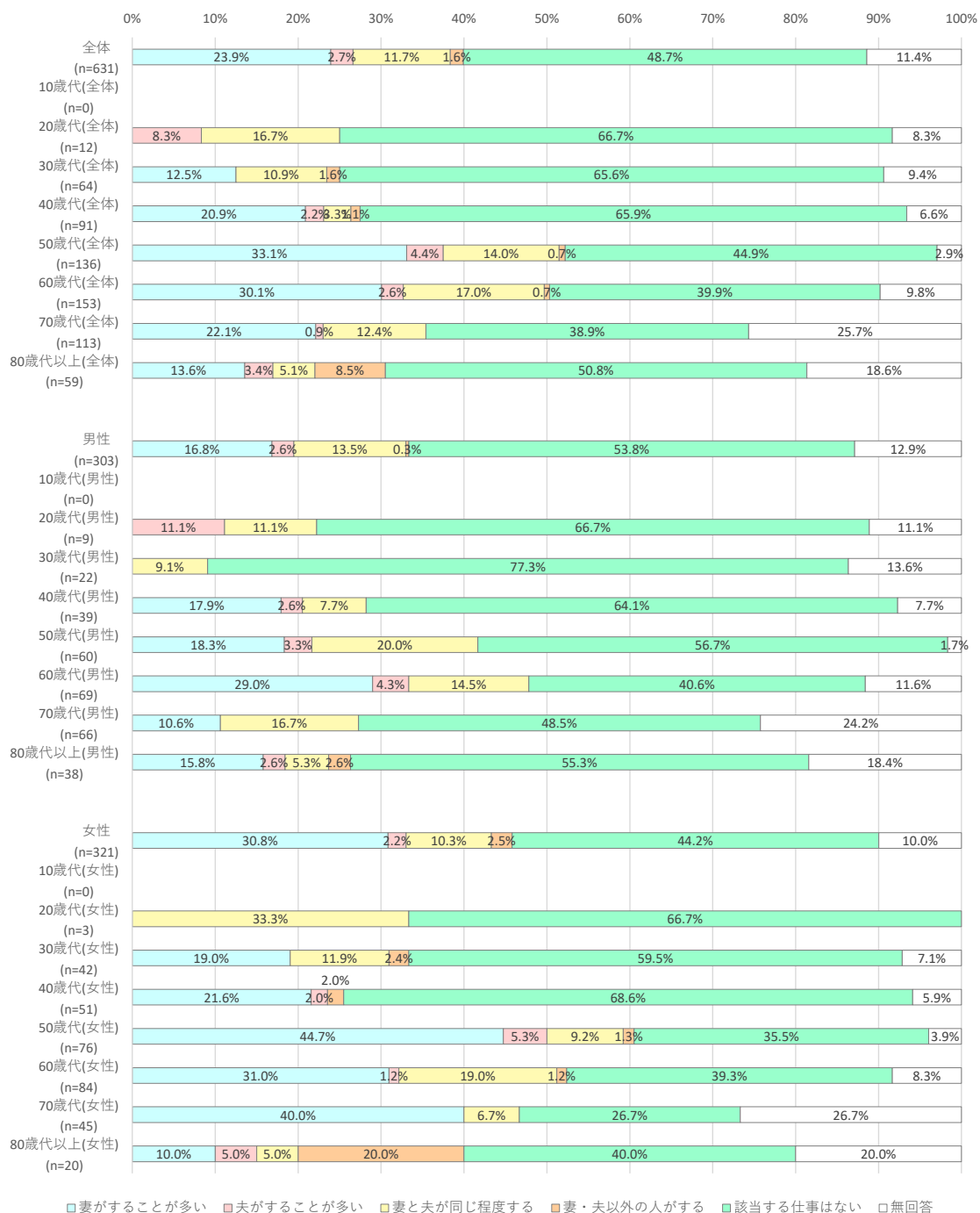


<経年変化>

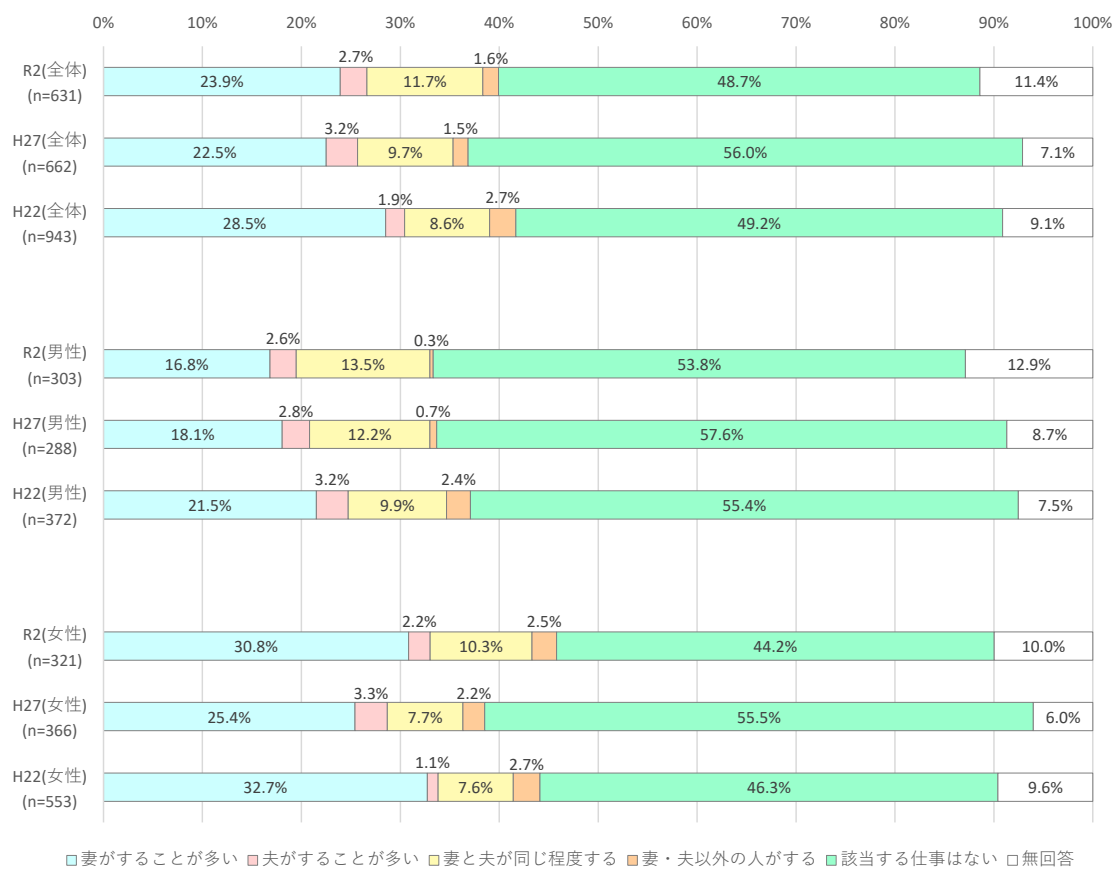


(6) 介護の必要な高齢者・病人の世話

<男女別・年代別>

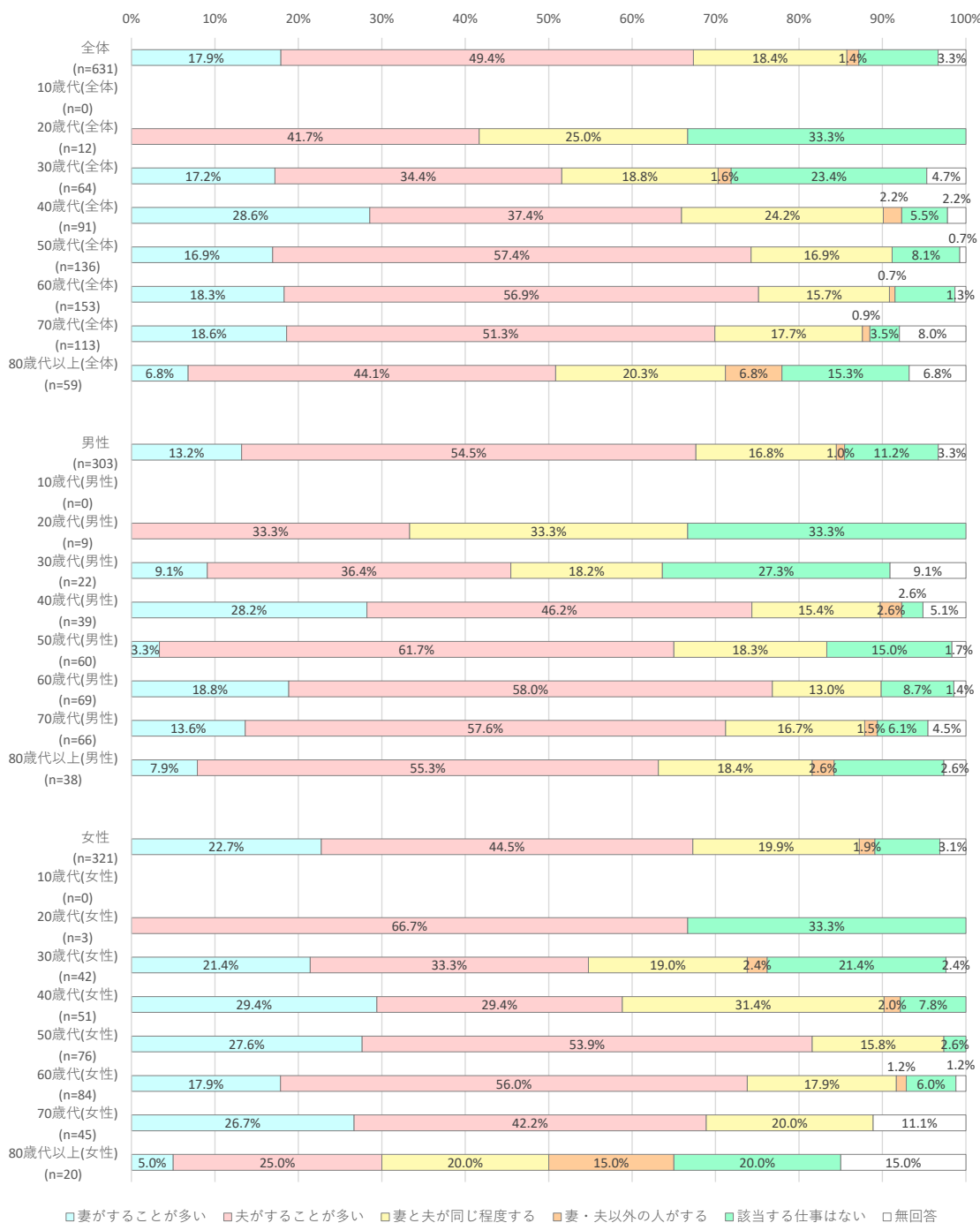


<経年変化>

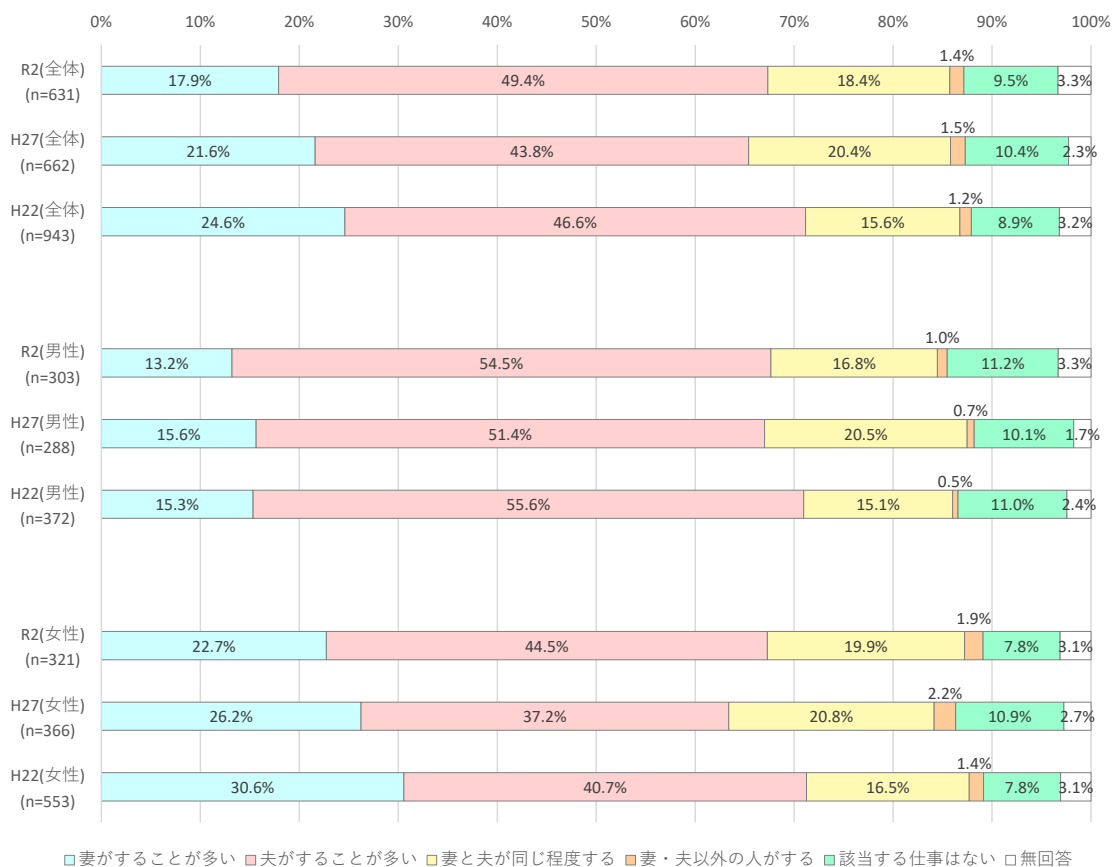


(7) 地域活動への参加

<男女別・年代別>



<経年変化>



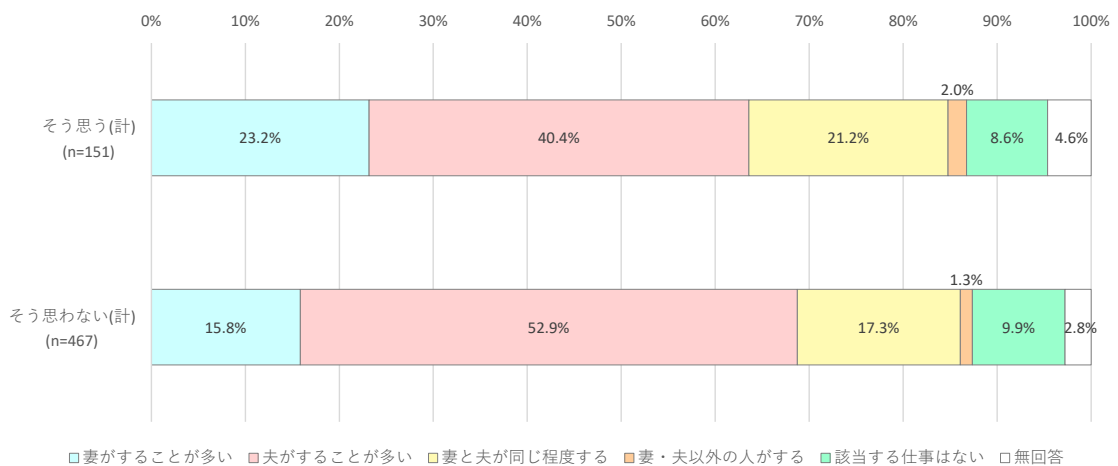
●「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との関係性について（問2(1)）

- ・問2(1)の「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との関連をみてる。「そう思う(計)」といった意見の方は「地域活動への参加」に対して「夫がすることが多い」(40.8%)となっている。また、「そう思わない(計)」といった意見の方も「夫がすることが多い」(52.9%)と最も高くなっている。

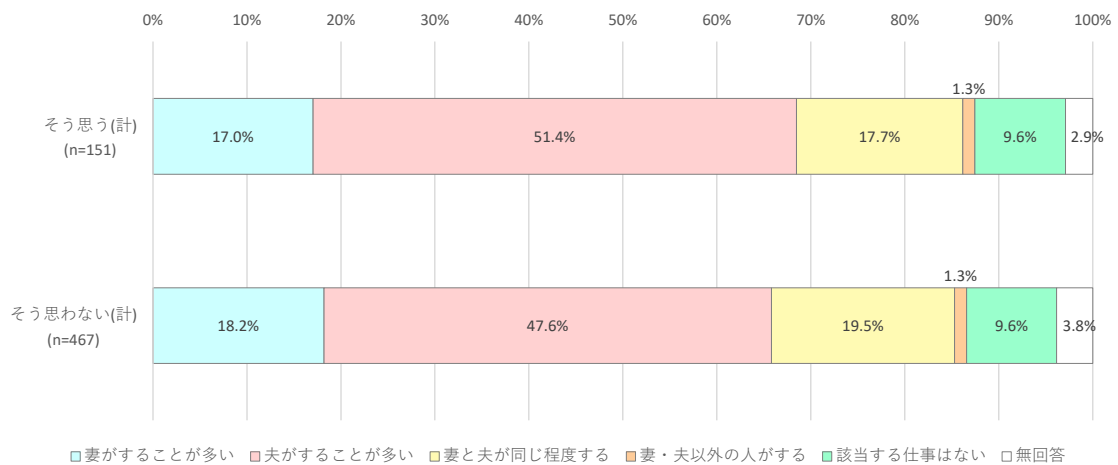
●「自治会などの代表は、男性の方がうまくいく」との関係性について（問2(2)）

- ・問2(2)の「自治会などの代表は、男性の方がうまくいく」との関連をみてる。「そう思う(計)」といった意見の方は「地域活動への参加」に対して「夫がすることが多い」(51.4%)となっている。また、「そう思わない(計)」といった意見の方も「夫がすることが多い」(47.6%)と最も高くなっている。

＜夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである（問2(1)）＞



＜自治会などの代表は、男性の方がうまくいく（問2(2)）＞

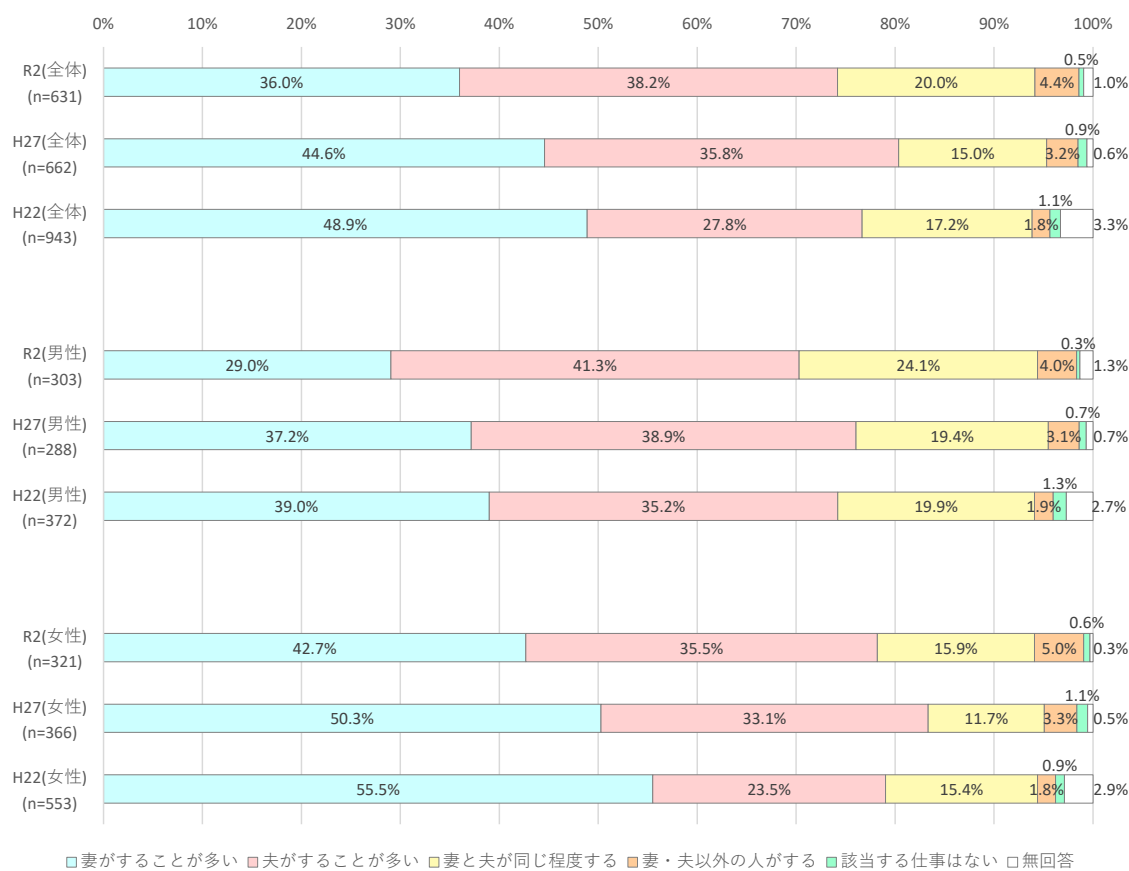


(8) ゴミ出し

<男女別・年代別>

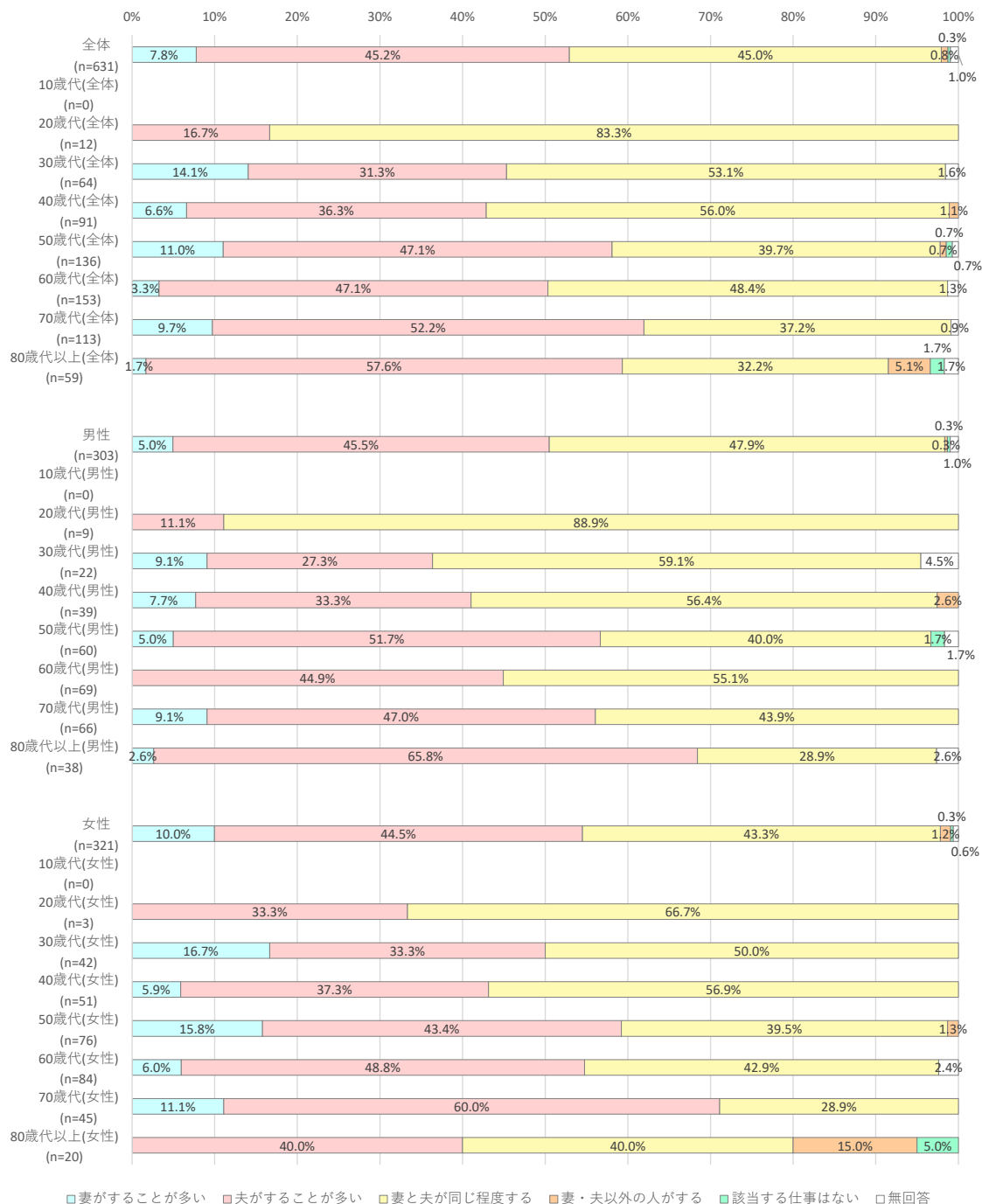


<経年変化>

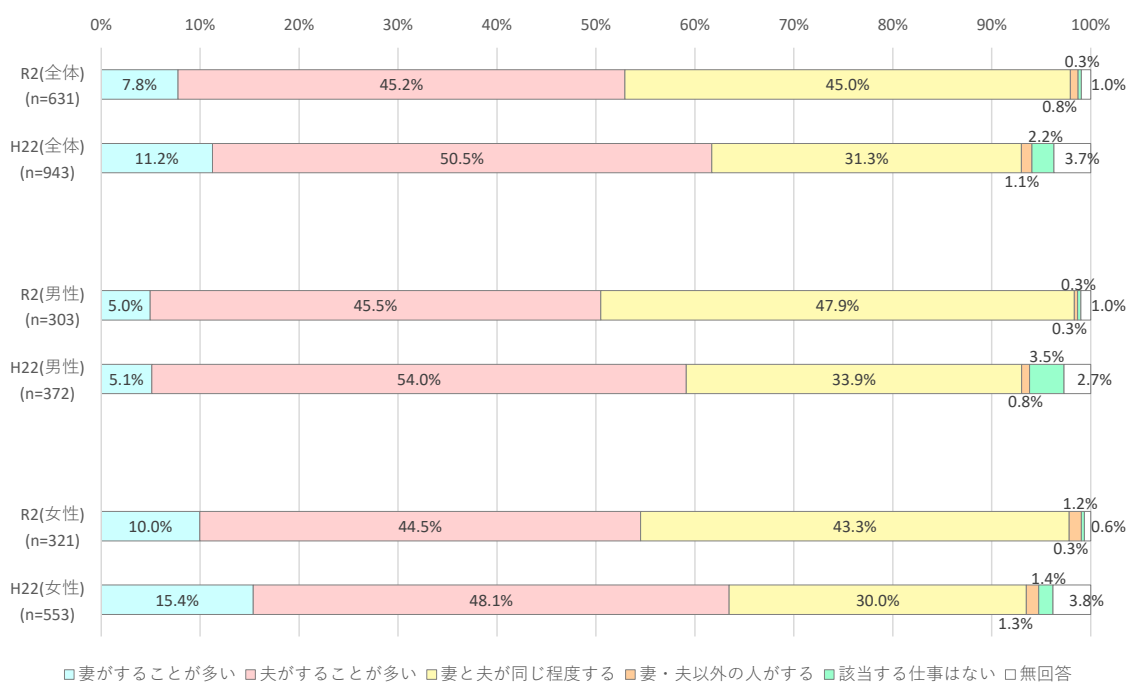


(9) 家庭における重大な事柄の決定

<男女別・年代別>



<経年変化>



問 8. 今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動に参加していくために必要なこと
(複数回答)

- ・男性が家事・子育て・介護・地域活動に参加していくために必要なこととして、「夫婦や家族間でコミュニケーションをよくはかる」(61.4%)が最も高い回答となっている。次いで、「男性が家事・育児に参加することに対する男性の抵抗感をなくす」(53.3%)、「男性による家事・育児などについて上司や周囲の理解を進めること」(50.5%)となっている。

●「夫婦や家族間でコミュニケーションをよくはかる」と回答した方(61.4%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(61.3%)に対して女性(61.6%)と女性の方が0.3ポイント高い。
- ・10歳代(78.6%)からの回答が最も高く、次いで30歳代(74.7%)となっている。

●「男性が家事・育児に参加することに対する男性の抵抗感をなくす」と回答した方(53.3%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(48.0%)に対して女性(57.9%)と女性の方が9.9ポイント高い。
- ・60歳以下の方は半数以上の方が回答している。

●「男性による家事・育児などについて上司や周囲の理解を進めること」と回答した方(50.5%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(44.9%)に対して女性(55.0%)と女性の方が10.1ポイント高い。
- ・50歳以下の方は半数以上の方が回答している。

<男女別・年代別>

(複数回答)

	を夫婦や家族間でコミュニケーション	男性が家事・育児の抵抗感をなくすことに	上司や周囲の家事・育児を進めることについて	社会の中でも男性による家事・育児などについて	分担者やまわりの人が、夫婦の役割	多様な働き方を普及することにする	技能や研修提供、相談窓口の設置、	男性が家事・育児などをすすめる	男性が家事・育児に参加すること	その他	無回答
全体 (n=907)	61.4%	53.3%	50.5%	44.0%	39.6%	37.3%	22.2%	20.9%	16.4%	3.2%	8.0%
10歳代(全体) (n=14)	78.6%	57.1%	78.6%	57.1%	35.7%	42.9%	14.3%	28.6%	7.1%	0.0%	0.0%
20歳代(全体) (n=58)	60.3%	53.4%	67.2%	44.8%	46.6%	50.0%	24.1%	29.3%	17.2%	5.2%	1.7%
30歳代(全体) (n=87)	74.7%	57.5%	64.4%	54.0%	47.1%	56.3%	27.6%	29.9%	25.3%	3.4%	2.3%
40歳代(全体) (n=123)	63.4%	55.3%	59.3%	47.2%	38.2%	43.1%	19.5%	17.9%	14.6%	4.1%	1.6%
50歳代(全体) (n=169)	58.6%	56.2%	54.4%	43.8%	43.2%	42.6%	20.1%	16.0%	15.4%	4.1%	6.5%
60歳代(全体) (n=189)	65.6%	55.0%	48.1%	49.2%	40.7%	29.6%	24.9%	23.3%	19.0%	2.1%	6.9%
70歳代(全体) (n=161)	55.9%	47.8%	31.1%	32.9%	32.3%	23.0%	19.9%	21.1%	11.8%	1.9%	15.5%
80歳代以上(全体) (n=100)	50.0%	49.0%	42.0%	36.0%	35.0%	33.0%	21.0%	15.0%	17.0%	4.0%	19.0%

男性 (n=408)	61.3%	48.0%	44.9%	44.9%	34.1%	39.0%	23.3%	19.9%	14.2%	3.2%	7.4%
10歳代(男性) (n=6)	100.0%	66.7%	83.3%	66.7%	33.3%	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%
20歳代(男性) (n=30)	63.3%	36.7%	60.0%	46.7%	36.7%	50.0%	20.0%	23.3%	10.0%	3.3%	3.3%
30歳代(男性) (n=34)	70.6%	47.1%	58.8%	50.0%	50.0%	64.7%	32.4%	26.5%	29.4%	2.9%	2.9%
40歳代(男性) (n=51)	64.7%	41.2%	49.0%	51.0%	37.3%	47.1%	15.7%	15.7%	13.7%	3.9%	0.0%
50歳代(男性) (n=72)	58.3%	54.2%	50.0%	48.6%	36.1%	47.2%	25.0%	19.4%	11.1%	2.8%	5.6%
60歳代(男性) (n=86)	65.1%	53.5%	44.2%	50.0%	37.2%	31.4%	32.6%	19.8%	19.8%	3.5%	5.8%
70歳代(男性) (n=80)	55.0%	46.3%	30.0%	31.3%	23.8%	26.3%	18.8%	25.0%	7.5%	2.5%	12.5%
80歳代以上(男性) (n=49)	53.1%	44.9%	34.7%	38.8%	26.5%	30.6%	16.3%	10.2%	12.2%	4.1%	18.4%

女性 (n=487)	61.6%	57.9%	55.0%	43.3%	44.4%	35.5%	20.9%	21.6%	18.3%	3.3%	8.8%
10歳代(女性) (n=6)	62.5%	50.0%	75.0%	50.0%	37.5%	62.5%	12.5%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代(女性) (n=30)	57.1%	71.4%	75.0%	42.9%	57.1%	50.0%	28.6%	35.7%	25.0%	7.1%	0.0%
30歳代(女性) (n=34)	76.9%	63.5%	67.3%	55.8%	46.2%	50.0%	25.0%	32.7%	21.2%	3.8%	1.9%
40歳代(女性) (n=51)	62.0%	64.8%	67.6%	45.1%	39.4%	39.4%	22.5%	19.7%	15.5%	4.2%	2.8%
50歳代(女性) (n=72)	59.4%	57.3%	57.3%	39.6%	47.9%	39.6%	16.7%	13.5%	17.7%	5.2%	7.3%
60歳代(女性) (n=86)	66.0%	56.3%	51.5%	48.5%	43.7%	28.2%	18.4%	26.2%	18.4%	1.0%	7.8%
70歳代(女性) (n=80)	58.2%	49.4%	31.6%	35.4%	40.5%	19.0%	20.3%	15.2%	16.5%	1.3%	19.0%
80歳代以上(女性) (n=49)	46.9%	55.1%	49.0%	34.7%	42.9%	36.7%	26.5%	18.4%	22.4%	4.1%	20.4%

2-6. 男女の人権について

問9. ドメスティック・バイオレンス (DV) について

- ・「一般的な知識として知っている」(59.4%)が最も高く、次いで「経験したことはないがまわりに経験した(している)人がいる」(12.6%)、「DVという言葉は聞いたことがある」(11.7%)となっている。
- ・また、「直接経験したことがある」と回答した方は6.7%であった。

●「直接経験したことがある」と回答した方(6.7%)について

<男女別・年代別>

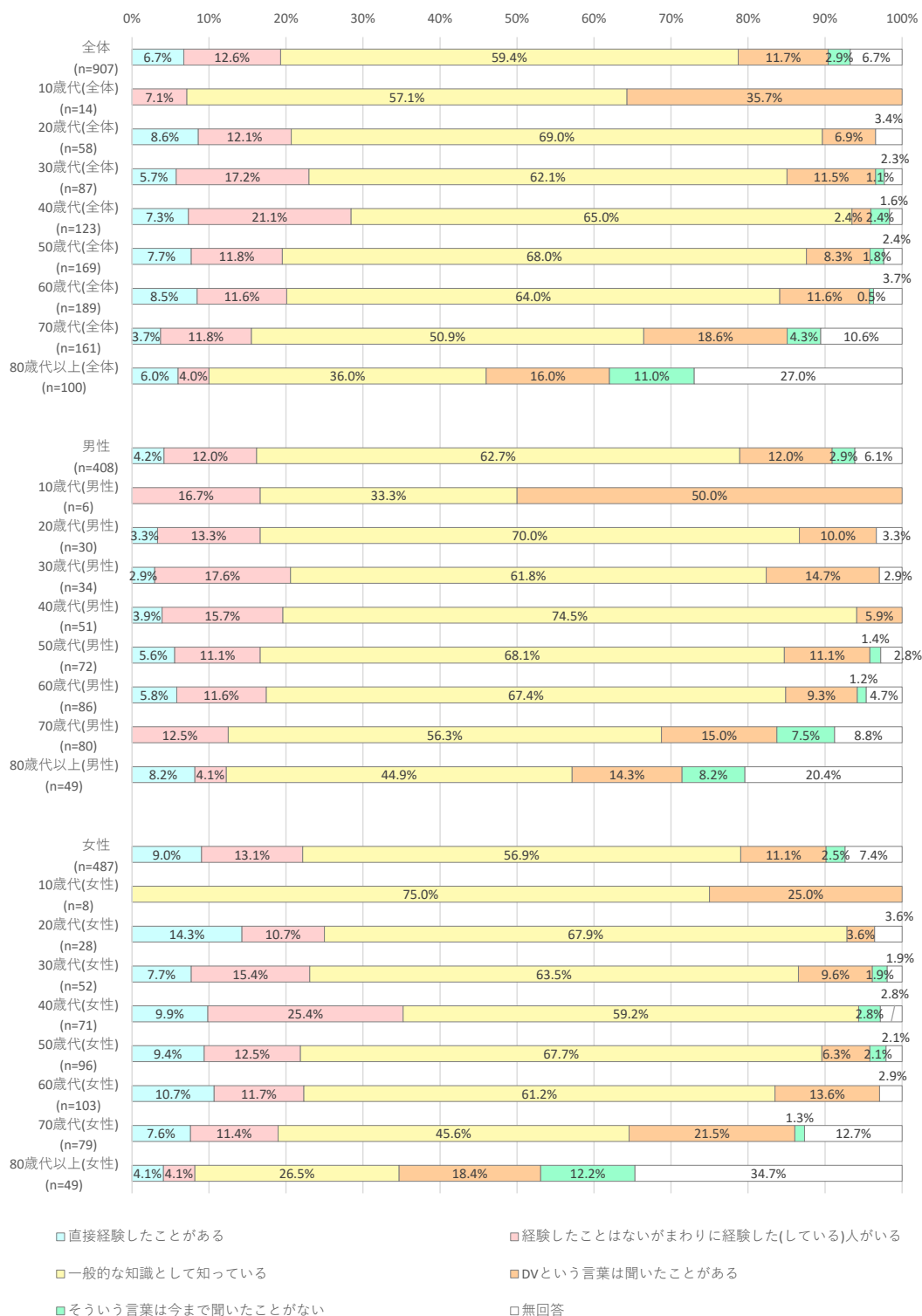
- ・男女の回答を比較すると、男性(4.2%)に対して女性(9.0%)と女性の方が4.8ポイント高い。
- ・女性の20歳代(14.3%)からの回答が最も高くなっている。

●「一般的な知識として知っている」と回答した方(59.4%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(62.7%)に対して女性(56.9%)と男性の方が5.8ポイント高い。
- ・80歳代以上(36.0%)の回答が最も低く、次いで70歳代(50.9%)が低くなっている。特に、女性の80歳代以上(26.5%)が低くなっている。

<男女別・年代別>



問 10. セクシュアル・ハラスメントについて

・「一般的な知識として知っている」(55.1%)が最も高く、次いで「経験したことはないがまわりに経験した(している)人がいる」(13.8%)、「セクハラという言葉は聞いたことがある」(13.1%)となっている。

●「直接経験したことがある」と回答した方(8.5%)について

<男女別・年代別>

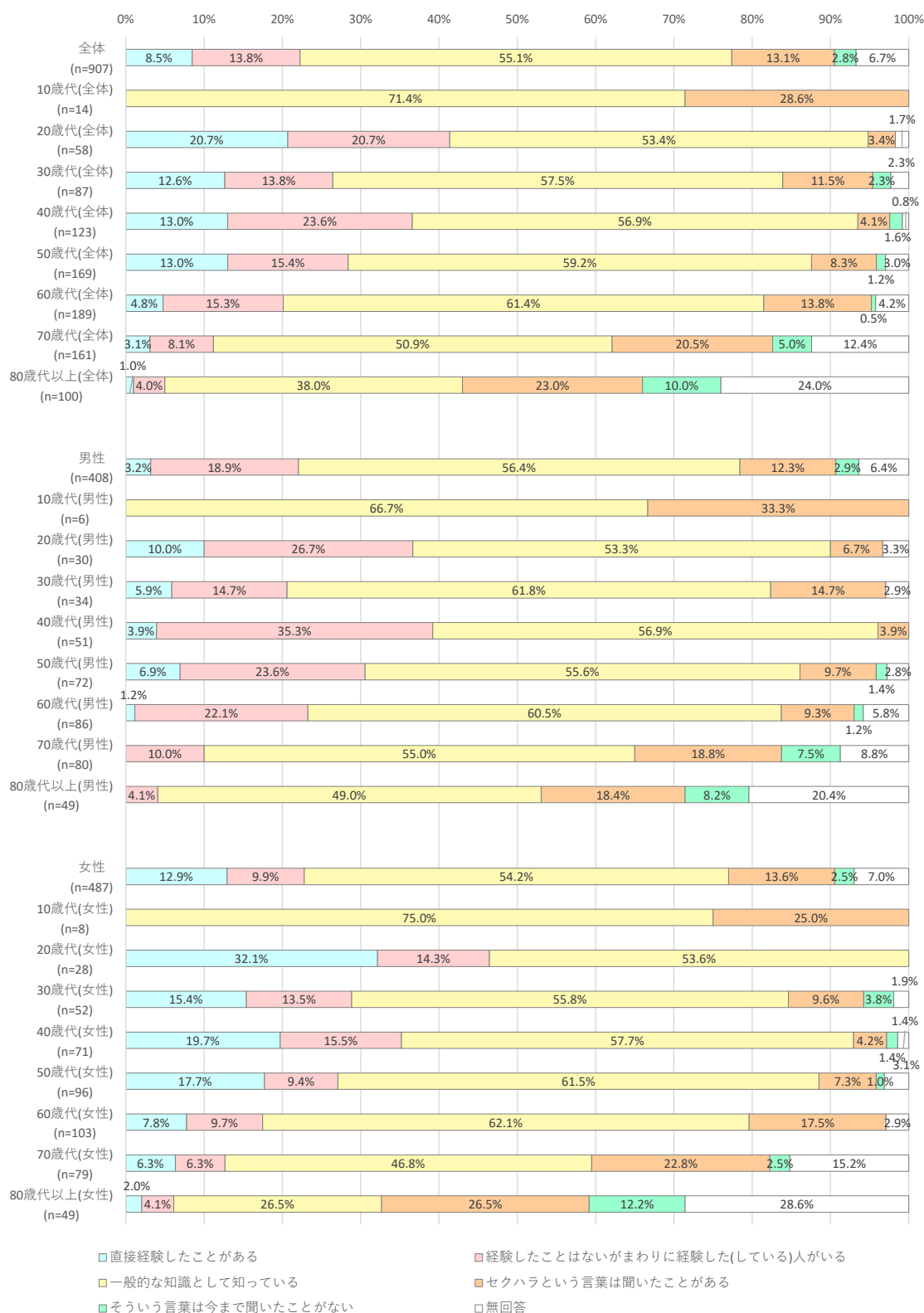
- ・男女の回答を比較すると、男性(3.2%)に対して女性(12.9%)と女性の方が9.7ポイント高い。
- ・女性は、20歳代(32.1%)が最も高くなっている。女性の20歳代~50歳代は、1割以上の方が直接経験したことがあると回答している。

●「一般的な知識として知っている」と回答した方(55.1%)について

<男女別・年代別>

- ・男女の回答を比較すると、男性(56.4%)に対して女性(54.2%)と男性の方が2.2ポイント高い。
- ・80歳代以上(38.0%)の回答が最も低く、次いで70歳代(50.9%)が低くなっている。特に、女性の80歳代以上(26.5%)が低くなっている。

<年代別>



問 11. DV に関する相談窓口について（複数回答）

・松江保健所（31.5%）が最も高く、次いで島根県女性相談センター（24.1%）となっている。

（複数回答）

	松江保健所	島根県女性相談センター	松江市民家庭相談課	島根県立心と体の相談センター	松江男女共同参画センター	性暴力被害者支援センター	DV相談ナビダイヤル	その他	無回答
全体 (n=907)	31.5%	24.1%	18.6%	16.4%	15.9%	12.1%	11.2%	2.4%	28.8%
10歳代(全体) (n=14)	57.1%	14.3%	7.1%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	21.4%
20歳代(全体) (n=58)	27.6%	17.2%	5.2%	15.5%	6.9%	19.0%	8.6%	0.0%	32.8%
30歳代(全体) (n=87)	31.0%	21.8%	14.9%	13.8%	10.3%	14.9%	17.2%	1.1%	35.6%
40歳代(全体) (n=123)	30.1%	28.5%	19.5%	19.5%	17.1%	17.9%	20.3%	1.6%	20.3%
50歳代(全体) (n=169)	30.8%	27.8%	18.3%	20.7%	20.7%	13.0%	10.7%	4.7%	24.9%
60歳代(全体) (n=189)	40.2%	29.1%	22.2%	18.0%	20.1%	12.7%	10.6%	1.6%	24.9%
70歳代(全体) (n=161)	27.3%	17.4%	20.5%	16.8%	12.4%	9.3%	7.5%	4.3%	33.5%
80歳以上(全体) (n=100)	24.0%	23.0%	20.0%	8.0%	16.0%	3.0%	7.0%	1.0%	38.0%
男性 (n=408)	33.3%	22.1%	21.8%	15.7%	19.1%	10.5%	12.7%	2.0%	29.7%
10歳代(男性) (n=6)	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
20歳代(男性) (n=30)	30.0%	6.7%	3.3%	16.7%	6.7%	3.3%	3.3%	0.0%	43.3%
30歳代(男性) (n=34)	32.4%	20.6%	17.6%	11.8%	8.8%	8.8%	11.8%	2.9%	38.2%
40歳代(男性) (n=51)	35.3%	21.6%	29.4%	17.6%	19.6%	9.8%	23.5%	0.0%	21.6%
50歳代(男性) (n=72)	38.9%	30.6%	25.0%	22.2%	27.8%	11.1%	15.3%	6.9%	20.8%
60歳代(男性) (n=86)	34.9%	25.6%	23.3%	18.6%	22.1%	17.4%	12.8%	0.0%	29.1%
70歳代(男性) (n=80)	27.5%	16.3%	23.8%	12.5%	16.3%	10.0%	10.0%	2.5%	31.3%
80歳以上(男性) (n=49)	30.6%	26.5%	20.4%	8.2%	22.4%	6.1%	10.2%	0.0%	34.7%
女性 (n=487)	30.0%	26.5%	16.0%	17.5%	13.3%	13.6%	10.3%	2.9%	27.9%
10歳代(女性) (n=8)	62.5%	25.0%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%
20歳代(女性) (n=28)	25.0%	28.6%	7.1%	14.3%	7.1%	35.7%	14.3%	0.0%	21.4%
30歳代(女性) (n=52)	30.8%	23.1%	13.5%	15.4%	11.5%	19.2%	21.2%	0.0%	32.7%
40歳代(女性) (n=71)	26.8%	33.8%	12.7%	21.1%	15.5%	23.9%	18.3%	2.8%	19.7%
50歳代(女性) (n=96)	25.0%	26.0%	13.5%	19.8%	15.6%	14.6%	7.3%	3.1%	28.1%
60歳代(女性) (n=103)	44.7%	32.0%	21.4%	17.5%	18.4%	8.7%	8.7%	2.9%	21.4%
70歳代(女性) (n=79)	25.3%	19.0%	16.5%	21.5%	8.9%	7.6%	5.1%	6.3%	36.7%
80歳以上(女性) (n=49)	18.4%	20.4%	20.4%	8.2%	8.2%	0.0%	4.1%	2.0%	40.8%

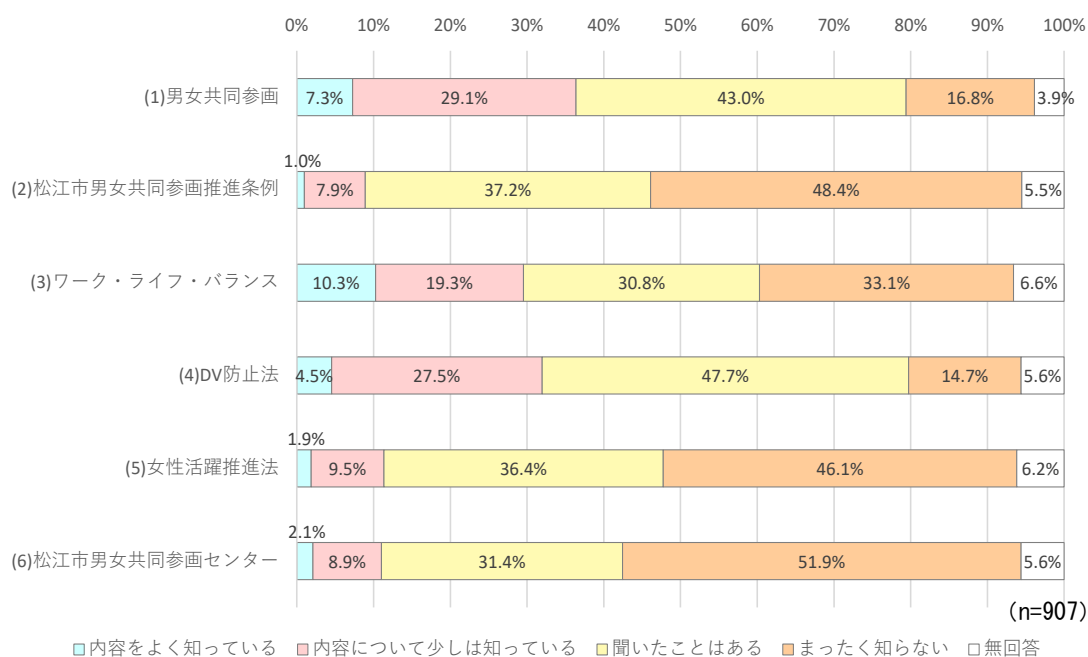
問 12. 男女共同参画に関する用語の認知度について

※「内容をよく知っている」「内容について少しは知っている」「聞いたことはある」と回答した方を「認知度がある」として分析を行う。

- ・ 認知度が最も高い言葉は、(4)DV防止法(計：79.7%)、次いで、(1)男女共同参画(計：79.4%)であった。
- ・ 一方、「まったく知らない」と回答した方が多いのは(6)松江市男女共同参画センター(51.9%)、(2)松江市男女共同参画推進条例(48.4%)、(5)女性活躍推進法(46.1%)となっている。

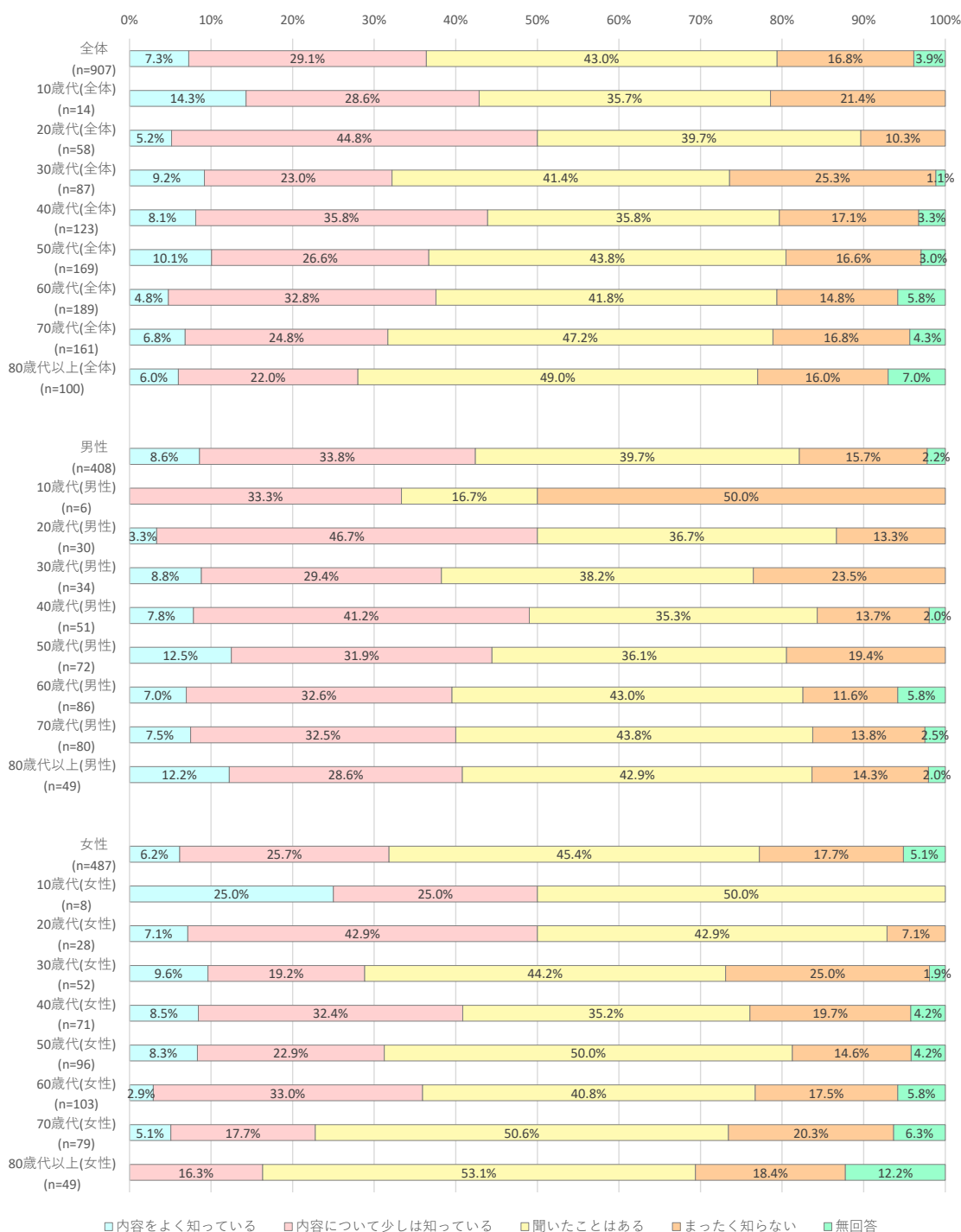
<男女別・年代別>

- ・ 認知度が最も高い(4)DV防止法については、「10歳代～70歳代」の年代では認知度が7割以上となっている。
- ・ 一方、「全く知らない」と回答した方が最も多い(6)松江市男女共同参画センターについては、若年層の認知度「10歳代(35.7%)、20歳代(27.6%)、30歳代(34.4%)」が他の年代と比較すると低いことがわかる。



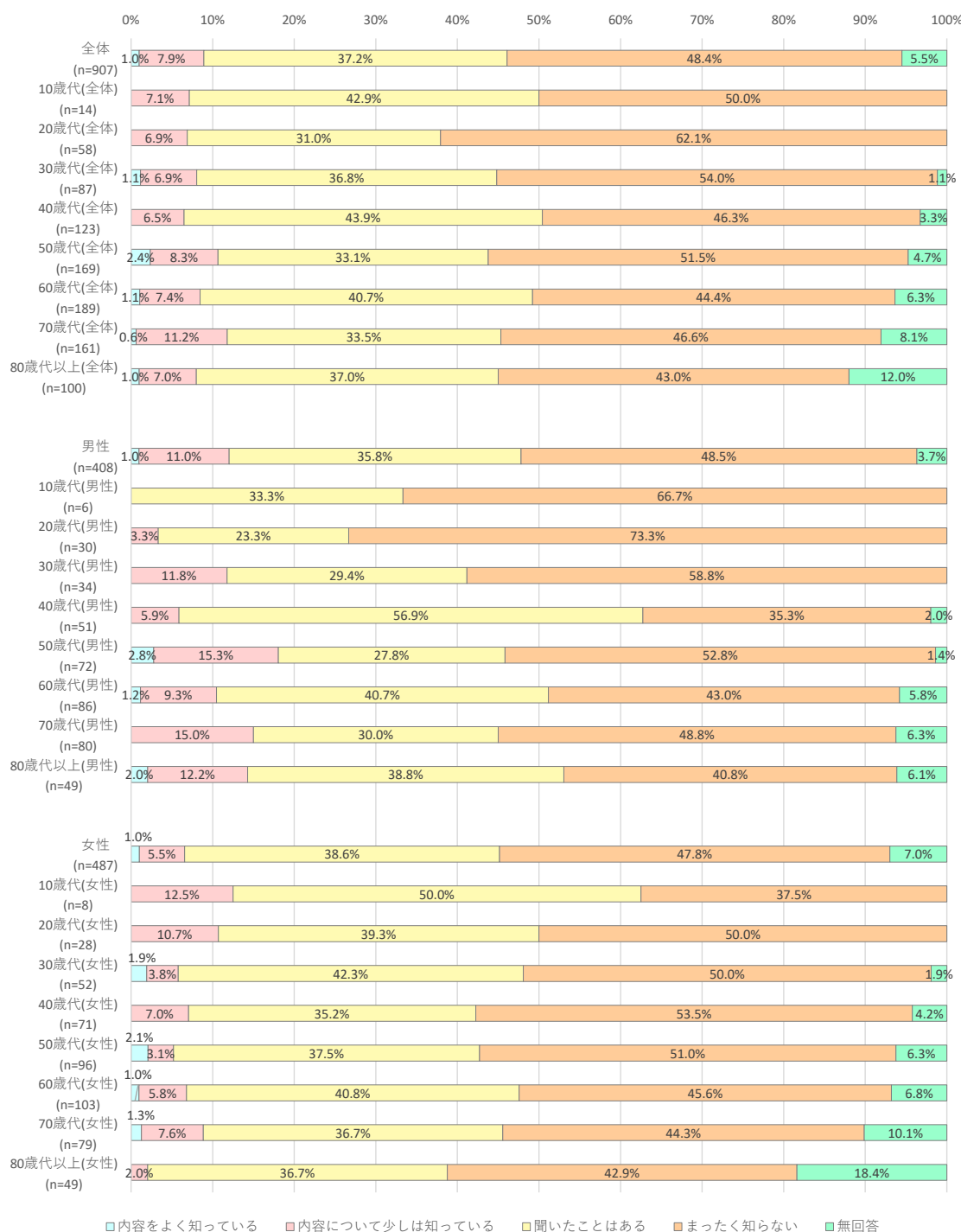
(1) 男女共同参画

< 男女別・年代別 >



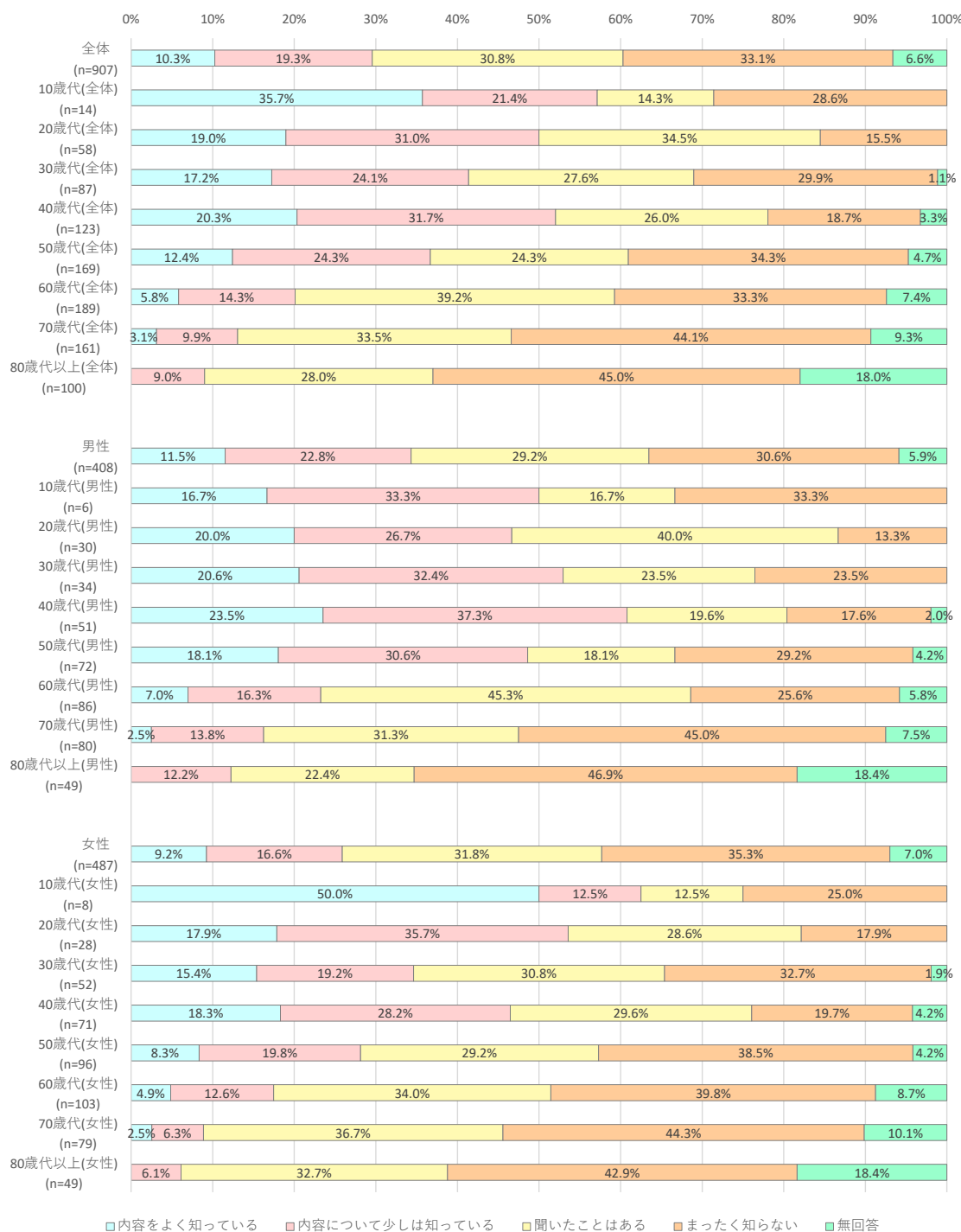
(2) 松江市男女共同参画推進条例

<男女別・年代別>



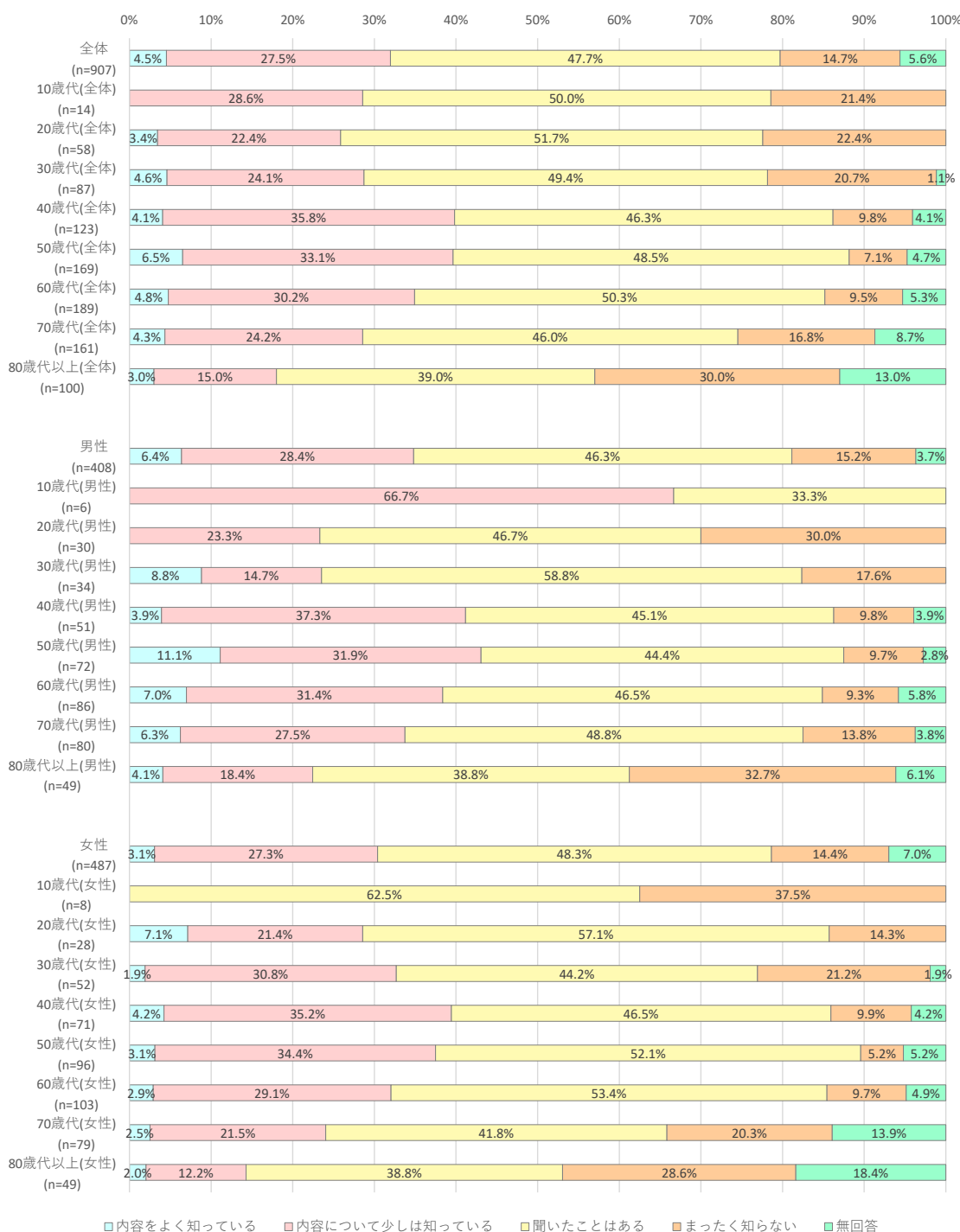
(3) ワーク・ライフ・バランス

<男女別・年代別>



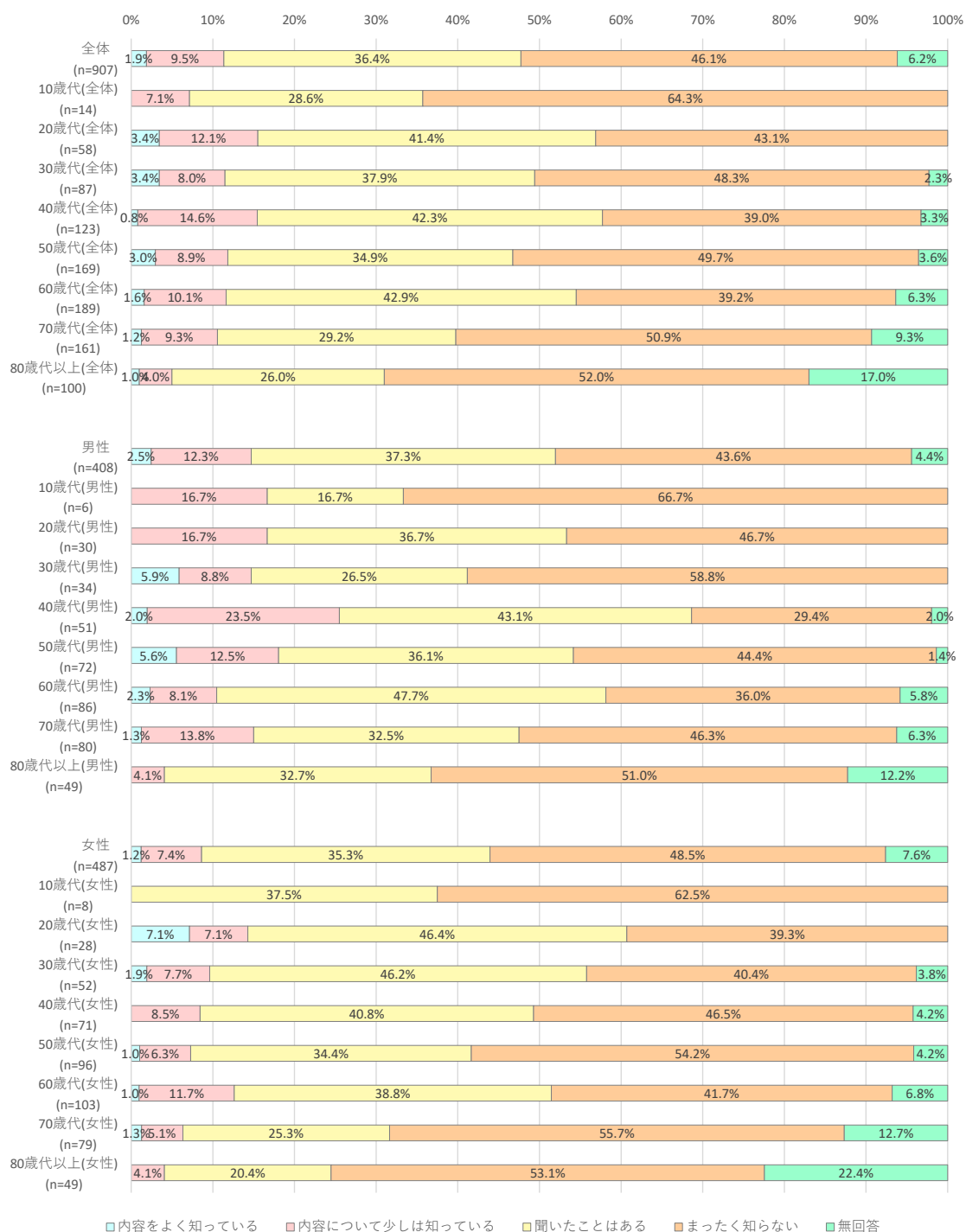
(4) DV 防止法

<男女別・年代別>



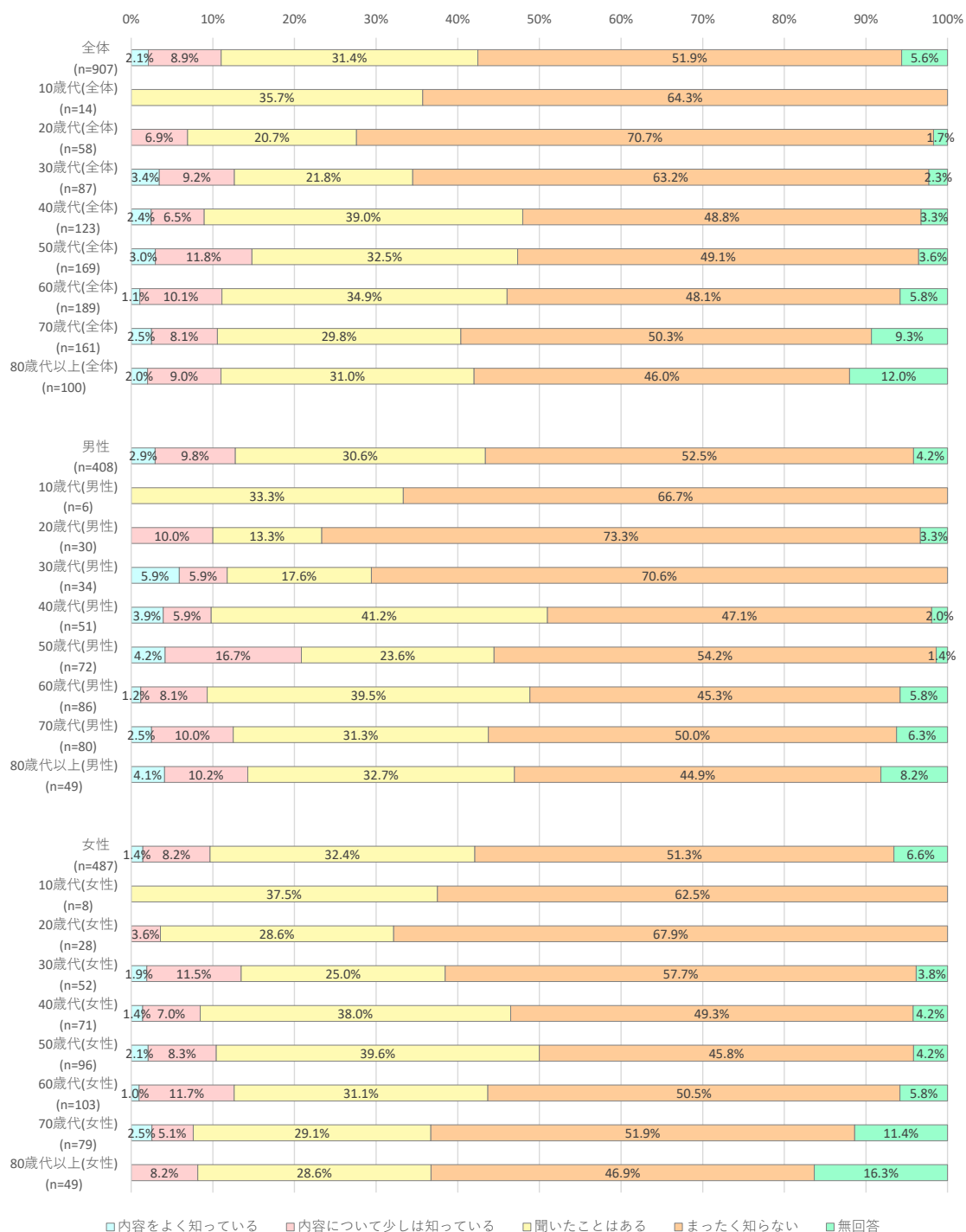
(5) 女性活躍推進法

<男女別・年代別>



(6) 松江市男女共同参画センター

<男女別・年代別>



2-7. 松江市への要望について

問 13. 今後、松江市はどのようなことに力を入れていくべきか（複数回答）

- ・「介護サービスの充実」(59.4%)が最も高くなっている。「育児休業制度の充実・労働環境の整備」(58.8%)、「子育てで退職した人の再就職支援」(57.3%)、「子育てに関する施設やサービスの充実」(55.8%)、「介護等で退職した人の再就職支援」(50.4%)についてもそれぞれ半数以上の方が力を入れていくべきと回答している。
- ・介護と子育てに関する項目への回答が多く、回答の多かった上位6項目は介護と子育てに関する項目となった。

<男女別・年代別>

- ・「介護サービスの充実」と回答している方のうち、高齢層(50歳代(67.5%)、60歳代(61.9%)、70歳代(69.6%)、80歳代以上(63.0%))は6割以上となっている。
- ・「育児休業制度の充実・労働環境の整備」と回答している方のうち、若年層(10歳代(78.6%)、20歳代(72.4%)、30歳代(73.6%))は7割以上となっている。

<就労形態>

- ・「介護サービスの充実」と回答している方では無職・学生・家事専業(64.0%)が最も高くなっている。

<年代別>

(複数回答)

	介護サービスの充実	勤労環境の整備	子育て支援	子育てに関する施設やサービスの充実	介護等で退職した人の再就職支援	勤労環境の整備	働き方の見直し支援	学習機会等の充実	DV被害者の支援	女性に対する暴力防止への取り組み	民間企業・団体等の管理職への女性登用支援	審議会委員や管理職への女性の積極的登用	働き方の悩みに関する相談の提供	その他	無回答
全体 (n=907)	59.4%	58.8%	57.3%	55.8%	50.4%	47.4%	41.0%	32.4%	29.4%	29.0%	25.6%	25.5%	23.3%	3.6%	3.6%
10歳代(全体) (n=14)	28.6%	78.6%	57.1%	85.7%	50.0%	50.0%	42.9%	50.0%	35.7%	42.9%	14.3%	14.3%	35.7%	7.1%	0.0%
20歳代(全体) (n=58)	36.2%	72.4%	69.0%	63.8%	41.4%	34.5%	65.5%	24.1%	25.9%	31.0%	29.3%	29.3%	25.9%	6.9%	1.7%
30歳代(全体) (n=87)	48.3%	73.6%	56.3%	67.8%	34.5%	39.1%	55.2%	20.7%	27.6%	23.0%	26.4%	26.4%	21.8%	3.4%	2.3%
40歳代(全体) (n=123)	50.4%	65.9%	61.8%	52.8%	45.5%	52.0%	49.6%	29.3%	31.7%	26.0%	22.8%	21.1%	17.9%	2.4%	3.3%
50歳代(全体) (n=169)	67.5%	64.5%	59.8%	58.6%	58.6%	58.0%	39.1%	25.4%	33.1%	27.2%	23.7%	23.7%	24.3%	6.5%	2.4%
60歳代(全体) (n=189)	61.9%	59.8%	55.0%	59.3%	54.5%	54.0%	38.6%	35.4%	30.2%	31.7%	25.9%	23.8%	26.5%	3.7%	3.7%
70歳代(全体) (n=161)	69.6%	42.9%	57.8%	41.6%	57.8%	39.8%	28.6%	36.6%	26.1%	29.8%	29.2%	26.1%	19.9%	1.9%	5.6%
80歳代以上(全体) (n=100)	63.0%	40.0%	45.0%	49.0%	41.0%	37.0%	31.0%	47.0%	26.0%	29.0%	24.0%	34.0%	24.0%	1.0%	6.0%

男性 (n=408)	55.1%	58.8%	56.1%	54.4%	48.3%	44.9%	42.4%	38.0%	29.4%	27.7%	28.9%	25.2%	24.0%	5.1%	2.5%
10歳代(男性) (n=6)	33.3%	66.7%	50.0%	83.3%	33.3%	50.0%	66.7%	50.0%	50.0%	50.0%	16.7%	16.7%	50.0%	16.7%	0.0%
20歳代(男性) (n=30)	40.0%	73.3%	66.7%	53.3%	33.3%	33.3%	66.7%	26.7%	20.0%	30.0%	30.0%	20.0%	23.3%	10.0%	0.0%
30歳代(男性) (n=34)	55.9%	73.5%	58.8%	64.7%	38.2%	41.2%	64.7%	17.6%	26.5%	26.5%	29.4%	17.6%	26.5%	5.9%	0.0%
40歳代(男性) (n=51)	41.2%	68.6%	68.6%	54.9%	49.0%	51.0%	43.1%	33.3%	33.3%	21.6%	21.6%	21.6%	19.6%	2.0%	2.0%
50歳代(男性) (n=72)	62.5%	65.3%	52.8%	59.7%	52.8%	55.6%	43.1%	36.1%	36.1%	27.8%	27.8%	22.2%	30.6%	11.1%	1.4%
60歳代(男性) (n=86)	54.7%	58.1%	53.5%	55.8%	50.0%	45.3%	38.4%	44.2%	27.9%	27.9%	27.9%	23.3%	24.4%	3.5%	5.8%
70歳代(男性) (n=80)	63.8%	48.8%	56.3%	45.0%	56.3%	42.5%	30.0%	40.0%	27.5%	32.5%	38.8%	33.8%	21.3%	2.5%	2.5%
80歳代以上(男性) (n=49)	57.1%	36.7%	44.9%	49.0%	42.9%	34.7%	34.7%	51.0%	26.5%	22.4%	24.5%	32.7%	18.4%	2.0%	2.0%

女性 (n=487)	62.6%	58.7%	57.9%	56.5%	51.7%	49.1%	39.8%	27.7%	29.2%	29.6%	22.4%	25.5%	22.4%	2.5%	4.5%
10歳代(女性) (n=8)	25.0%	87.5%	62.5%	87.5%	62.5%	90.0%	25.0%	50.0%	25.0%	37.5%	12.5%	12.5%	25.0%	0.0%	0.0%
20歳代(女性) (n=28)	32.1%	71.4%	71.4%	75.0%	50.0%	35.7%	64.3%	21.4%	32.1%	32.1%	28.6%	39.3%	28.6%	3.6%	3.6%
30歳代(女性) (n=52)	44.2%	75.0%	55.8%	71.2%	32.7%	38.5%	50.0%	23.1%	26.9%	19.2%	25.0%	30.8%	19.2%	1.9%	3.8%
40歳代(女性) (n=71)	56.3%	63.4%	56.3%	50.7%	42.3%	52.1%	53.5%	26.8%	31.0%	29.6%	22.5%	19.7%	16.9%	2.8%	4.2%
50歳代(女性) (n=96)	71.9%	64.6%	65.6%	58.3%	63.5%	60.4%	36.5%	17.7%	31.3%	27.1%	20.8%	25.0%	19.8%	3.1%	2.1%
60歳代(女性) (n=103)	68.0%	61.2%	56.3%	62.1%	58.3%	61.2%	38.8%	28.2%	32.0%	35.0%	24.3%	24.3%	28.2%	3.9%	1.9%
70歳代(女性) (n=79)	74.7%	36.7%	58.2%	36.7%	58.2%	35.4%	26.6%	32.9%	24.1%	26.6%	17.7%	19.0%	17.7%	1.3%	8.9%
80歳代以上(女性) (n=49)	67.3%	42.9%	44.9%	49.0%	38.8%	38.8%	28.6%	44.9%	26.5%	36.7%	24.5%	36.7%	30.6%	0.0%	10.2%

<就労形態>

(複数回答)

	介護サービスの充実	育児休業制度の充実・労働環境の整備	子育て支援	子育てに関する施設やサービスの充実	介護等で退職した人の再就職支援	介護休業制度の充実・労働環境の整備	働き方の見直し支援	学習機会等の充実	DV被害者の支援	女性の取り組みに対する暴力防止への取り組み	民間企業・団体等の管理職への女性登用支援	女性の積極的登用	生活委員や管理職への積極的登用	生活委員や管理職への積極的登用	生活委員や管理職への積極的登用	その他	無回答
無職・学生・家事専業(全体) (n=328)	64.0%	49.4%	53.4%	54.6%	50.9%	45.3%	34.8%	37.5%	27.7%	29.9%	25.3%	27.1%	23.5%	1.2%	4.6%		
常勤(全体) (n=322)	55.0%	68.3%	61.5%	58.7%	49.1%	48.1%	50.6%	28.3%	32.6%	28.0%	30.4%	27.3%	23.0%	5.3%	2.8%		
パート・アルバイト(全体) (n=126)	60.3%	63.5%	61.1%	54.8%	53.2%	50.8%	36.5%	26.2%	29.4%	30.2%	16.7%	19.8%	20.6%	5.6%	2.4%		
任期付き契約社員・派遣社員(全体) (n=37)	62.2%	54.1%	51.4%	48.6%	45.9%	70.3%	51.4%	32.4%	32.4%	32.4%	18.9%	21.6%	29.7%	5.4%	0.0%		
自営・フリーランス(全体) (n=85)	54.1%	52.9%	54.1%	51.8%	48.2%	35.3%	29.4%	36.5%	21.2%	23.5%	24.7%	22.4%	22.4%	3.5%	7.1%		

(n=898)

無職・学生・家事専業(男性) (n=122)	60.7%	51.6%	50.0%	52.5%	47.5%	44.3%	36.1%	49.2%	32.8%	29.5%	30.3%	31.1%	27.0%	1.6%	2.5%
常勤(男性) (n=195)	52.3%	66.7%	61.5%	57.9%	47.7%	46.2%	49.7%	32.3%	31.3%	26.2%	29.7%	23.1%	23.6%	6.7%	2.1%
パート・アルバイト(男性) (n=22)	50.0%	54.5%	50.0%	36.4%	54.5%	45.5%	31.8%	36.4%	27.3%	31.8%	31.8%	27.3%	31.8%	13.6%	4.5%
任期付き契約社員・派遣社員(男性) (n=14)	71.4%	50.0%	35.7%	50.0%	50.0%	64.3%	50.0%	42.9%	14.3%	28.6%	7.1%	14.3%	14.3%	14.3%	0.0%
自営・フリーランス(男性) (n=54)	50.0%	51.9%	59.3%	53.7%	48.1%	37.0%	33.3%	33.3%	20.4%	27.8%	27.8%	22.2%	18.5%	1.9%	3.7%

(n=407)

無職・学生・家事専業(女性) (n=205)	65.9%	48.3%	55.1%	55.8%	52.7%	46.3%	34.1%	30.7%	24.4%	29.8%	22.0%	24.9%	21.5%	1.0%	5.9%
常勤(女性) (n=124)	59.7%	71.8%	61.3%	60.5%	51.6%	51.6%	52.4%	22.6%	34.7%	30.6%	31.5%	33.1%	22.6%	3.2%	3.2%
パート・アルバイト(女性) (n=104)	62.5%	65.4%	63.5%	58.7%	52.9%	51.9%	37.5%	24.0%	29.8%	29.8%	13.5%	18.3%	18.3%	3.8%	1.9%
任期付き契約社員・派遣社員(女性) (n=23)	56.5%	56.5%	60.9%	47.8%	43.5%	73.9%	52.2%	26.1%	43.5%	34.8%	26.1%	26.1%	39.1%	0.0%	0.0%
自営・フリーランス(女性) (n=29)	58.6%	51.7%	41.4%	44.8%	44.8%	27.6%	20.7%	41.4%	24.1%	17.2%	17.2%	24.1%	27.6%	6.9%	13.8%

(n=485)